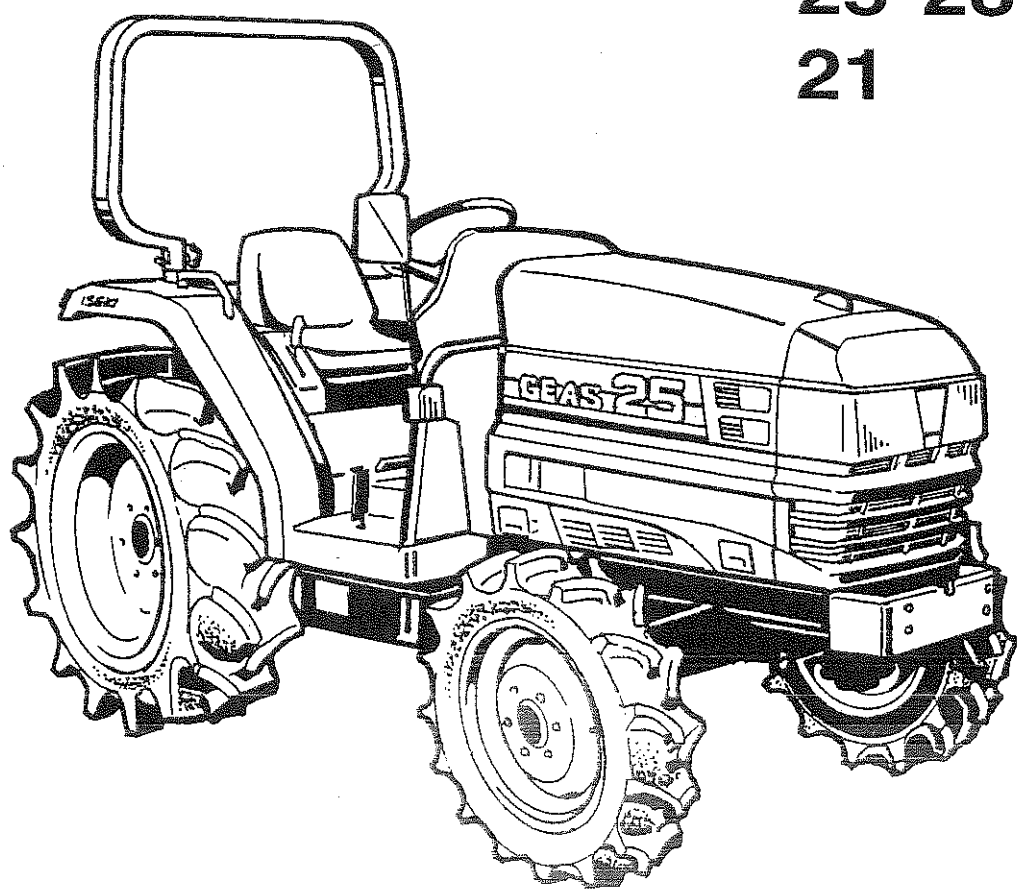
セセキトラクタ

取扱説明書

GEAS

シリーズ

TG33 31
29 27
25 23
21



ご使用前に必ずお読みください。

井関農機株式会社

トラクタ重要安全ポイント

1．道路を走行するときは、
左右のブレーキペダルを連結します。

2．農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩に注意します。

3．ほ場へ出入りするときは、
スピードを落としあぜに直角に走行します。

4．トラクタや作業機を点検調整するときは、必ずエンジンを止め、
パーキングブレーキをかけ、油圧ロックをします。

5．補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。

はじめに

●この度は、キセキトラクタをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。

●この説明書は、トラクタを使用する際に是非、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、トラクタを適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●トラクタを初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。

●トラクタを貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をトラクタに添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店・農協にご注文ください。

●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。
その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本トラクタと一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。

●取扱説明書の中の ⚠ 重要 表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

●この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のトラクタについて併記してあります。お買いあげいただいた、トラクタの型式・区分名を、機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

型式記号	装　備　内　容	型式記号	装　備　内　容
U	パワーステアリング	CY	エアコンキャブ
K	スーパーフルターン	04	ローラグタイヤ
V	IQ4駆	06	大径ラジアルタイヤ
G	パワーステアリング インディペンデントPTO	15	ターフタイヤ
S	パワーステアリング IQシフト	16	大径タイヤ
WX	電子油圧	02	狭幅ハイラグタイヤ
A	短ロアリンク	08	広幅ローラグタイヤ

目　　次

⚠ 安全のポイント …… 1

小型特殊自動車としての取扱い …… 1
安全な作業をするために …… 3
安全表示ラベルについて …… 16
安全表示ラベル貼付位置 …… 17
電装関係を扱うときは …… 18

保証とサービスについて …… 21

安全フレーム・キャビンの取扱い …… 22

安全作業について …… 22
安全フレームのたおしかた・おこしかた …… 23

運転のしかた …… 24

計器およびスイッチの取扱い …… 24
レバー・ペダル・シート関係の取扱い …… 32
トラクタ使用前の点検について（始業点検） …… 40
運転操作の要領 …… 41
エンジンの始動 …… 41
エンジンの停止 …… 42
暖機運転 …… 42
発進・走行・変速のしかた …… 43
制動および駐車 …… 45

作業のしかた …… 46

油圧装置の取扱い …… 46
３点リンクの取扱いと作業機の取付け・取外し …… 47
電子油圧装置の取扱い（ＷＸ型式） …… 51
作業運転のしかた …… 62
輪距の調節 …… 67

点検整備 …… 68
定期点検整備箇所一覧表 …… 68
給油・給水一覧表 …… 70
点検と清掃 …… 72
電気系統の点検と清掃 …… 79
調整のしかた …… 82
格納時の取扱い …… 85
不調時の処置 …… 87
キャビン型式の取扱い …… 97
計器およびスイッチの取扱い …… 97
エアコンの取扱い …… 101
定期点検・整備箇所一覧表 …… 103
エアコン用ファンベルトの点検・調整 …… 103
ＴＧキャビン、エアコンフィルタの清掃要領 …… 104
不調時の処置 …… 105
農作業を安全に行なうために …… 107
サービス資料 …… 113
推奨潤滑油一覧表 …… 113
主要諸元 …… 114
走行速度表 …… 117
主な消耗部品一覧表 …… 119
標準付属品一覧表 …… 120
注文部品一覧 …… 121
索　引 …… 122

⚠ 安全のポイント

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

小型特殊自動車としての取扱い

⚠ **このトラクタは、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として、道路走行車両の型式認定を受けております。ご使用の際は以下の点を遵守してください。**

■小型特殊自動車とは

(1) 小型特殊自動車は、法で定められた右記の条件を満足していなければなりません。次のようなことは絶対にしないでください。

①トラクタ各部構造の改造。
②型式の異なるエンジンの搭載。
③届出タイヤ以外のタイヤの装着。
④各封印部分の開封。

これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証は致しませんのでご注意ください。

車体の大きさ	全長	4．7ｍ以下
	全幅	1．7ｍ以下
	全高	2．0ｍ以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500CC以下

(2) 道路では、必ず次の輪距で走行してください。これ以外の輪距や作業機をとりつけたままでの道路走行は違法となります。

	機種	型式	タイヤサイズ	輪距（mm）
前輪	TG21		6-14	960
		06	7-14	1080
	TG23		7-14	1080
		06	7-16	1080
	TG25		7-16	1080
		N	6-12	990
	TG27		7-16	1080
		15	212／80D-15PD	1120
	TG29		8-16	1140
		16	8-16	1210
	TG31		8-16	1140
	TG33		8-16	1140
		15	212／80D-15PD	1120

	機種	型式	タイヤサイズ	輪距（mm）
後輪	TG21		9.5-22	1010
		06	9.5R-24	1010
	TG23		9.5-24	1010
		06	11.2R-24	1050
	TG25		11.2-24	1050
		N	9.5-22	1010
	TG27		11.2-26	1050
		04	12.4-24	1050
		15	355／80D-20PD	1120
	TG29		12.4-24	1050
		16	11.2-28	1220
		02	11.2-26	1050
	TG31		12.4-26	1100
		02	11.2-28	1100
		08	13.6-24	1100
	TG33		13.6-24	1100
		04	13.6-24	1100
		15	355／80D-20PD	1100
		02	11.2-28	1100

(3) 注文部品の作業灯を装着された場合。この作業灯を点灯したまま路上を走行することは違法行為となります。

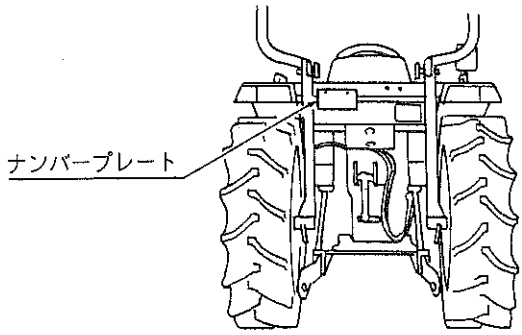
■市町村役場への届出とナンバープレートの取付

(1) このトラクタの所有者となられた方は、市町村条令の定めにより市町村役場に届け出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

(2) 届出には、小型特殊自動車取得証明書（「お買いあげ先」で準備致します）と、軽自動車税および印鑑を添えて提出してください。
尚、届出の手続きは、市町村により多少異なることがありますので、詳細は「お買いあげ先」にご相談ください。

(3) 交付されたナンバープレートは、トラクタ後部のナンバープレート取付場所に確実に取り付けてください。

ナンバープレート取付位置



■運転免許証の携帯

このトラクタを運転し、路上走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。
また、牽引して路上を走行する場合、牽引する車両の総重量が750kgをこえる場合は、牽引免許が必要となります。

■保険について

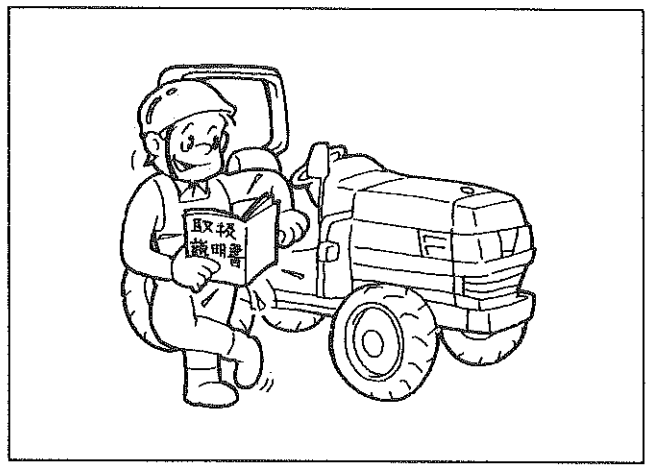
農作業用の小型特殊自動車には、自動車損害賠償責任保険を付保することができません。万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

安全な作業をするために

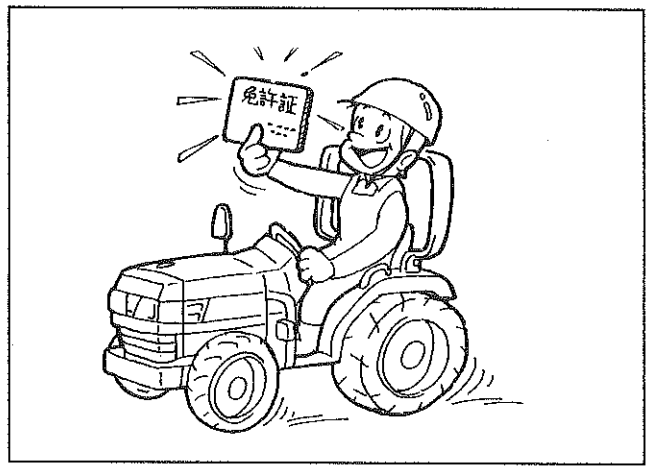
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

■運転者の条件

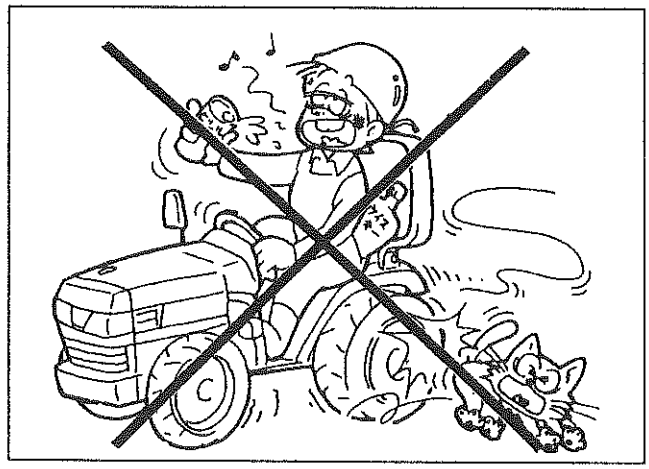
この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。



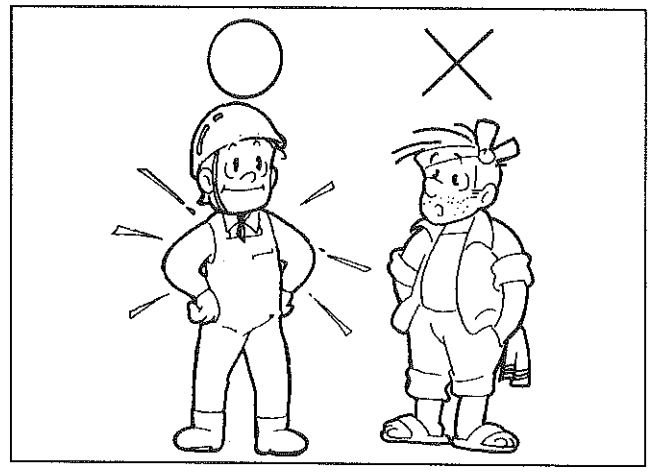
このトラクタの運転には、小型特殊自動車の運転免許が必要です。運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。



飲酒時や過労ぎみの時、作業をしてはいけません。このようなとき作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業するときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。



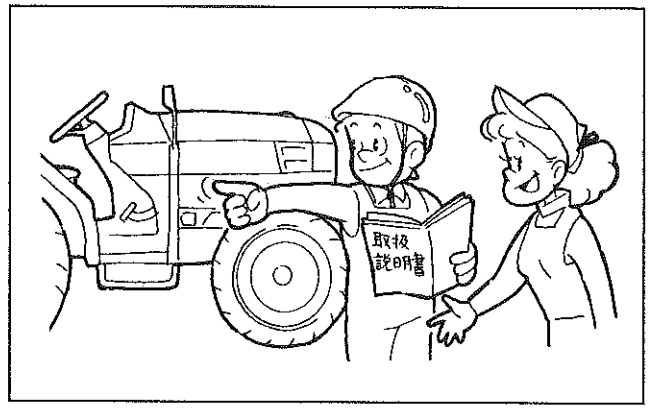
服装は作業に適したものを着てください。
服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれたり、靴がスリップしたりして大変危険です。
ヘルメットや適正な保護具も着用してください。



妊娠している人、18才未満の人は運転をしないでください。

■人に機械を貸すときは

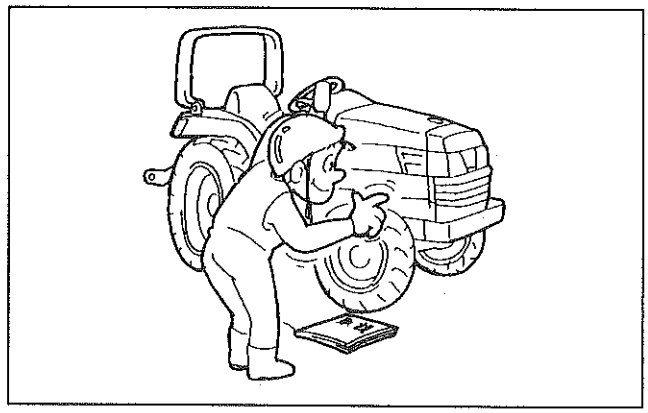
機械を貸すときは、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



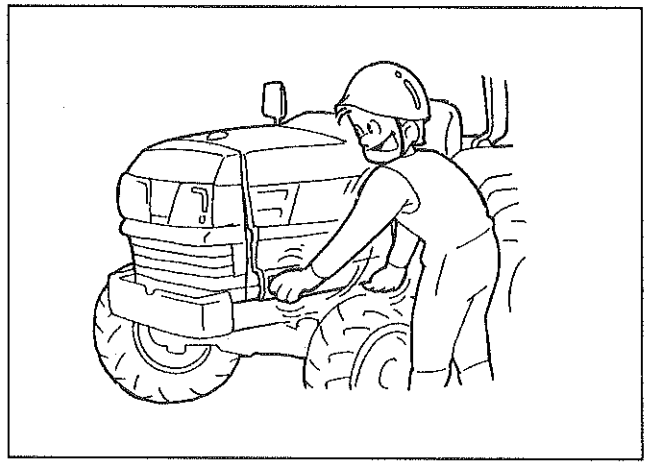
■作業を開始する前に

(1) 無理、無駄のないゆとりある作業計画をたてましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

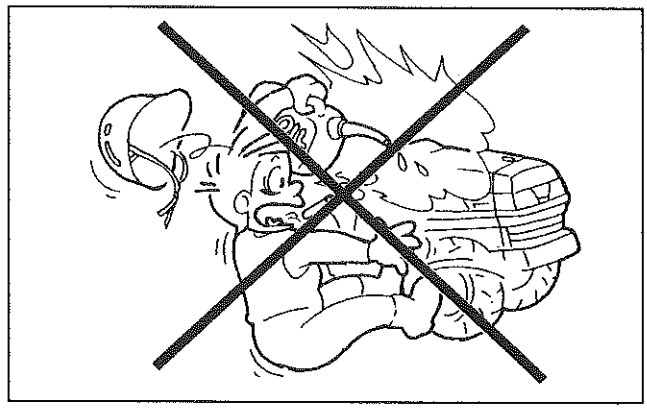
(2) 作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行なってください。
特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



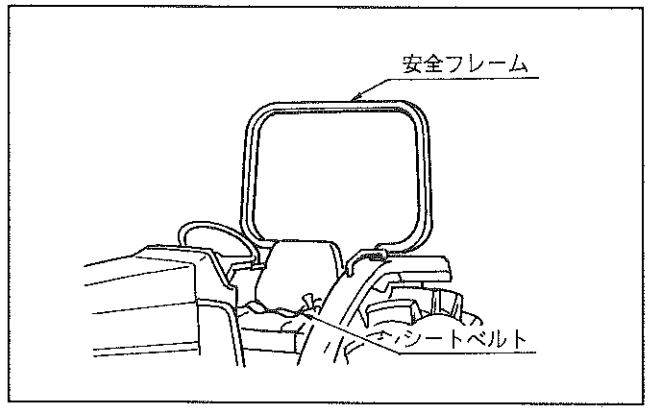
(3) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外れたままエンジンをかけたり、作業を行なうと危険な部分が露出して大変危険です。



(4) 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。

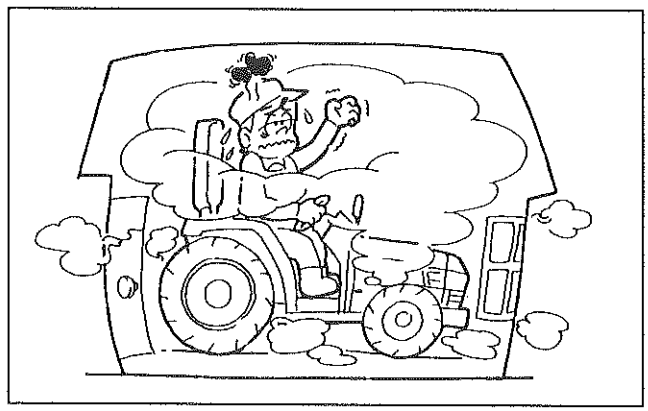


(5) トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態で装着し、必ずシートベルトを着用してください。
怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

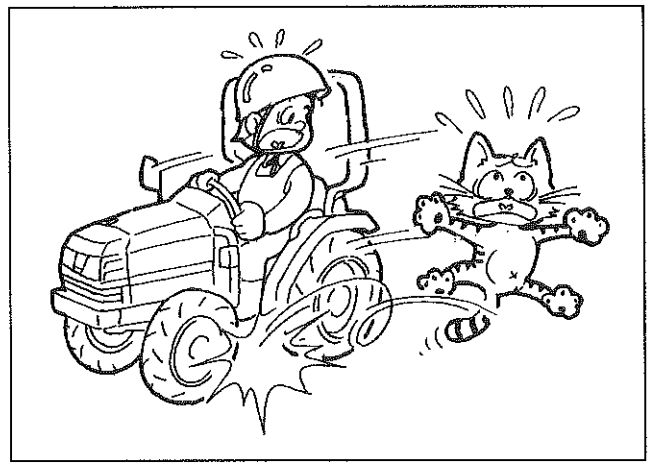


■エンジンの始動と発進

(1) 室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



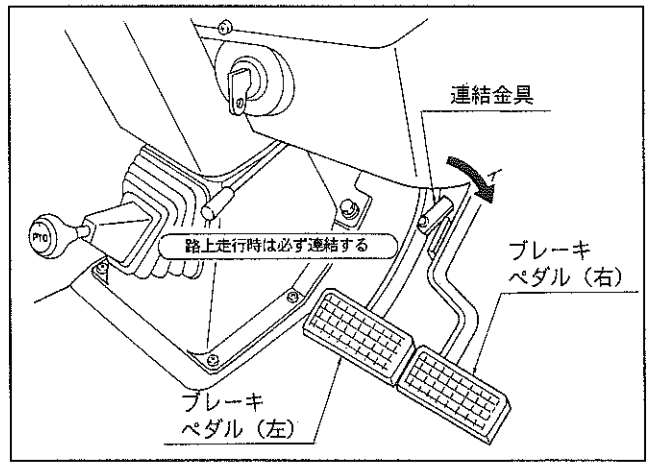
(2) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。確認を怠ると、急発進したりして大変危険です。



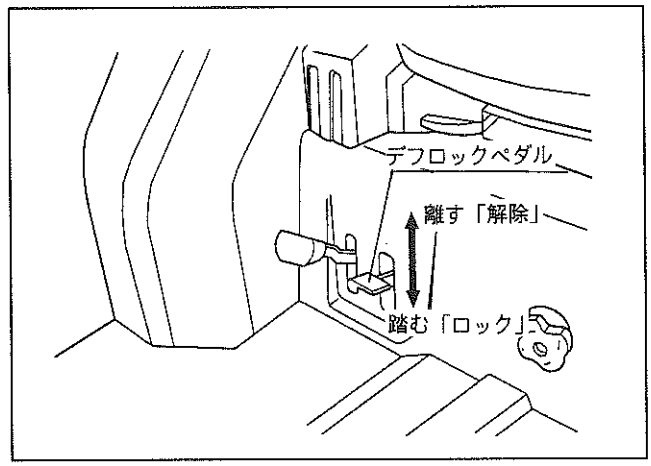
(3) 発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
（特に子供に注意してください。）

■走行するときは

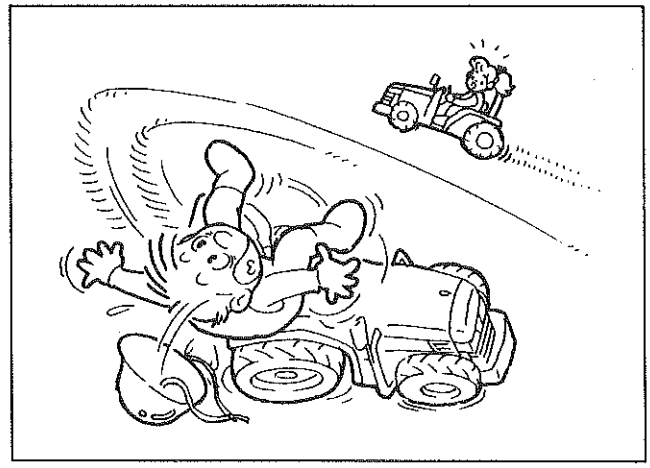
(1) 道路走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。連結を忘れると、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こします。



(2) 道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。
解除していないと転倒事故を引き起こします。



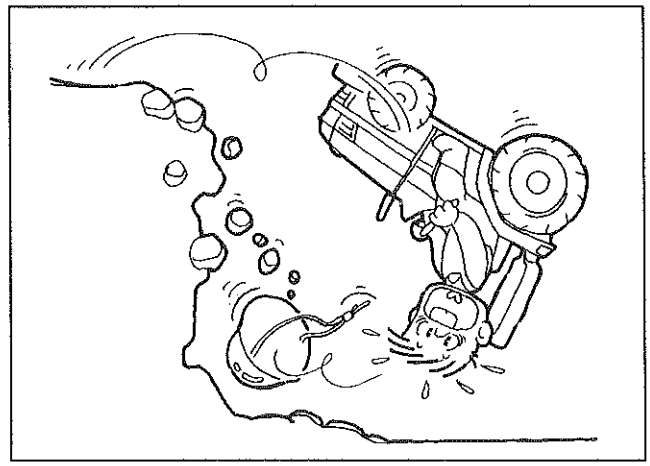
(3) 高速で急旋回しないでください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。



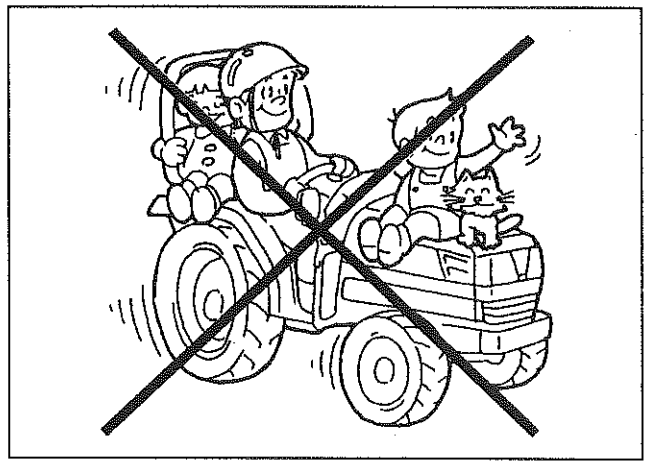
(4) 坂道では、急な旋回をしてはいけません。
急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。
また坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけ、決して変速レバーを中立状態にしないようにしてください。足ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップや転倒の原因になり大変危険です。

(5) 凹凸の激しい道路での高速走行は、しないでください。路面状態に応じた安全な速度で走行してください。
これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

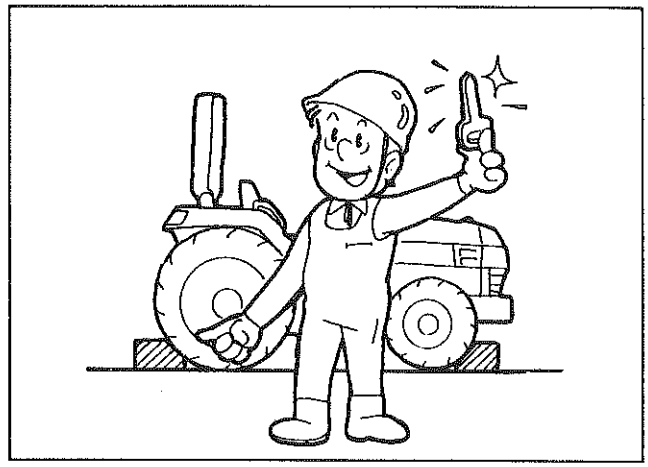
(6) 側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。路肩が崩れて、転倒したりして大変危険です。



(7) トラクタの上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。
人が転落したりして大変危険です。



(8) トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
また、止めるところは、広い地面の硬い場所を選んでください。トラクタが、自然に動き出したりして大変危険です。



(9) トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因になる恐れがあります。

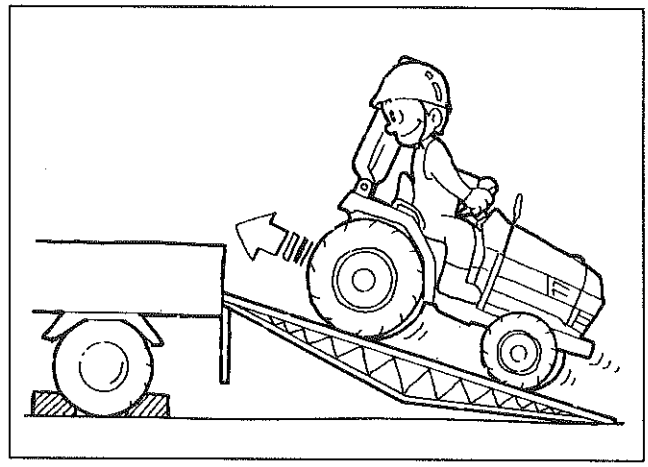
(10) 夜間にトラクタの運転をするときは、変速レバーやその他レバー・ペダル類の位置の確認を、特に注意して行なってください。十分な確認をしないと、予想外の作動をしたりして大変危険です。

■トラックへの積み・降ろし

(1) 積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「１速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行なってください。これを怠ると、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

(2) 誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行なってください。また、機械の直前や直後には、絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり大変危険です。

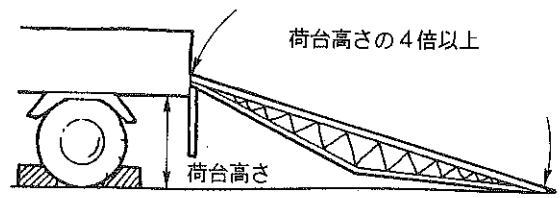
(3) 積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行なってください。これを怠ると、転落事故の原因になり大変危険です。



(4) アユミは、基準以上のものを使用しトラクタの重量でアユミが傾かない場所を選んでください。

〈アユミの基準〉

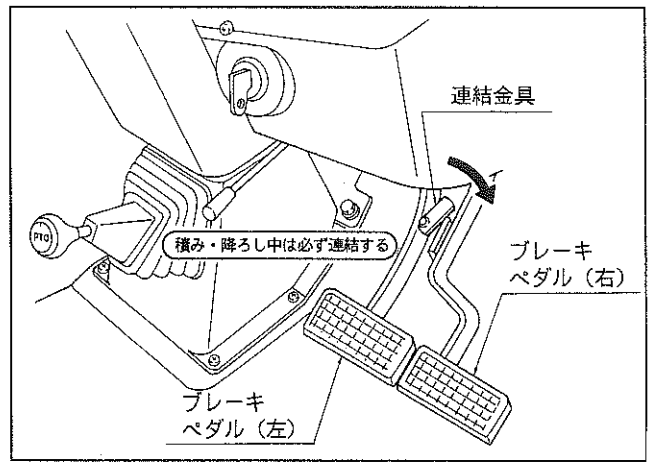
○長さ



○ 幅 ：35cm以上
○強度：1700kg以上（１本当り）
○すべり止めの処理があること。

(5) アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。また、万一にそなえて、トラクタの周りには人を近づけないでください。

(6) 積み・降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。
また、主クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしてはいけません。機体が横ブレして、転落事故の原因になり大変危険です。

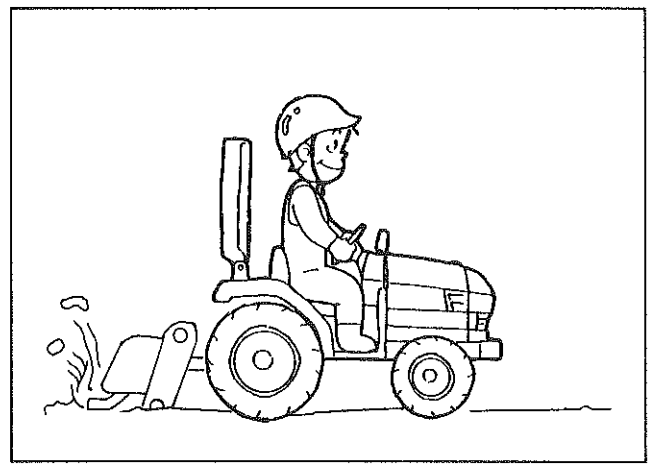


(7) 万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行なってください。

(8) トラック等で運搬するときは、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

■作業中は

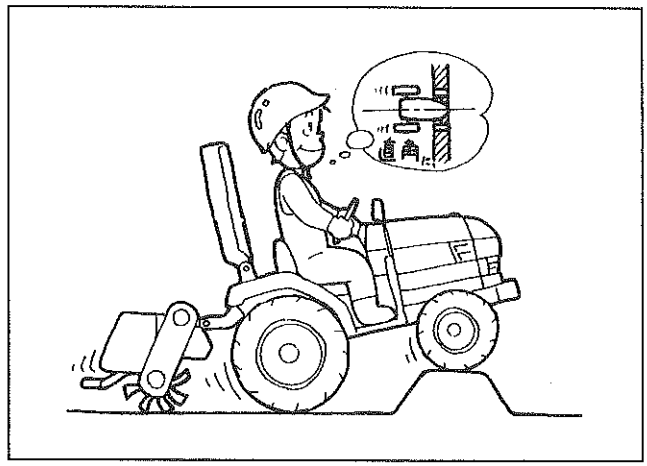
(1) 作業中は、作業者以外の人を機械に近づけてはいけません。機械自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



(2) 作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行なってください。怠ると、傷害事故の原因になり大変危険です。

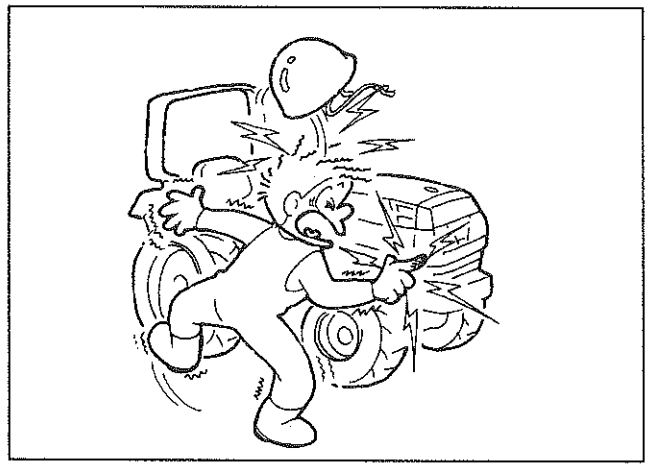
(3) 畦を横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、畦と直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。

(4) 畦の高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミを使用してください。
使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。



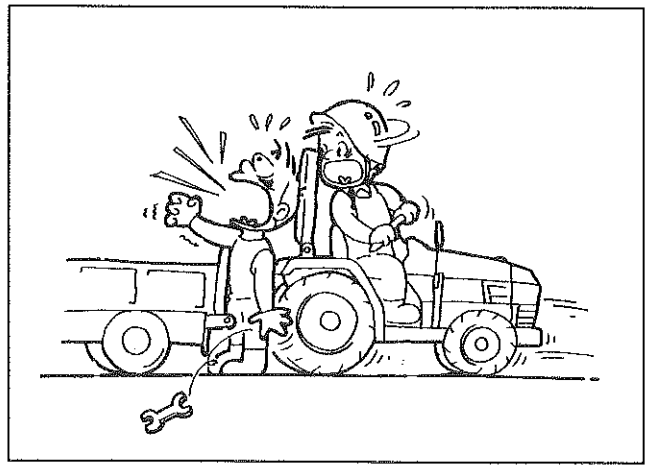
(5) 回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリ端子などの通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。傷害事故の原因となり大変危険です。

(6) けん引作業は、トラクタ用純正ドローバを使用してください。けん引はこのトラクタに合った作業機を使用してください。適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になり大変危険です。
不明な点がありましたら、購入先に相談し、無理なけん引は避けてください。



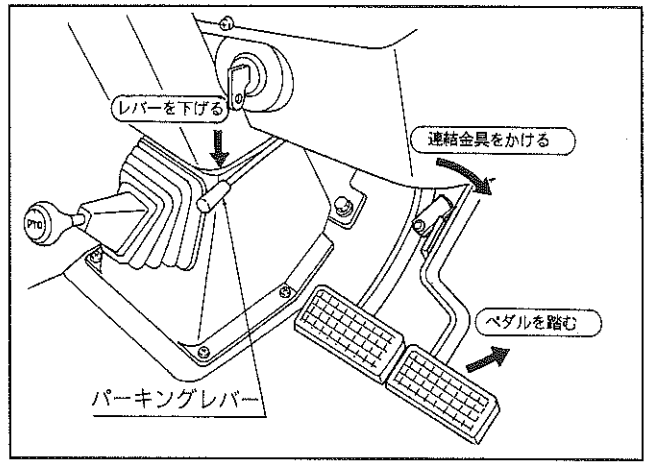
(7) 作業機の取付け取外しは、トラクタと作業機の間に立ってしないで、脇から扱うようにしてください。トラクタと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を起こす恐れがあり大変危険です。

(8) 夜間作業をされる方には作業灯（注文部品）の装着をお勧めいたします。
道路走行中には絶対に作業灯を点灯しないでください。

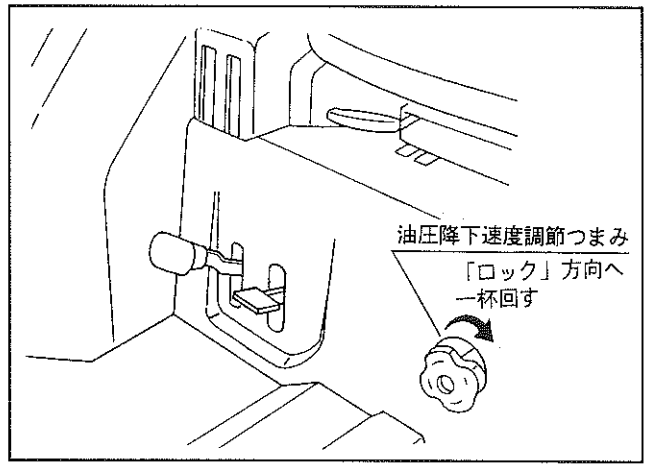


■点検・整備

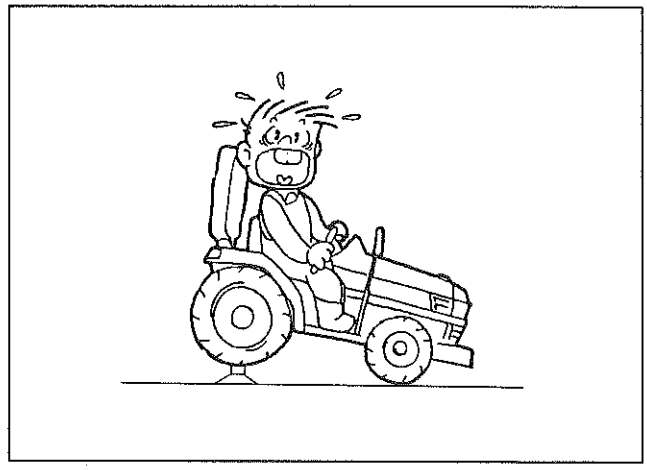
(1) 点検・整備するときは、明るく平たんな広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



(2) 必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行なってください。怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりして大変危険です。

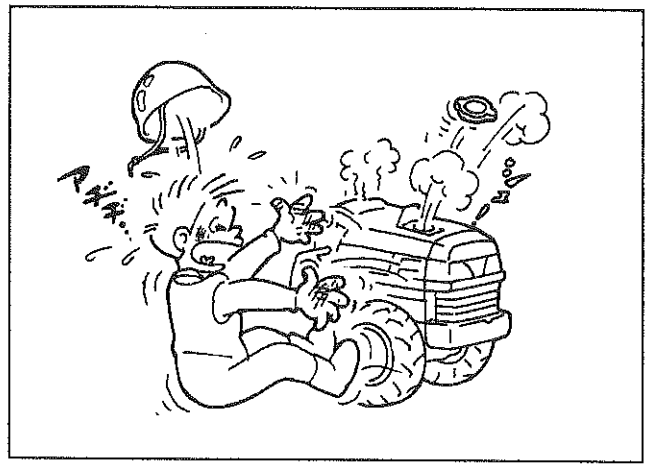


(3) 後輪のみジャッキアップしてエンジンを始動しないでください。自動的に4駆状態となり、転倒事故を引き起こし大変危険です。



(4) 適正な工具を正しく使用して行なってください。間に合わせの工具で行なうと、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。

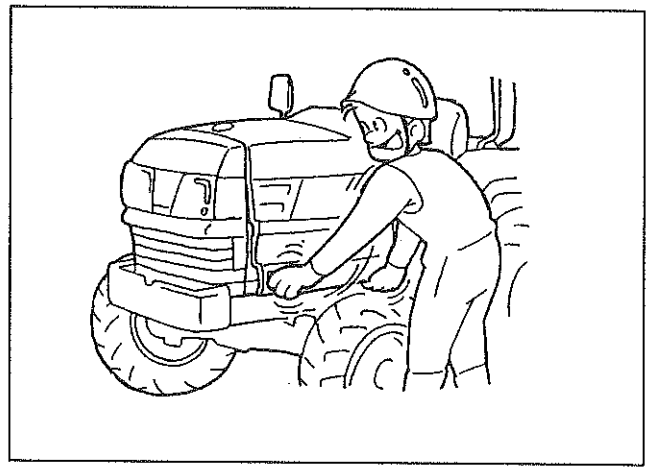
(5) エンジンを切ってすぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。怠ると、やけどなどの原因になります。



(6) ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから注意しつつ開けてください。怠ると、熱湯が噴出してやけどをする危険があります。

(7) 指定以外のアタッチメントの取付けや、改造は、絶対にしてはいけません。
故障や、事故の原因になり大変危険です。

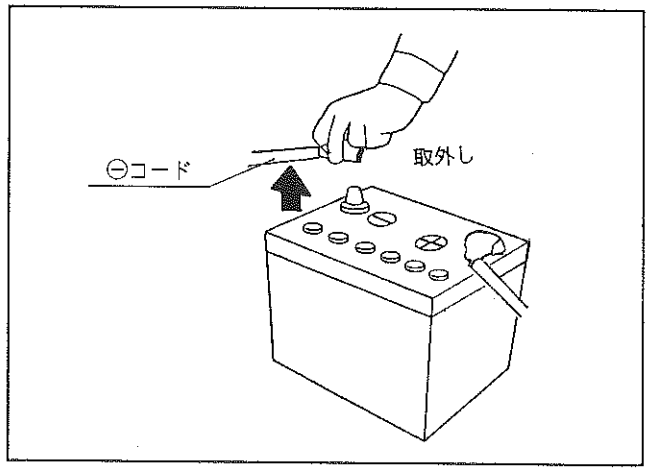
(8) 点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因になり大変危険です。



■格納・保管時は

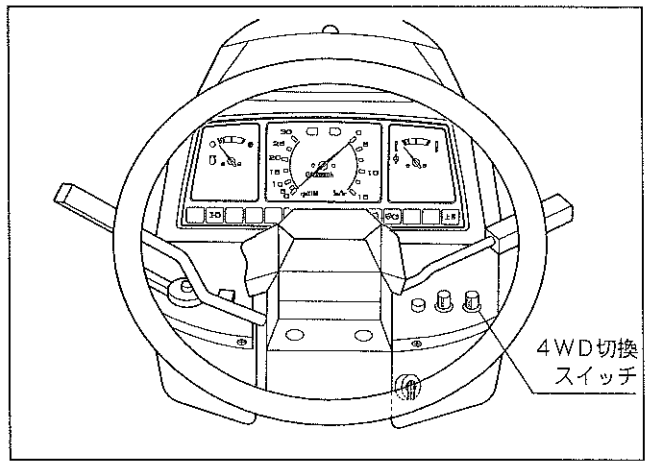
(1) 作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

(2) 長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因になり大変危険です。



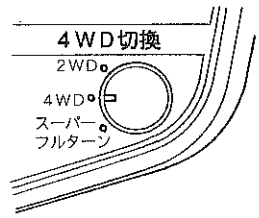
■スーパーフルターン（K型式）取扱いの注意

(1) 路上走行時は、4WD切換スイッチを「2WD」か「４WD」位置にしてください。怠ると転倒事故の原因になり大変危険です。



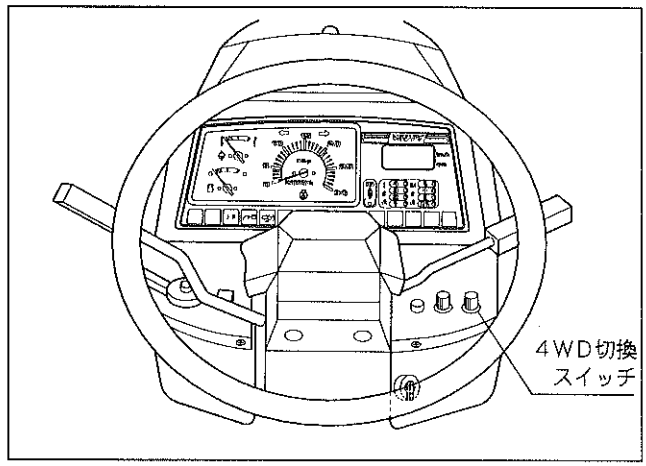
(2) ほ場の出入り・積み・降ろしは、４WD切換スイッチを「４WD」位置にして行なってください。怠ると転倒事故の原因になり大変危険です。

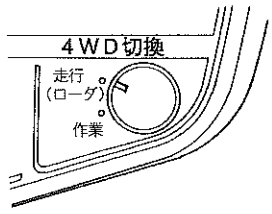
(3) フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、４WD切換えスイッチを「スーパーフルターン」位置にして行なわないでください。トラクタの故障や思わぬ事故の原因になる恐れがあります。



■ＩＱ４駆（V型式）取扱いの注意

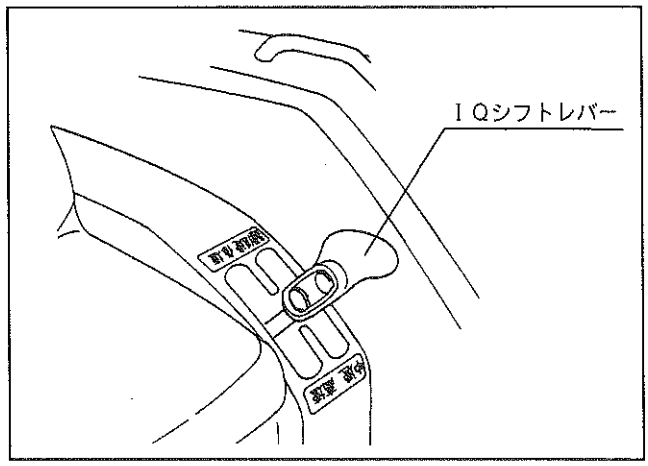
(1) 路上走行等の高速作業、ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろし、急傾斜地作業やフロントローダ作業等の前輪に重荷重がかかる作業は、４WD切換スイッチを「走行（ローダ）」位置にして行なってください。怠ると、転倒事故の原因になり大変危険です。

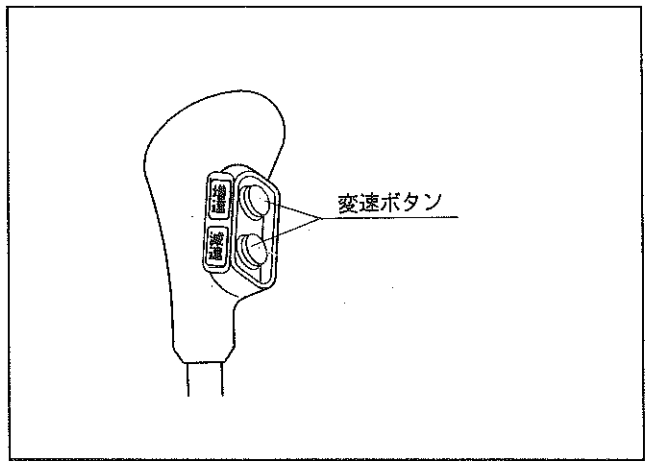




■ＩＱシフト（Ｓ型式）取扱いの注意

(1) 急な登り坂や、下り坂、トラックへの積み・降ろし、畦の乗り越え途中での変速ボタン操作は、しないでください。あらかじめ低速で安全な変速位置に入れて使用してください。これを守らないと、前輪の浮き上りや、転倒の原因となり大変危険です。

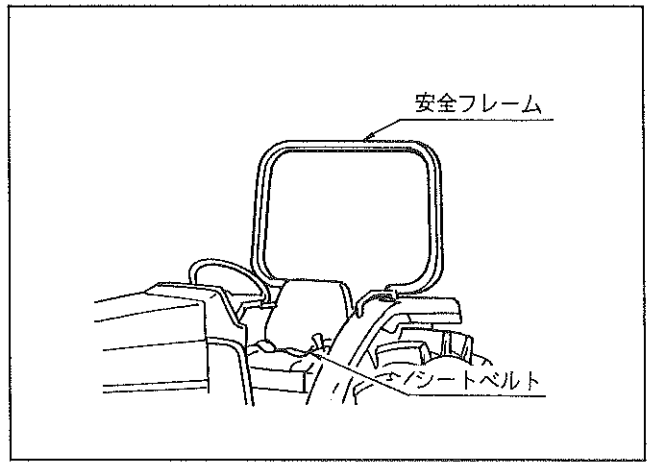




ＩＱシフト（Ｓ型式）の使い方については、65ページを参照してください。

■安全フレーム・キャビンの取扱い

安全フレーム・キャビンは、正しく装着された状態で運転してください。
トラクタを使用する時は、確実に安全フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを装着してください。
これを怠ると、転倒したときに重大事故を起こすことがあります。



安全フレーム・キャビンは安全作業上大切な装備ですので、22ページの「安全フレーム・キャビンの取扱い」をお読みください。

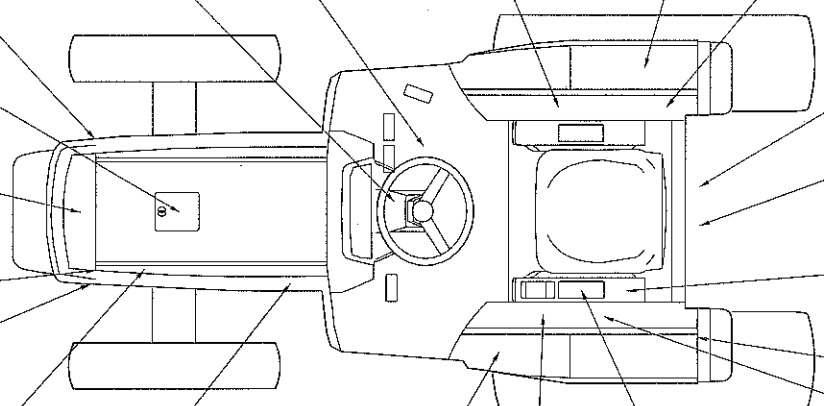
安全表示ラベルについて

●本機には、安全に作業をしていただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。

●安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。

●泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。

●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげいただいた販売店・農協へ注文してください。



警告
スーパーフルターンの取扱い
使用法を誤ると危険ですので、次のことを必ず守ってください。守らないと、転倒や故障の原因になります。
1. 路上走行時は4WD切換スイッチを「2WD」か「4WD」位置で走行してください。
2. ほ場の出入り、積み・降ろしは、4WD切換スイッチを「4WD」位置にしてください。
3. フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業には使用しないでください。
1650-902-033-1

1650−902−033−1
ラベル（ケイコク／スーパーフルターン）
K型

警告
IQ4駆の取扱い
下記の場合には、メータパネル右側のスイッチを「走行」位置で作業を行ってください。守らないと、転倒や故障の原因になります。
1. 路上走行等の高速作業
2. ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろし、急斜面地作業
3. フロントローダ作業
1650-902-017-1

1650−902−017−1
ラベル（ケイコク／IQ4WD）
V型

警告
作業時以外のとき　駐車及び路面走行のとき
左ペダル　連結金具　右ペダル　ブレーキペダル
ブレーキペダルの連結
ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。
道路走行のときは、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
1650-903-004-1

1650−903−004−1
ラベル（ケイコク／ブレーキ）

警告
エンジン停止時はパーキングブレーキを確実にかけてください。
これを守らないと、坂道などでトラクタが動き出し、事故の原因となり、大変危険です。
1656-903-004-1

1656−903−004−1
ラベル（ケイコク／パーキング）
S型　（CY型は左ドア内側）

警告
1. ロプスやキャビンは、正しく装着された状態で使用してください。
2. ロプスやキャビンは、改造しないでください。
3. ダメージを受けたものは使用しないでください。
4. トラクターが転倒するときは、ハンドルをしっかりにぎり、頭より腕は出さないでください。
5. シートベルトは必ず締め、最適な状態に調整してください。
6. シートベルトは特定品を御使用ください。
7. 可倒式ロプスを倒した時は、シートベルトは締めないでください。
1668-904-014-1

1668−904−014−1
ラベル（ケイコク／ロプス）

注意
トラクターの運転操作をする前に必ず取扱説明書をよくお読み下さい。
1. エンジンを始動する時は、周囲の安全を十分に確認してください。
2. エンジン始動の前に、各部の安全カバー、保護装置が正しく取り付けてあることを確認してください。
3. 手、足、衣服などが回転部分に接近しないように十分注意してください。
4. デフロックが自動的に掛けないときには、直ちにクラッチペダルを踏み込んでトラクターを停止させてください。
5. 高速走行中はデフロックを使用しないでください。
6. 路上走行中は、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
7. トラクターよりはなれるときは、パーキングブレーキを確実にかけ、作業機をおろし、エンジンを停止し、始動キーを抜いてください。
8. 作業機をトラクターにセットする際は、トラクターの前後輪軸荷重前置をこえないようにしてください。
9. 前輪・後輪のハブナット、リムボルトが正しく締付けられていることを点検・増締してください。ゆるんでいる場合は、確実にしめてください。
10. 路上走行中は、灯火類を法令に従い点灯してください。ワークランプは、必ず消してください。
1668-904-001-1
3704 687 M2

1668−904−001−1
ラベル（チユウイ／ドライブ）

注意
トラクターの運転操作をする前に必ず取扱説明書をよくお読み下さい。
1. エンジンを始動する時は、周囲の安全を十分に確認してください。
2. エンジン始動の前に、各部の安全カバー、保護装置が正しく取り付けてあることを確認してください。
3. 手、足、衣服などが回転部分に接近しないように十分注意してください。
4. デフロックが自動的に掛けないときには、直ちにクラッチペダルを踏み込んでトラクターを停止させてください。
5. 高速走行中はデフロックを使用しないでください。
6. 路上走行中は、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
7. トラクターよりはなれるときは、パーキングブレーキを確実にかけ、作業機をおろし、エンジンを停止し、始動キーを抜いてください。
8. 作業機をトラクターにセットする際は、トラクターの前後輪軸荷重前置をこえないようにしてください。
9. 前輪・後輪のハブナット、リムボルトが正しく締付けられていることを点検・増締してください。ゆるんでいる場合は、確実にしめてください。
10. 路上走行中は、灯火類を法令に従い点灯してください。ワークランプは、必ず消してください。
1650-903-002-1

CY型　1650−903−002−1
ラベル（チユウイ／ドライブ／CY）

警告
エンジンが高温のときには熱い蒸気が出るのでキャップをあけないでください。
1668-904-007-1

1668−904−007−1
ラベル（ケイコク／ラジエータ）

注意
カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。
1675-905-012-0

1675−905−012−0
ラベル（チユウイ／カバー）

注意
バッテリーを外すときは必ず、アース側⊖を先に外してください。
1668-904-003-1
3704 668 M2

1668−904−003−1
ラベル（チユウイ／バッテリ）

危険　バッテリの取扱いに注意
1. 取扱いを誤ると引火爆発することがあります。ショートやスパークさせたり、火気は危険です。充電や使用は通風のよいところで行なってください。ブースターケーブル使用時は注意してください。
2. バッテリ液（希硫酸）で失明ややけどの危険があります。目・皮膚・衣服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは本速い後、医師の治療を受けてください。
目の保護必要　スパーク火気厳禁　換気注意　希硫酸使用
1668-904-011-1
3704 678 M2

1668−904−011−1
ラベル（キケン／バッテリ）

警告
冷却ファンは、エンジン停止中でも回転することがあるので危険です。点検時は、バッテリのアース線を外して行ってください。
1650-903-027-1

注意
カバーを外した状態で使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。
1675-905-012-0

1675−905−012−0
ラベル（チユウイ／カバー）

1650−902−027−1
ラベル（ケイコク／エアコンファン）
CY型

警告
やけどをするのでマフラーにさわらないでください。
1675-905-007-0

1675−905−007−0
ラベル（ケイコク／マフラ）

警告
エンジンを始動させるときには安全カバー、サイドカバーを必ず取り付けてください。
1668-904-002-1
3704 670 M2

警告
ファンが回転しています。
エンジンが動いている時は、回転部に近づかないでください。
1668-904-002-1
3704 668 M2

1668−904−002−1
ラベル（ケイコク／ファン）

1668−904−004−1
ラベル（ケイコク／シールド）

危険
エンジンは直結で始動しないでください。
機械が急に動き出して巻き込まれる危険があります。
1668-904-009-1
3705 673 M2

1668−904−009−1
ラベル（キケン／スタータ）

軽油
JIS2〜3号

1675−904−002−0
ラベル（ケイユ）

危険
引火のおそれがあります。
火を近づけないでください。
火気　厳禁
1675-905-009-0

1675−905−009−0
ラベル（キケン／カキゲンキン）

警告
IQシフトの変速ボタンの取扱い
増速ボタン　減速ボタン
IQシフトの取扱い方法を誤ると転倒などの原因になります。次の事を必ず守ってください。
急な登り坂や、下り坂、トラックへの積み・降ろし、あぜの乗り越え途中での「変速ボタン操作」は大変危険です。あらかじめ低速で安全な変速位置に入れて使用してください。

注意
寒冷地においては、発進及び変速の時間が遅れる場合がありますが、これは異常ではありません。
油温が上がれば正常に発進することができますので、必ず暖機運転をしてください。
路上走行中の「増速」「減速」は、エンジン回転を下げてから行ってください。
1650-902-019-1

S型　1650−902−019−1
ラベル（ケイコク／IQシフト）

警告
IQシフトの変速ボタンの取扱い
1. IQシフトの取扱い方法を誤ると転倒などの原因になります。次の事を必ず守ってください。
急な登り坂や、下り坂、トラックへの積み・降ろし、あぜの乗り越え途中での「変速ボタン操作」は大変危険です。
あらかじめ低速で安全な変速位置に入れて使用してください。

注意
寒冷地においては、発進及び変速の時間が遅れる場合がありますが、これは異常ではありません。油温が上がれば正常に発進することができますので必ず暖機運転をしてください。
路上走行中の「増速」「減速」は、エンジン回転を下げてから行ってください。
1650-902-036-1

S／CY型　1650−902−036−1
ラベル（ケイコク／IQシフト／CY）

車速表　21−33

適応作業	プランテン	ロータリー	代かき	モアフロ	整地
車速		0 1 2 3 5 7 9 11 13 15 (km/h)			
主変速	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	
副変速	超低速	低速	中速	高速	

注意
副変速が高速で、後進するときには、エンジン回転を下げて行ってください。
1650-903-001-1

1650−903−001−1
ラベル（チユウイ／スピード）

車速表　21−33

適応作業	プランテン	ロータリー	代かき	モアフロ	整地
車速		0 1 2 3 5 7 9 11 13 15 (km/h)			
主変速	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	
副変速	超低速	低速	中速	高速	

注意
副変速が高速で、後進するときには、エンジン回転を下げて行ってください。
1650-903-001-1

CY型　1650−902−037−1
ラベル（チユウイ／スピード／CY）

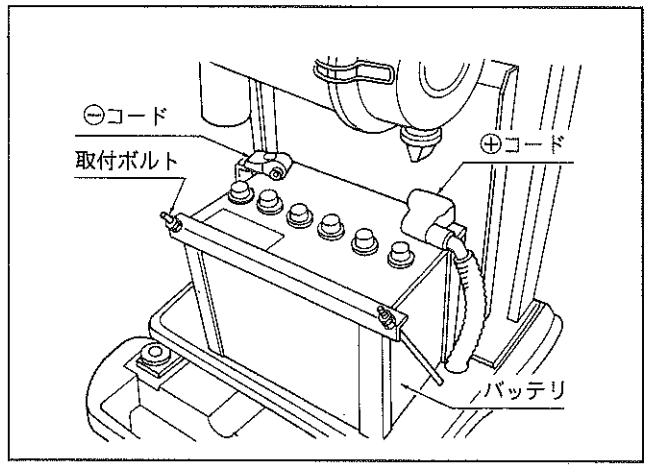
注意
可倒式安全フレーム
路上走行や作業をする時は、①の状態で使用し②のノブをしめつけピンを確実に差し込んでください。
（爪が確実に噛み込み①がグラグラしない事）
1650-903-003-1

1650−903−003−
ラベル（チユウイ／ロプス）

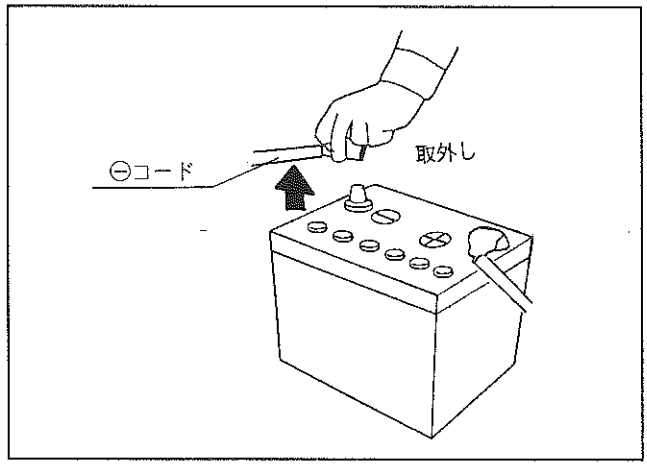
電装関係を取扱うときは

■電気配線点検時の注意事項

(1) 電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして大変危険です。



(2) 接続部の点検は、メインスイッチを「ＯＦＦ」にし、バッテリの㊀コードを外して行なってください。これを怠ると、火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

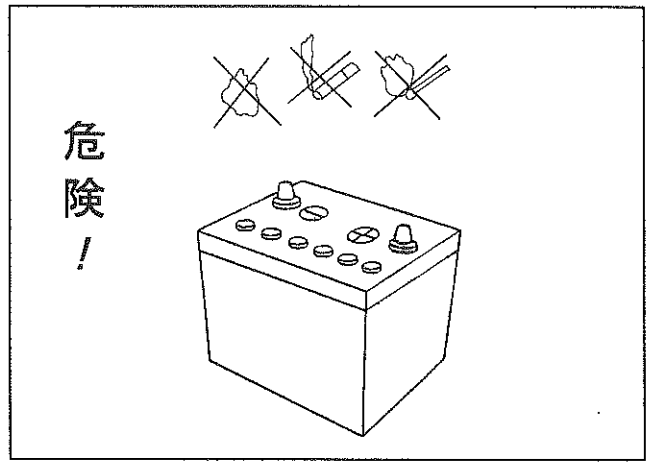


(3) 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

(4) バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取り除いてください。これを怠ると火災の原因となります。

■バッテリ取扱い時の注意事項

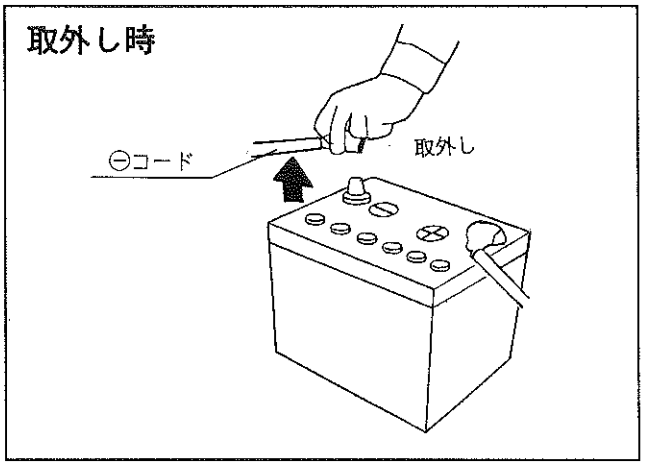
(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

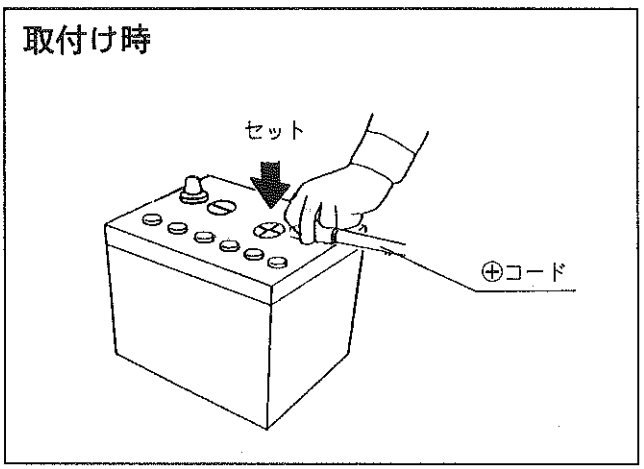


(2) バッテリ液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「ＯＦＦ」にしてください。これを怠ると、電気部品を損傷したり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(4) バッテリコード（端子）を取外すときは、㊀コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、㊉コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりして危険です。





■ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1) バッテリの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

(2) ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

保証とサービスについて

■商品の保証

この商品には、ヰセキトラクタ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店・農協へお気軽にご相談ください。

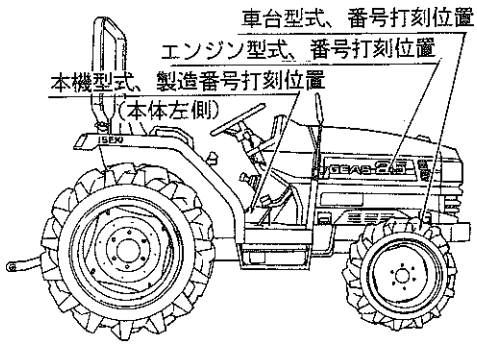
その際、

(1) 販売型式名と製造番号

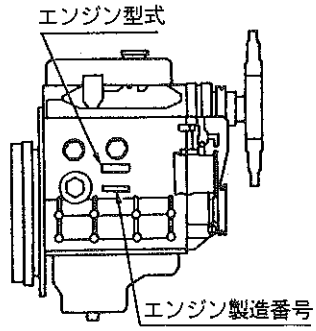
(2) エンジン名称とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

販売型式名と製造番号



エンジン名称とエンジン番号



■補修用部品供給年限について

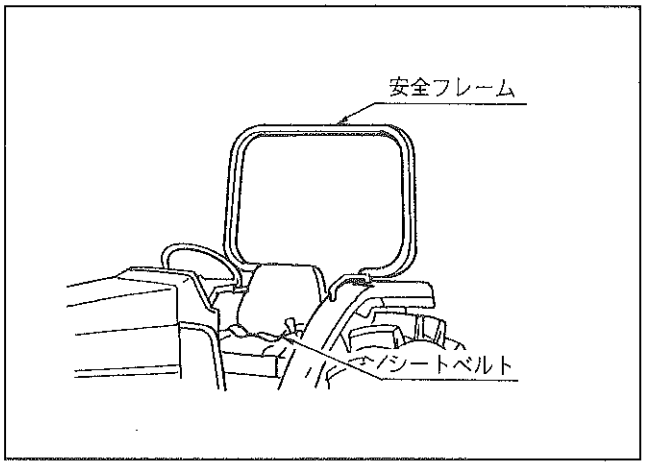
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

安全フレーム・キャビンの取扱い

安全作業について

安全な作業をしていただくために、安全フレーム・キャビンの取扱いには特に注意して、「安全な作業をするために」の章とあわせてよくお読みいただき、正しい取扱いをしてください。



警告

(1) 安全フレーム・キャビンは、正しく装着された状態で運転してください。トラクタを使用するときは、確実に安全フレームを立てた状態で装着し、必ずシートベルトを装着してください。これを怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(2) 安全フレーム・キャビンの改造はしないでください。改造すると安全フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(3) 万一事故により安全フレーム・キャビンが変形したり損傷した場合は、「曲げたり、溶接したり」の修理をしないで新しい純正部品と交換してください。これを怠ると安全フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(4) 万一トラクタが転倒するときは、ハンドルをしっかりにぎり、座席より飛び出さないでください。これを怠るとトラクタの下敷きになったりして、重大事故を引き起こします。

(5) 高さに限度のある屋内、果樹園、ハウス等での作業は安全フレームを後方にたおすことができますが、この状態では体を保護することはできませんのでシートベルトを着用しないでください。

重要

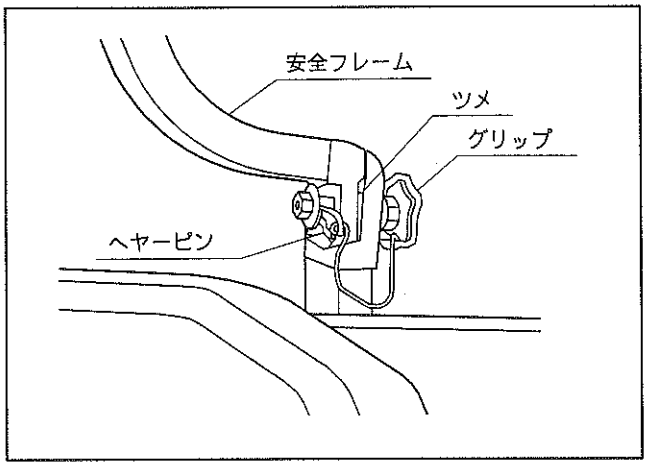
●安全フレームをたおすときは、安全フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げて確認してください。

安全フレームのたおしかた・おこしかた

安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは、次の要領で行なってください。

注意

安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは平たんな場所でパーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して行なってください。



■たおしかた

(1) ヘヤピンを抜いてください。
(2) グリップを「ツメ」のかみ合いが外れるまで「左回り」に回してください。
(3) 2個目のグリップを回すときは、安全フレームを片方の手で支えながら行なってください。
(4) 安全フレームを後方にたおした位置で、グリップを「右回り」に回して、確実に締めてください。
(5) ヘヤピンを差し込んでください。

警告

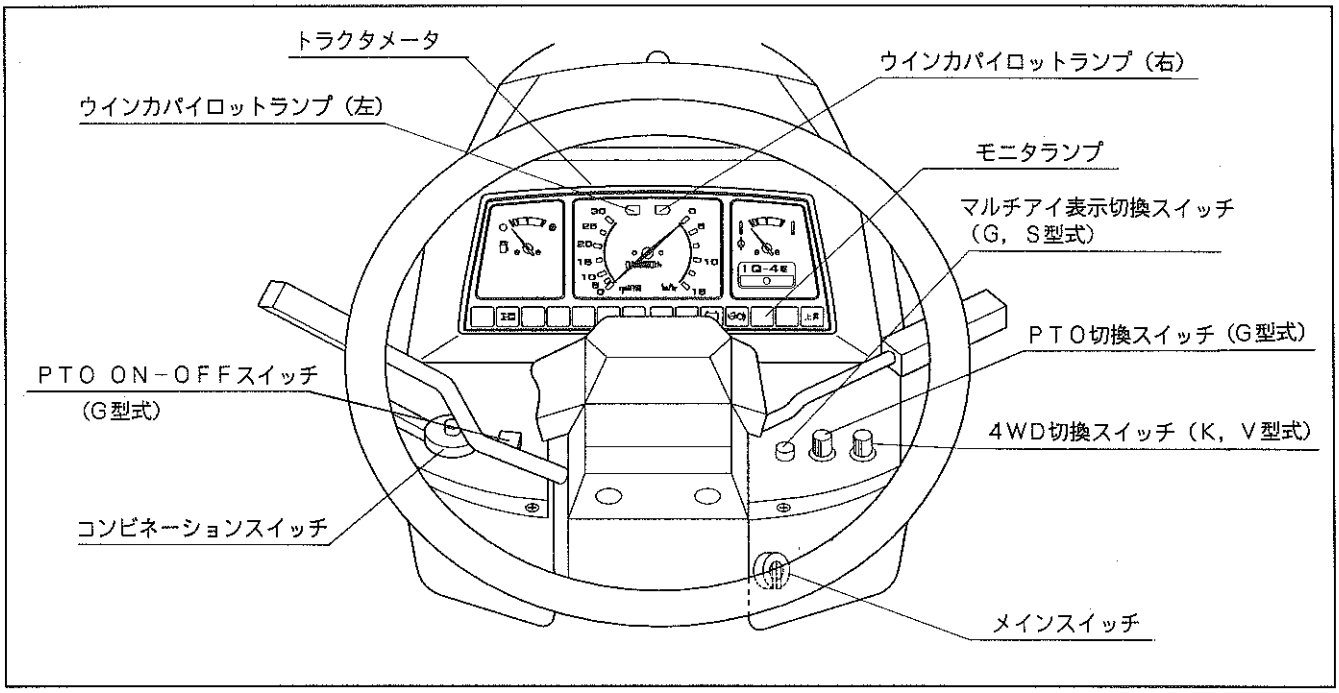
高さに限度のある屋内、果樹園、ハウス等以外は、必ず安全フレームを立てて使用してください。安全フレームを「たおした」状態では、安全フレームとしての機能はありませんので、転倒時には重大事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

■おこしかた

(1) ヘヤピンを抜いてください。
(2) グリップを「ツメ」のかみ合いが外れるまで「左回り」に回してください。
2個目のグリップも同様に回してください。
(3) 安全フレームを立てた位置で、グリップを「右回り」に回して確実に締めてください。
(4) ヘヤピンを差し込んでください。

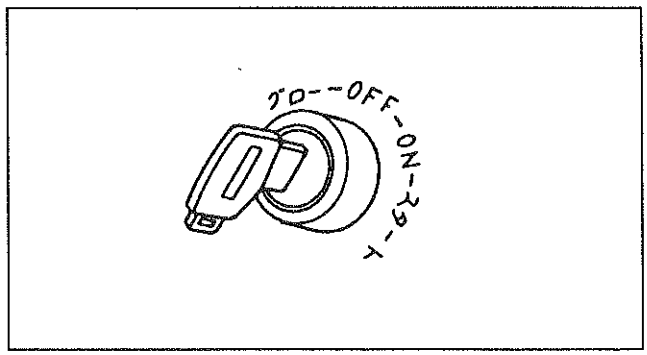
運転のしかた

計器およびスイッチの取扱い



■メインスイッチ

グロー……エンジン燃焼室が予熱される位置。
ＯＦＦ……エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。
Ｏ　Ｎ……エンジン回転中の位置。
スタート……クラッチペダルをいっぱいに踏込んで、エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「ＯＮ」に戻ります。



■コンビネーションスイッチ

▶ライティングスイッチ

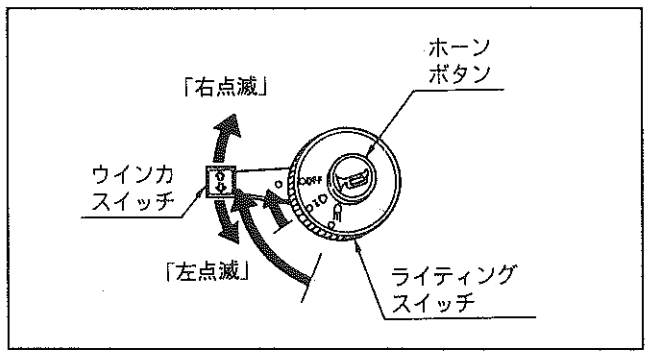
ＯＦＦ……ヘッドランプ消灯位置
≡D ……ヘッドランプ上向き照射位置
≡D ……ヘッドランプ下向き照射位置

▶ウインカスイッチ

(1) スイッチを操作すると、ウインカランプおよび計器盤のパイロットランプが点滅します。
(2) 右折または左折が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。

▶ホーンボタン

メインスイッチを「ＯＮ」にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



■トラクタメータ

▶メータ

エンジン回転数、および最高速度段の走行速度を示します。

▶アワーメータ

積算時間は、５桁になっています。

最後の１桁は、1/10時間を示します。

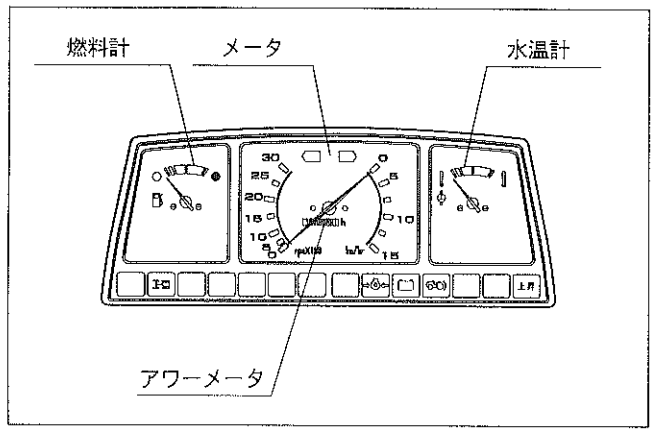
▶燃料計

メインスイッチ「ＯＮ」の位置で燃料の量を表示します。

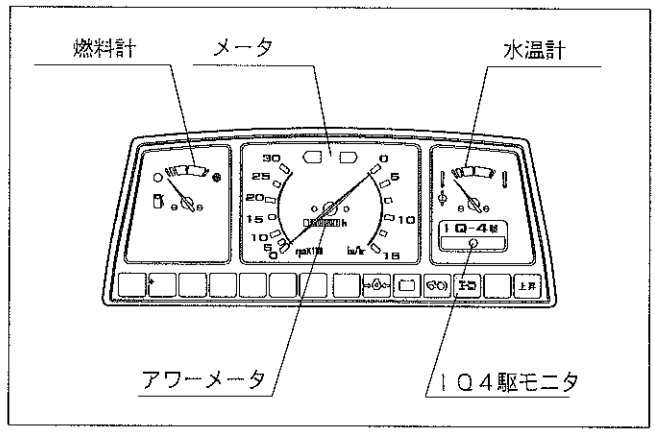
▶水温計

メインスイッチが「ＯＮ」のとき、冷却水の温度を示します。指針が「赤の範囲」を示すときは、オーバーヒートの状態ですから87ページの「不調時の処置」の項を参照してください。

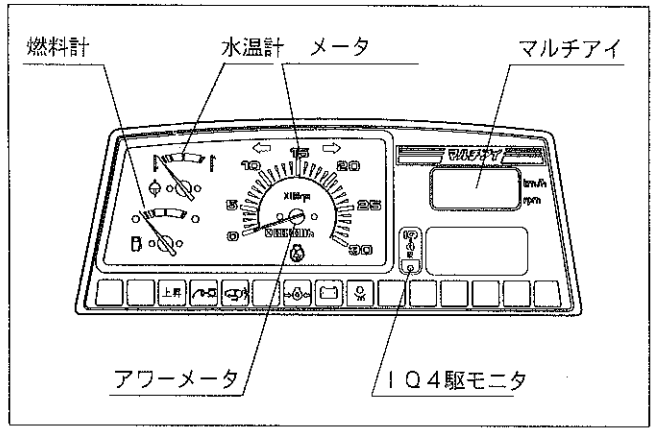
〈K型式〉



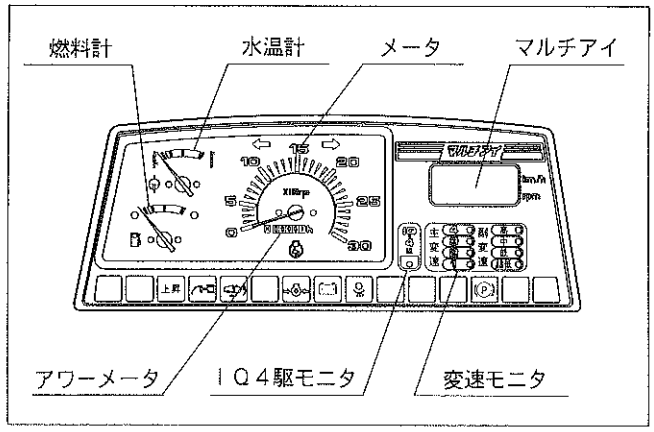
〈V型式〉



〈G型式〉



〈S型式〉



■モニタランプ

バッテリチャージ警告灯

エンジン運転中充電しているとランプが消えます。

エンジンオイル圧力警告灯

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。

点灯したままのときは、エンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。

スーパーフルターン表示灯

K型式 ……４WD切換スイッチを「スーパーフルターン」位置、副変速レバーが「超低速、低速、中速」のとき点灯します。

V型式 ……４WD切換スイッチを「作業」位置にしたとき点灯します。

バックアップ表示灯（WX型式）

WX型式の場合、バックアップスイッチを「入」にすると、点灯します。バックアップ装置が使用可能状態にあることを示します。（詳しくは、54ページをお読みください。）

ＰＴＯ表示灯（G型式）

ＰＴＯ軸の回転状態を示します。

（詳細は31ページを参照してください。）

上昇

上昇ランプ（WX型式）

（詳細は51ページ以降の電子油圧装置の項を参照してください。）

パーキングブレーキ表示灯（S型式）

メインスイッチ「ＯＮ」の時、パーキングブレーキをかけると点灯します。

■４WD切換スイッチ

▶スーパーフルターン（K）型式の場合

２WD……２輪駆動状態になります。

４WD……４輪駆動状態になります。

スーパーフルターン

……スーパーフルターンが作動する状態になります。但し、副変速レバーが「超低速、低速、中速」のときのみ作動します。「高速」のときは、２輪駆動状態になります。

警告

(1) 路上走行時は、４WD切換スイッチを「2WD」か「4WD」位置にしてください。怠ると転倒事故の原因になり大変危険です。

(2) ほ場の出入り・トラックへの積み・降ろしは、４WD切換スイッチを「４WD」位置にして行なってください。怠ると転倒事故の原因になり大変危険です。

(3) フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、４WD切換スイッチを「スーパーフルターン」位置にして行なわないでください。トラクタの故障や思わぬ事故の原因になる恐れがあります。

▶ＩＱ４駆（Ｖ）型式の場合

走行（ローダ）……２駆状態と４駆状態が自動的に切換わります。

作業……２駆状態・４駆状態およびスーパーフルターン作動状態が自動的に切換わります。

警告

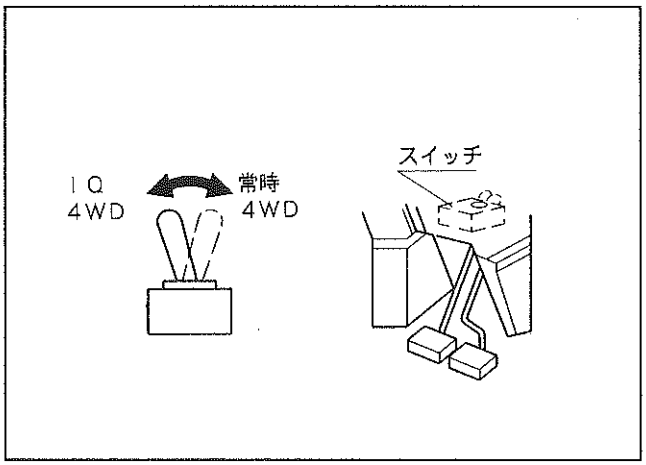
路上走行等の高速作業、ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろし、急傾斜地作業やフロントローダ作業等の前輪に重荷重がかかる作業は、４ＷＤ切換スイッチを「走行（ローダ）」位置にして行なってください。怠ると、転倒事故の原因になり大変危険です。

■４ＷＤロックスイッチ（Ｖ型式）

パネルカバーの内側にスイッチがあります。

常時４ＷＤ……４ＷＤ切換スイッチの操作に関係なく常に４ＷＤ状態になります。

ＩＱ４ＷＤ……４ＷＤ切換スイッチの切換えに応じた駆動状態になります。



■ＩＱ４駆モニタランプ（Ｖ型式）

点灯……駆動状態が４駆状態になっているとき、点灯します。

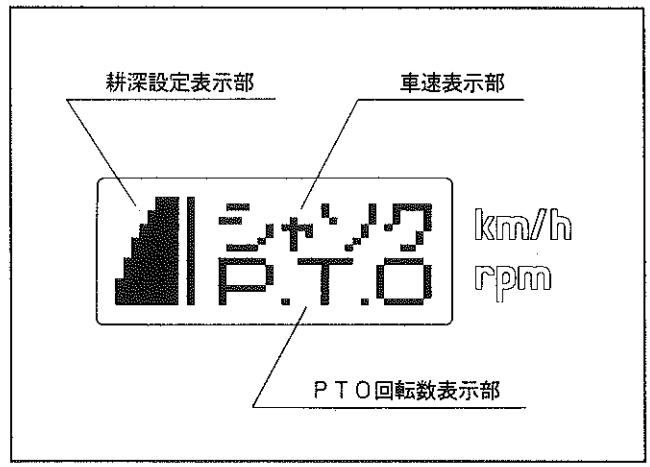
消灯……駆動状態が、４駆状態になっていないとき、消灯します。

■マルチアイ（Ｇ，Ｓ型式）

「マルチアイ」は、トラクタの運転状態や異常状態などを表示します。

▶通常表示

トラクタ運転中は、「車速」、「ＰＴＯ回転数」、「耕深設定」を表示します。作業の目安にしてください。



(1) 走行（作業）中の車速を表示します。但し、

1（km/h）未満のとき

ＩＱシフト（Ｓ）型式では

変速シフト位置に応じた、エンジン定格回転時車速を点滅表示します。

ＩＱシフト型式以外では

「シャソク」と表示します。

重要

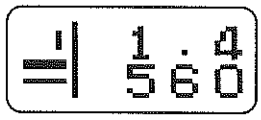
●車速表示は、タイヤの沈下量やタイヤサイズで、実際の車速とは多少異なります。

(2) ＰＴＯ回転数表示部

ＰＴＯの回転数を表示します。但し、100（rpm）未満のときは、「Ｐ．Ｔ．Ｏ」と表示します。

(3) 耕深設定表示部

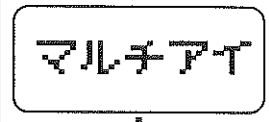
電子油圧装置の耕深調整ダイヤル設定に応じて、表示部が増減します。また、作業機昇降操作と連動して、表示が変わります。

操　　作	表　　示
作業機上昇操作したとき〔コントロールレバーを最上げにしたとき、フィンガップレバーを操作し作業機を上げたとき〕	
作業機下降および耕深調整ダイヤル「切」のとき	
作業機下降中で、耕深調整ダイヤルが調整範囲にあるとき	 ダイヤル位置に応じて増減します

▶割り込み表示

エンジン始動時や電子油圧装置に異常があるとき、通常表示に優先してメッセージが出ます。

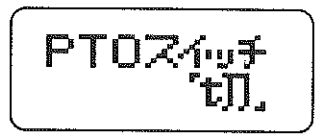
●エンジンを始動するときの正常な表示切換わり

操　　作	表　　示
(1) メインスイッチを「ON」にします。	
(2) メインスイッチを「スタート」にしエンジンを始動します。	
(3) コントロールレバーを「上・下」して電子油圧装置の制御を開始します。（52ページ参照）	通常表示に切換わります。

重要

上記以外のメッセージが出たときは、内容を確認してください。

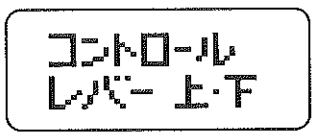
●割り込み表示の種類

(1)  〈G型式〉

ＰＴＯ　ＯＮ－ＯＦＦスイッチが「ＯＮ」の状態では、エンジンは始動しません。

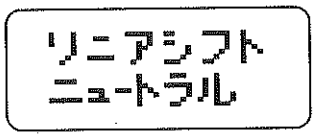
ＰＴＯ　ＯＮ－ＯＦＦスイッチを「ＯＦＦ」にして、エンジンを始動してください。

（詳細は30ページを参照してください。）

(2) 

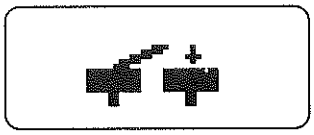
〈WX型式〉

電子油圧装置では、エンジン始動時やセンサカプラを抜き差ししたときに、準備状態になっています。昇降動作を開始するときは、コントロールレバーを上げ下げしてください。
(詳細は52ページを参照してください。)

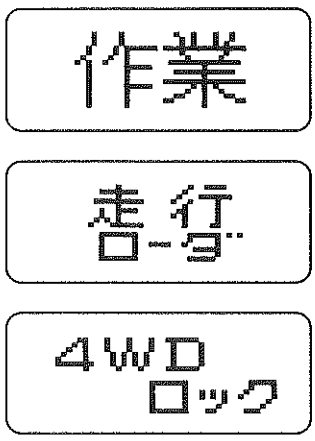
(3) 

〈S型式〉

ＩＱシフトでは、リニアシフトレバーが「中立」位置以外でエンジンを始動したとき、急発進しないようにしています。
発進するときは、一旦リニアシフトレバーを「中立」位置に戻してください。
(詳細は36ページを参照してください。)

(4) 

副変速レバーを「高速」にしたとき、５秒間表示されます。路上走行時は、ブレーキペダルを連結してください。
(詳細は33ページを参照してください。)

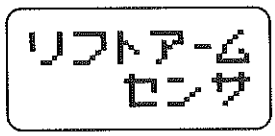
(5) 

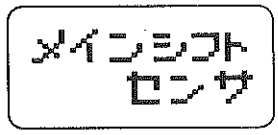
〈V型式〉
４ＷＤ切換スイッチおよび4WDロックスイッチを切換えたとき、５秒間表示されます。

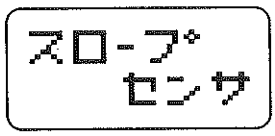
(詳細は27ページを参照してください。)

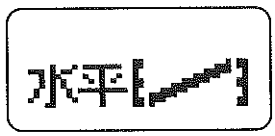
(6) 異常表示

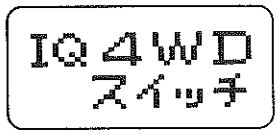
下記の表示に切換わったときは、制御装置の異常が考えられます。配線の外れ等を確認後、お買い上げ先にご相談ください。
(「不調時の処置」93ページ参照)







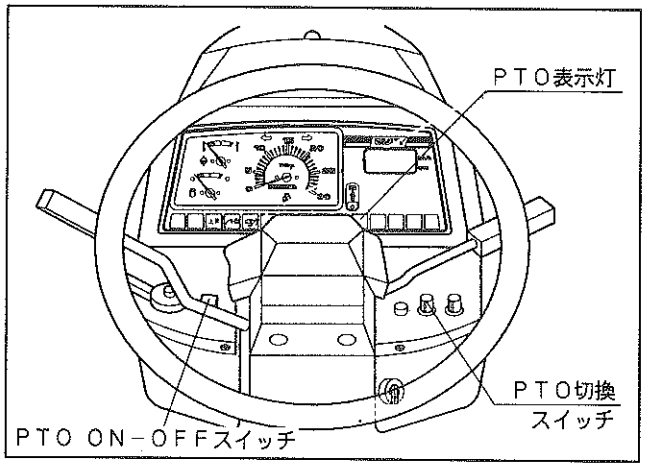




●表示切換

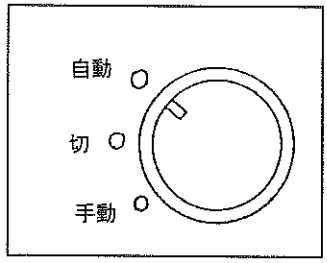
異常表示が出ているとき、マルチアイ表示切換スイッチを押すと、通常表示に切換えることができます。

■インデペンデントＰＴＯ（G型式）



▶ＰＴＯ切換スイッチ

ＰＴＯ軸を次のような回転状態に選択できます。



「切」……ＰＴＯ軸は回転しません。

「自動」……作業機が最上昇したとき自動的にＰＴＯ軸の回転が停止します。クラッチペダルをいっぱい踏んでもＰＴＯ軸の回転は停止します。

「手動」……ＰＴＯ　ＯＮ－ＯＦＦスイッチを「ＯＮ」・「ＯＦＦ」にすることによりＰＴＯ軸の回転・停止を操作できます。

●ＰＴＯ切換スイッチの使いかた

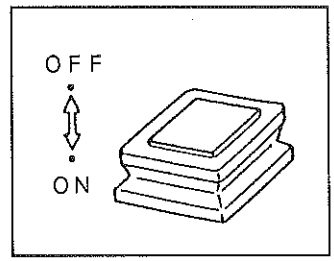
ＰＴＯ切換スイッチを「自動」にすると、作業機最上昇によりＰＴＯ軸の回転が停止するため、次のような場合に威力を発揮します。

(1) ブロードキャスター、ドリルシーダー等の作業が楽になります。

(2) ユニバーサルジョイントの保護および騒音防止ができます。

▶ＰＴＯ　ＯＮ－ＯＦＦスイッチ

ＰＴＯクラッチのＯＮ（入）、ＯＦＦ（切）スイッチです。



「ＯＮ」……スイッチを押して赤色ランプが点灯するとＰＴＯクラッチは接続します。

「ＯＦＦ」……スイッチをもう一度押してランプが消えるとＰＴＯクラッチは切れます。

注意

(1) ＰＴＯ切換スイッチを「手動」にしているときは、クラッチを踏んでもＰＴＯ軸の回転は止まりません。ロータリで硬いほ場の作業をする場合トラクタがダッシング（飛出し）することがあります。このときは必ずPTO ON－OFFスイッチを「OFF」にしてください。これを怠りクラッチペダルを踏むと一層ダッシングして危険です。

(2) ＰＴＯ切換スイッチを「自動」にしているときは、クラッチペダルを踏むとＰＴＯ軸の回転は止まります。
ダッシングをした場合は、PTO ON－OFFスイッチを「OFF」にするかクラッチペダルをいっぱいに踏んでください。

▶ＰＴＯ表示灯について

ＰＴＯ軸の回転状態を示します。

●点灯……ＰＴＯクラッチがつながりＰＴＯ軸が回転している状態です。

ＰＴＯ切換スイッチ	「自動」または「手動」
PTO ON－OFF スイッチ	押して点灯中

の位置でＰＴＯ表示灯が点灯します。

●消灯……ＰＴＯクラッチが切れＰＴＯ軸が停止している状態です。走行クラッチペダルの接続・踏み込み、あるいは作業機の上昇・下降にかかわらず

ＰＴＯ切換スイッチ	「切」

あるいは

PTO ON－OFF スイッチ	押して消灯

の位置でＰＴＯ表示灯が消灯します。

●点滅……ＰＴＯクラッチが一時的に切れＰＴＯ軸が停止している状態です。

ＰＴＯ切換スイッチ	「自動」
PTO ON－OFF スイッチ	点灯中

の位置で走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んだとき、または走行クラッチペダルを接続したまま作業機を最上昇させたときにＰＴＯクラッチが自動的に切れ、ＰＴＯ表示灯が点滅します。

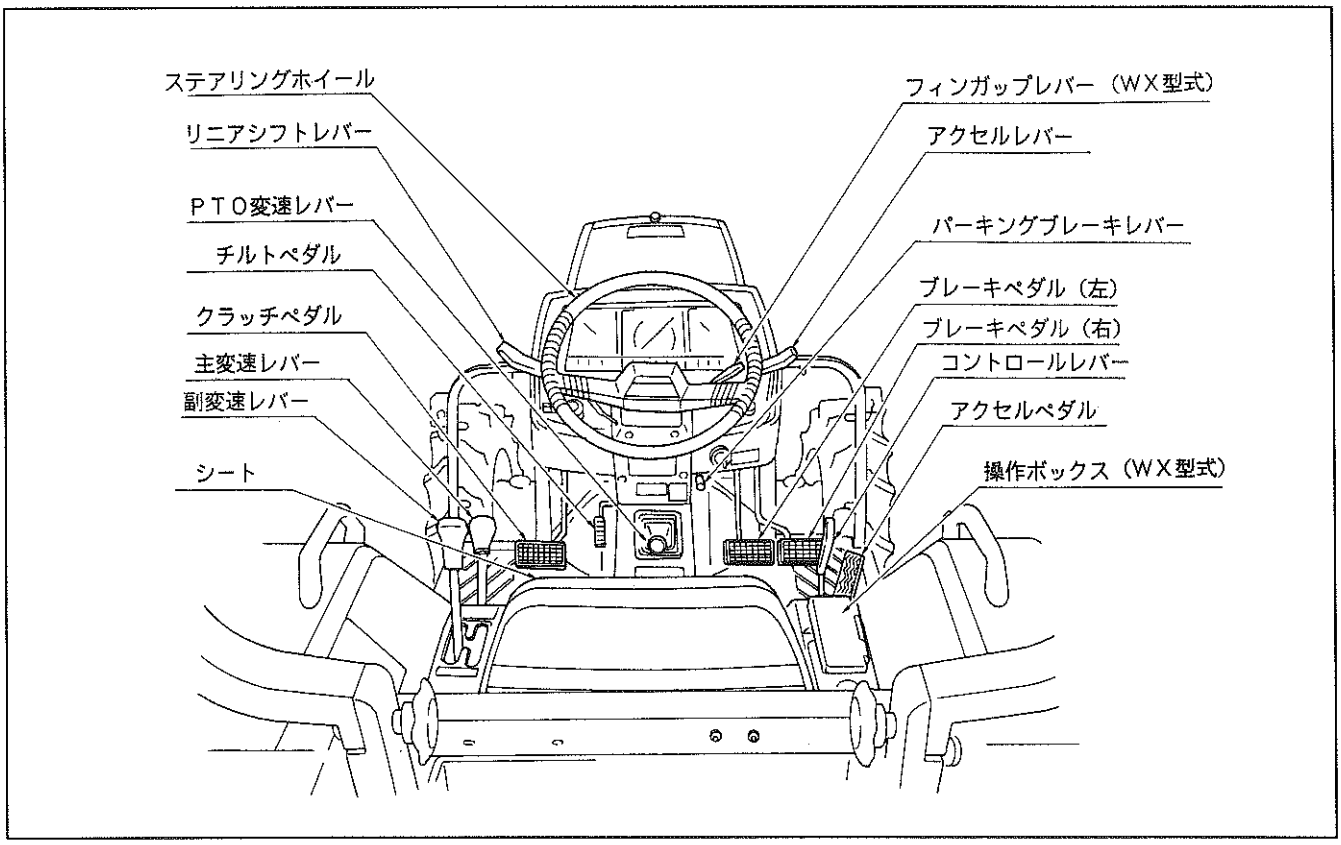
警告

(1) ＰＴＯ表示灯が点滅しているとき、作業機を降ろしたり、走行クラッチペダルを離すとＰＴＯ軸が回りだし、危険ですからトラクタの回りに人を近づけないでください。これを怠ると思わぬ事故の原因になる恐れがあります。

(2) 必要のないときは、必ずＰＴＯシフトレバーを中立にしてください。
これを怠ると誤操作等による思わぬ事故の原因になる恐れがあります。

(3) 高回転でのPTOクラッチのON・ＯＦＦは危険ですから、十分に安全を確認し注意してください。

レバー、ペダル、シート関係の取扱い



■アクセルレバーとアクセルペダル

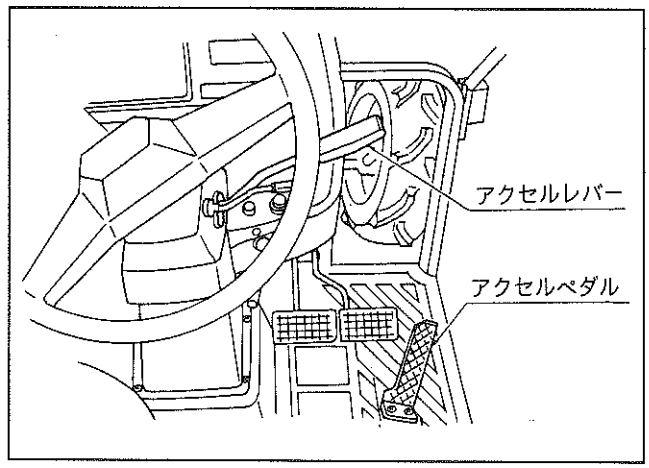
▶アクセルレバー

エンジンの回転数を制御するレバーです。

・手前に引くと高速回転になります。

・前方に押すと低速回転になります。

主に農作業時に使用します。



▶アクセルペダル

アクセルペダルは、アクセルレバーと連動しており、

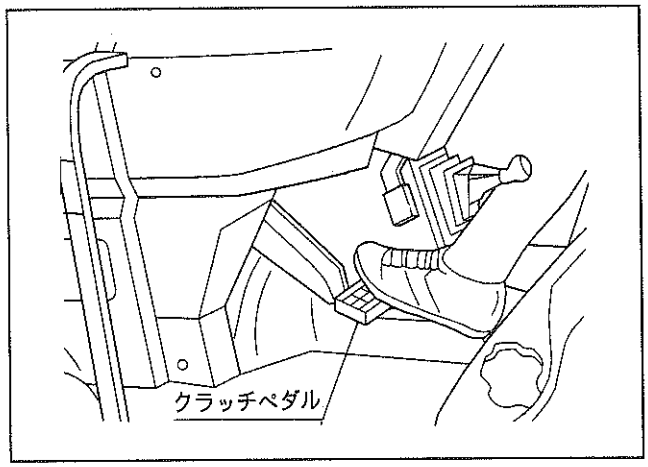
ペダルを踏込む……エンジン回転が上がります。

ペダルから足を離す……アクセルレバーのセット位置まで戻ります。

主に道路走行時に使用します。

■クラッチペダル

ペダルを踏込む ……クラッチが切れます。
ペダルから足を離す ‥クラッチがつながります。

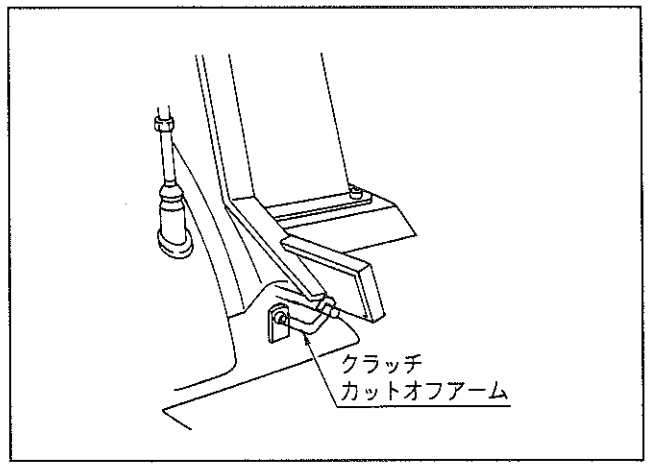


重要

- **クラッチペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。**

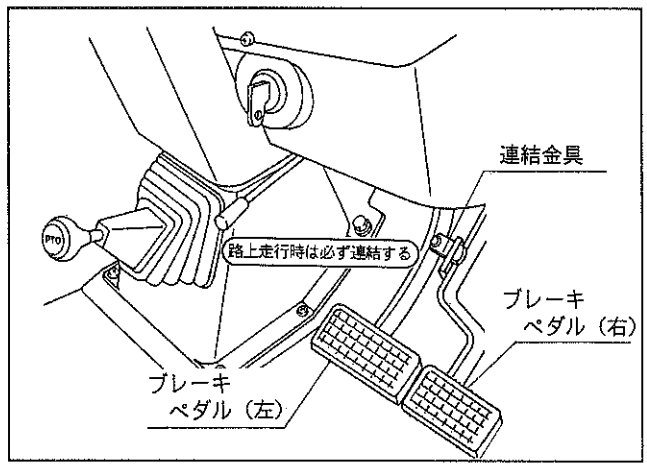
■クラッチカットオフアーム

長期格納時は、クラッチ保護のためクラッチを切った状態にしておきます。
クラッチペダルを踏み、アームを引っかけてください。



■ブレーキペダル

ブレーキペダルは、左右それぞれ独立しています。左側を踏込むと左側の後輪、右側を踏込むと右側の後輪にブレーキがかかります。

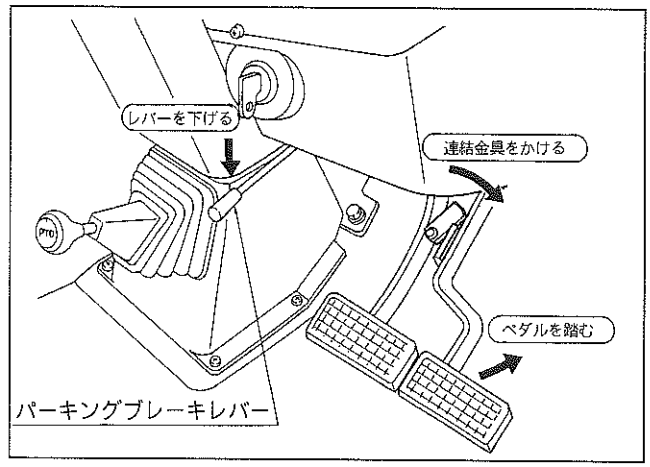


警告

道路走行するときは、必ず左右のブレーキを「連結」してください。またブレーキは必ず左右同時に利くよう定期的に点検してください。
「連結」を忘れると、ブレーキが片利きして衝突・転倒事故を引き起こします。

■パーキングブレーキレバー

左右のブレーキペダルを連結し、ペダルをいっぱい踏みレバーを矢印方向に「下げて」固定してください。
ブレーキペダルを強く踏めば、パーキングブレーキは自動的に解除されます。



注意

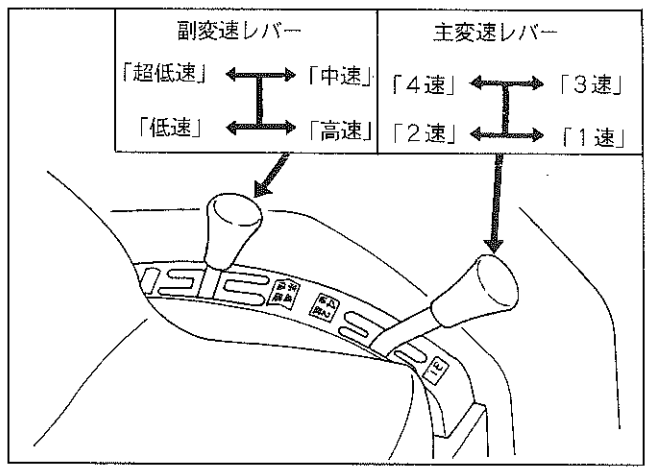
駐車時、停車時には必ずパーキングブレーキを確実にかけてください。これを怠るとトラクタが自然に動き出したりして大変危険です。
また、S型式はパーキングブレーキをかけないと警告音が鳴りつづけます。

重要

- **パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキを傷めます。**

■主変速レバー

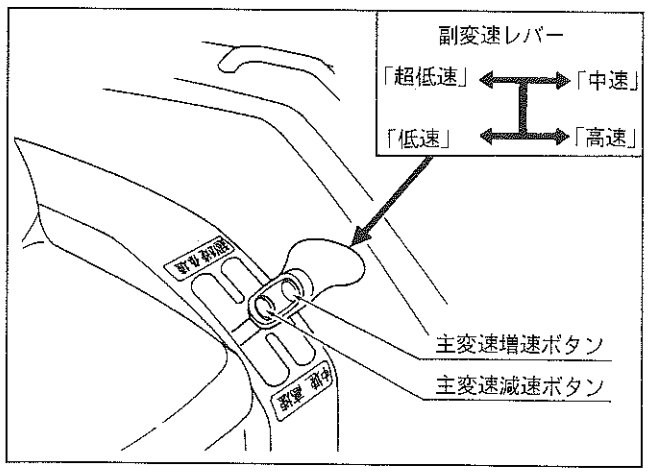
4段の変速ができます。リニアシフトレバー・副変速レバーとの組み合せにより、前進16段後進16段の変速ができます。



〈IQシフト（S型式）〉の場合

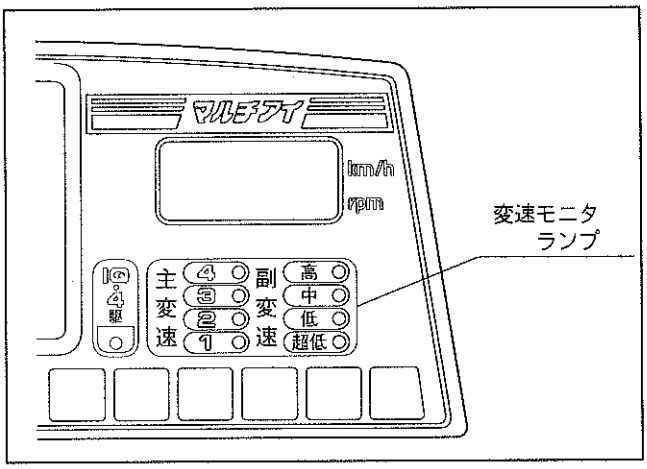
この仕様では、主変速4段の変速は増速ボタンと減速ボタンで行ないます。クラッチペダル操作なしで変速できます。

- 増速ボタン ……ボタンを押すごとに車速が1段づつ上がります。
- 減速ボタン ……ボタンを押すごとに車速が1段づつ下がります。



●主変速・副変速モニタランプ

ＩＱシフト型式では、主変速および副変速がどの変速に入っているかが、モニタランプで表示されます。



警告

急な上り坂や、下り坂、トラックへの積み・降ろし、畦の乗り越え途中での変速ボタン操作は、しないでください。あらかじめ低速で安全な変速位置に入れて使用してください。これを守らないと、前輪の浮き上りや、転倒の原因となり大変危険です。

重要

- **寒冷地においては、発進および変速の時間が遅れる場合がありますが、これは異常ではありません。油温が上がれば正常に発進することができます。必ず暖機運転をしてください。**
- **路上走行中の「増速」「減速」は、エンジン回転をおとしてから行なってください。**
- **主変速は、油圧仕様となっておりますので、エンジン回転中でないと変速できません。**
- **リニアシフト「後進」、副変速レバー「高速」のときは「４速」へは変速できません。**

■副変速レバー

「超低速」「低速」「中速」「高速」の４段変速ができます。

重要

- **主変速・副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏みトラクタが完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。**
  但しＩＱシフト（Ｓ）型式の主変速については、クラッチペダル操作なしで変速ができます。

■主変速自動変速機能（ＩＱシフト型式）

(1) 副変速レバー操作時、主変速が自動的に変速されます。

副変速レバー	主　変　速
増速側に操作	１速に変速されます
減速側に操作	４速に変速されます

(2) 副変速が「高速」で、主変速が４速のとき、リニアシフトレバーを後進側に操作すると、主変速が３速に自動変速されます。

重要

- **エンジン始動時、主変速は１速になります。**

■チェックスイッチ（ＩＱシフト型式）

チェックスイッチを「入」にすると、操作レバーなどの配線作動確認や配線のはずれが確認できます。確認後、チェックスイッチは必ず「切」にしてください。

▶操作方法

(1) メインスイッチを「入」にしてください。

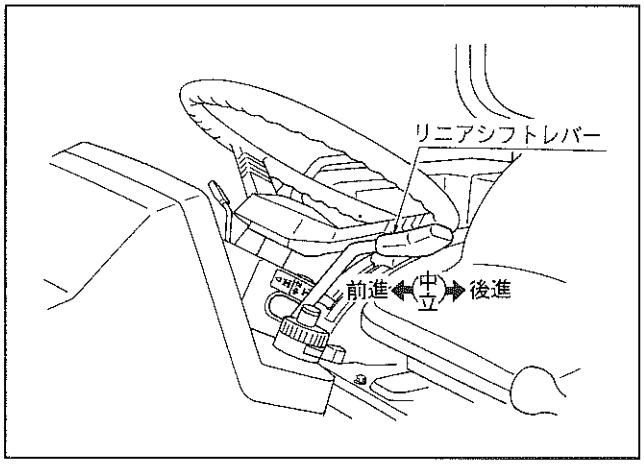
(2) チェックスイッチを「入」にしてください。
（電子油圧操作パネルのチェックスイッチと同一です。51ページを参照してください。）

(3) リニアシフトレバーや副変速レバーを操作してください。正常なときブザーが鳴ります。

■リニアシフトレバー

前進・後進シフトをこのレバーで行ないます。走行しない場合は、「中立」位置に入れておくようにしてください。

WX型式は、後進に入れるとブザーが鳴ります。



重要

●G．S（IQシフト）型式以外の場合

レバー操作は、クラッチペダルを踏みトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作すると、ミッションの損傷につながります。

●G型式の場合

クラッチペダルを十分に踏み込んで、レバー操作をしてください。トラクタが完全に停止していなくても、レバー操作ができます。

●S（IQシフト）型式の場合

クラッチペダルを踏まなくても前進・後進の切換えができます。

エンジン始動時は、リニアシフトレバーを「中立」にして行なってください。「前進」、「後進」の位置でエンジンを始動してもトラクタは動きません。

このとき、マルチアイ画面に“リニアシフトニュートラル”と表示されます。この場合は、リニアシフトレバーを一旦「中立」に戻し再度操作してください。

警告

(1) 副変速が「高」の場合、前進・後進の切換えは一旦停止してから行なってください。これを怠ると変速時のショックが大きく、運転者に危険を及ぼし、またリニアクラッチ損傷の原因になります。

(2) リニアシフトレバーの操作は、必ずトラクタの座席に座って行なってください。これを怠るとトラクタが動き出した時、正常な運転ができなくて事故を引き起こす原因になります。

(3) トラクタから降りるときは、エンジンを必ず停止してください。これを怠ると誤操作等により、トラクタが思わぬときに動き出し、事故を引き起こす恐れがあります。

(4) 停車時には、リニアシフトレバーを「中立」位置にし、必ずパーキングブレーキをかけてください。これを怠ると、ミッション内部の「つれ回り」によりトラクタが動き出し思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(5) けん引作業時や坂道では、リニアシフトレバーによる発進は避け、必ずクラッチペダルを使用してください。

■ＰＴＯ変速レバー

ＰＴＯ軸（動力取出軸）の回転速度は、レバー操作により、４段階に変速できます。

「１」……荒起し作業をします。

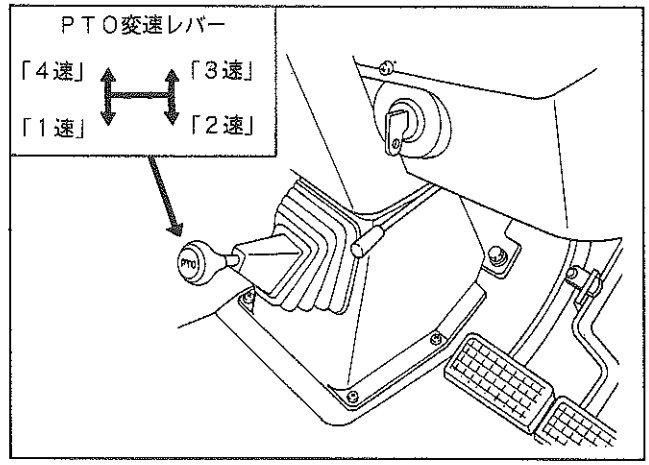
「２」……通常耕起（硬いほ場）をします。

「３」……通常耕起（軟かいほ場）をします。

「４」……砕土作業をします。

注意

低速回転で使用すべき作業機を高速回転で使用しないでください。作業機に指定されたＰＴＯ回転速度を厳守してください。これを怠ると作業機を破損したり、思わぬ事故の原因になります。



重要

ＰＴＯ変速レバーは、必ずクラッチペダルを踏込んで、ＰＴＯ軸回転が完全に停止してから行なってください。入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。

■ＰＴＯ逆転切換レバー

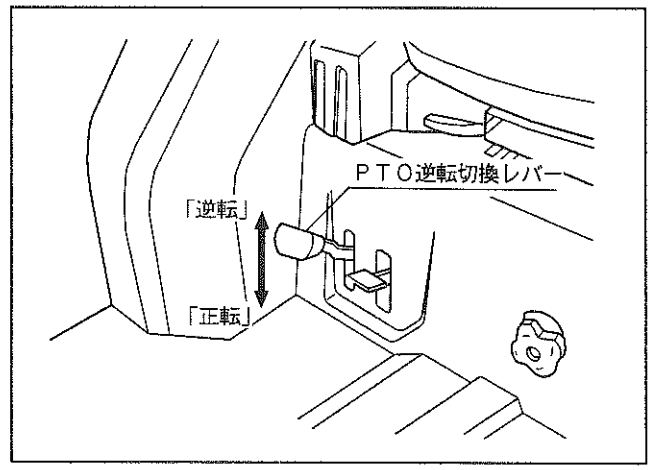
ＰＴＯ軸の回転方向を逆転することができます。

(1) ＰＴＯ変速レバーを操作後、クラッチペダルを踏んでから、レバーを上方に引き上げるとＰＴＯ軸は逆転します。

(2) ほ場の四隅に土がたまった場合の土寄せ作業に威力を発揮します。

注意

逆転でロータリ作業機を使用するときは、ＰＴＯ変速はできるだけ低速でエンジン回転は低くしてお使いください。これを怠ると土・小石等が飛散して周囲の人や作業者に危害を及ぼす恐れがあります。



重要

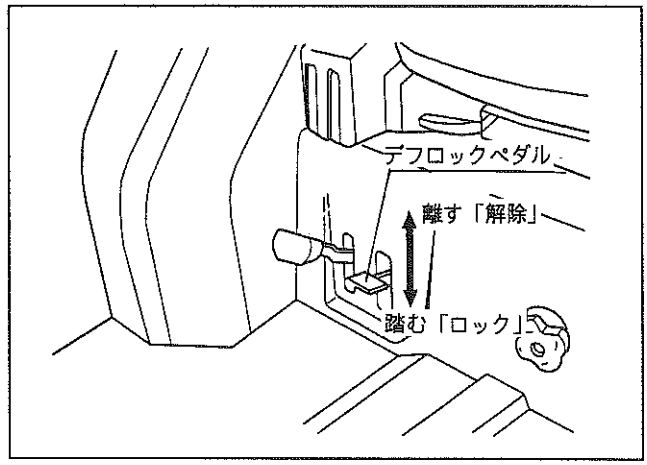
- **逆転での未耕地耕うん作業は行なわないでください。**
- **逆転での作業を終えた後、爪の増し締めを行なってください。**
- **使用法を誤るとトラクタ・作業機の故障の原因となります。**

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置で、片側の後輪がスリップしたとき、ペダルを踏込めばスリップが防止できます。

ペダルを踏込む ……ロックされます。

ペダルから足を離す ……自動的にロックが外れます。外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。



警告

(1) 道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。これを怠ると衝突・転倒事故を引き起こします。

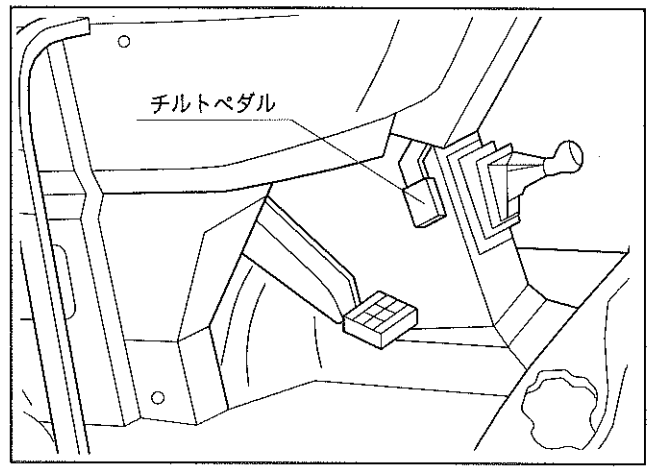
(2) デフロックを入れたままで旋回しないでください。これを怠ると衝突・転倒事故等につながり大変危険です。

■チルトペダル

運転姿勢に合わせて、ステアリングホイルの向きを３段階に調節できます。

(1) ステアリングホイルを両手で持ち、チルトペダルを踏んだ状態で位置を調整します。

(2) 調節後はチルトペダルが元の位置に戻っている事を確認してください。



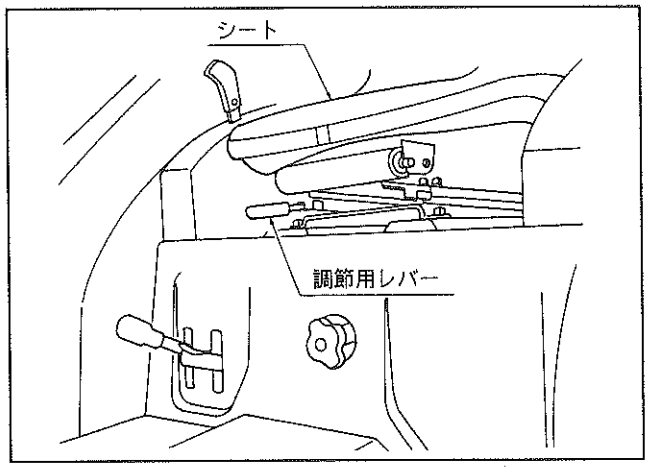
注意

調節は停車中に行ない走行中は調節しないでください。走行中に調節すると、正常な運転ができなくなり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

■シート

(1) シート前方右下部のレバーを「上方に引く」とシートは前後に調節できます。

(2) 調節後は、調節レバーがロック位置でロックされていることを確認してください。

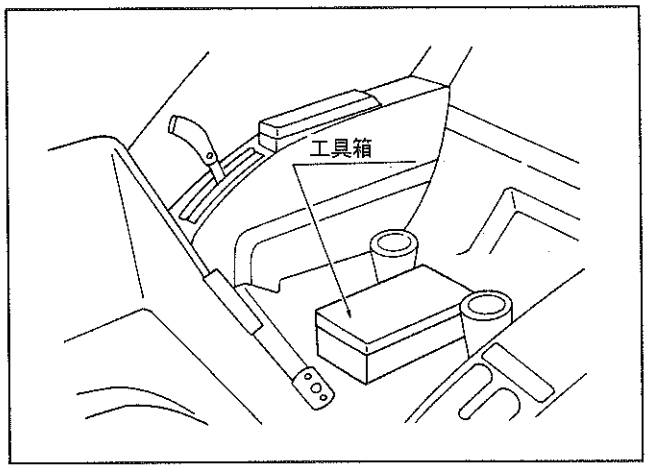


■シートベルト

体形に合わせてベルトの長さを調節し、金具を押込み装着します。外すときは金具の中央の部分を押すと外れます。

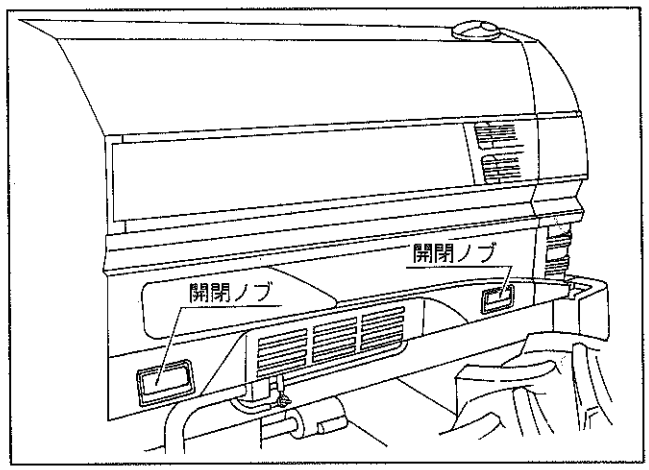
■工具箱

工具箱はシートの下に設置されています。



■サイドカバー

エンジンルーム左右のサイドカバーは、カバー前後下部のノブを手前に引きフックを解除し、手前に引いた後に持上げるようにして外してください。



■フロントグリルの開閉

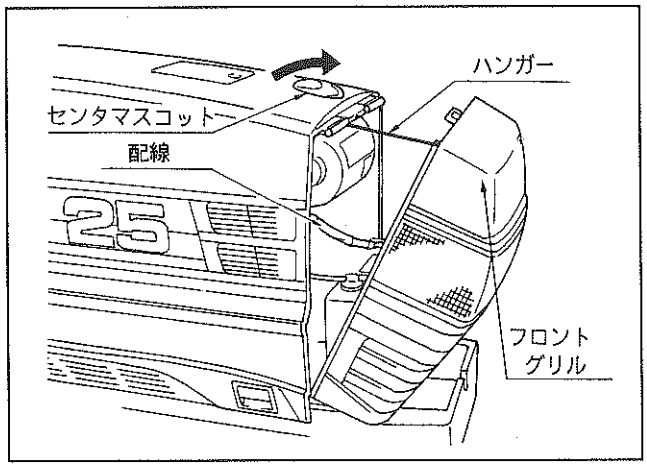
(1) ボンネット前部のセンタマスコットを矢印の方向に回すとロックが解除されます。

(2) ヘッドランプの配線部カプラ（２箇所）を外します。

(3) ハンガーをフロントグリル側のピンから抜いて外します。

(4) フロントグリルを少し持ち上げ下部の差し込みが抜けたら、手前に引けばフロントグリルは取外せます

(5) 取付けるときは逆の順序で行ないます。



トラクタ使用前の点検について（始業点検）

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行なってください。

警告
必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行なってください。怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりして大変危険です。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日、異常のあった箇所　　参照ページ
(2)トラクタの回りを歩いて
●タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷 ……84ページ
●タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
●油もれ及び水もれ
●エンジンオイルの量及び汚れ ……73ページ
●ミッションオイルの量及び汚れ ……76ページ
●冷却水の量……74ページ
●ファンベルトの張り具合、損傷 ……83ページ
●エアクリーナの清掃……75ページ
●燃料フィルタの水、沈殿物の点検 ……72ページ
●車体各部の損傷、及びボルト・ナットのゆるみ
●作業機取付けピンの脱落
●各ランプ類の損傷
●ラジエータの清掃……75ページ
●ナンバープレートの汚れ、損傷
(3)運転席に座って
●ブレーキペダル、クラッチペダルの遊びと作動……82ページ
●パーキングブレーキの作動 ……34ページ
●バックミラーの汚れ及び損傷
(4)メインスイッチを入れて
●燃料計の作動
●燃料は十分か、燃料キャップの締付け
●ランプ類及びモニタランプの点灯及び汚れ
●メータ類の作動
●ホーン、ウインカランプの作動
(5)エンジンを始動して、徐行しながら
●バッテリチャージ警告灯・エンジンオイル圧力警告灯の消灯
●水温計の作動
●排気ガスの色、異常音
●ブレーキの効き、片利き
●ハンドルの重さ、振れ、取られ、遊び ……84ページ

運転操作の要領

エンジンの始動

警告

(1) 室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行なってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

(2) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。

▶始動のしかた

(1) 座席に座り、パーキングブレーキがかかっている事を確認します。

(2) 油圧コントロールレバーで作業機を地面まで降ろします。（WX型式は不要）

(3) クラッチペダルを踏込んでクラッチを「切」にします。

(4) リニアシフトレバー・主変速レバーを「中立」にします。

(5) ＰＴＯ変速レバーを「中立」にします。

(6) アクセルレバーを「中程」まで引きます。

(7) メインスイッチにキーを差込み「ＯＮ」にします。

この時モニタランプの

エンジンオイル圧力警告灯

バッテリチャージ警告灯

が点灯していることを確認してください。

(8) 低温時はメインスイッチを「グロー」位置に回します。

予熱時間は、約５秒間です。

(9) メインスイッチを「スタート」の位置に回し、エンジンが始動したらただちにメインスイッチから手をはなします。

(10) 始動後エンジンオイル圧力警告灯、バッテリチャージ警告灯が消灯していることを確認してください。

重要

●エンジン回転中は、メインスイッチを「スタート」の位置にしないでください。

●スタータの作動は１回10秒程度とし、始動しないときは10秒程度停止してから再び操作をくり返してください。

●クラッチペダルを踏込みクラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。

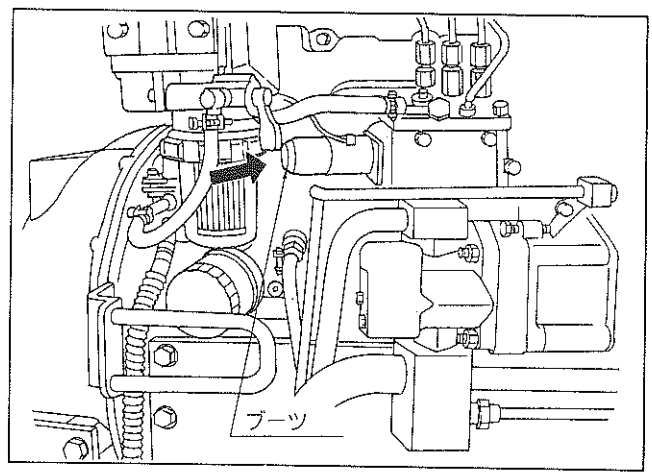
●G型式は、ＰＴＯ ＯＮ－ＯＦＦスイッチを「ＯＦＦ」にしないとエンジンは始動しません。

■エンジンの停止

(1) エンジンを低速にし、メインスイッチを「ＯＦＦ」にすると、エンジンは停止します。

(2) 万一、故障しエンジンが停止しない時はサイドカバーを開け、図の要領でブーツ中心を停止するまで押してください。また故障の際には、サービス工場に相談ください。

(3) メインスイッチのキーは、必ず抜きましょう。



重要

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- 長時間運転後は、アイドリング回転で５～10分間ほど無負荷運転を行なってからエンジンを停止してください。
- パーキングブレーキをかけないでエンジン停止すると警告音が鳴りつづけます。（Ｓ型式）

警告

エンジン停止時はパーキングブレーキを確実にかけてください。
これを守らないと坂道などでトラクタが動き出し事故の原因となり大変危険です。
またエンジン停止のため、エンジン周辺部にふれる場合は、高温ですのでやけどに注意してください。

■暖機運転

始動後、エンジン中速回転（約1500rpm）で十分に暖機運転を行なってください。気温により右表程度の暖機運転を行なってください。

気温	暖機運転時間
０℃以上	５～10分
０℃～－10℃	10～20分
－10℃～－20℃	20～30分
－20℃以下	30分以上

重要

- 暖機運転をしないで、走行・作業しますと、エンジンの寿命を短くしたり、油圧ポンプの焼付および油圧系の故障の原因となります。
- 本製品の油圧オイルは、ミッションオイルを兼用しています。寒冷時、気温が低下しオイルが冷えると、粘度が高くなり、油圧ポンプがオイルを吸込みにくくなったり、油圧系より音が発生したりしますので暖機運転は必ず行なってください。

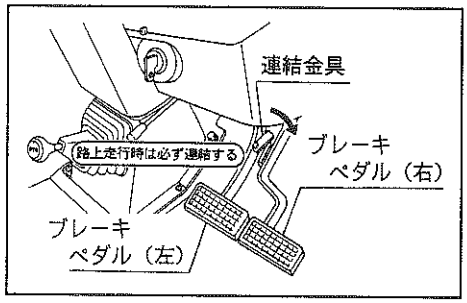
注意

暖機運転中は、必ずパーキングブレーキをかけておいてください。これを怠るとトラクタが自然に動き出し大変危険です。

■発進・走行・変速のしかた

警告

(1) 道路走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。これを怠ると、ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突事故などを引き起こす危険があります。



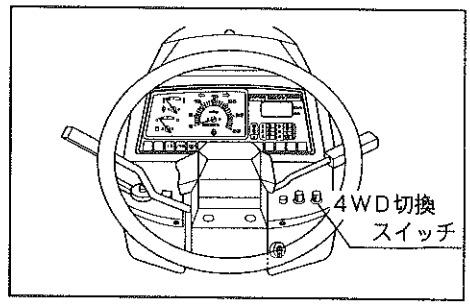
(2) 道路走行するときは、デフロックペダルが解除してあるか確認してください。解除していないと転倒・転落・衝突事故などを引き起こす危険があります。

(3) トラクタを発進させるときは、前後左右の安全を確認し、トラクタの近辺に人を近づけないようにしてください。これを怠ると、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(4) 道路を走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。これを怠ると、正常な走行スピードのコントロールができなくなる恐れがあります。

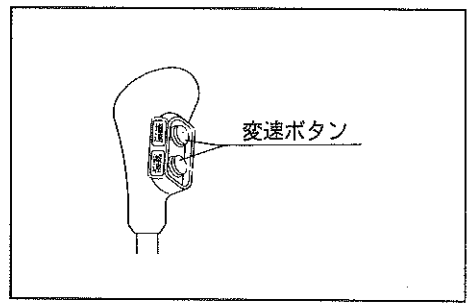
(5) トラクタや作業機に他の人や物を乗せないでください。人が転落したり、物が落下したりして大変危険です。

(6) スーパーフルターン（K）型式のトラクタでの路上走行時は、「４ＷＤ切換スイッチ」を「2WD」か「4WD」位置にしてください。怠ると衝突・転倒事故の原因になり大変危険です。



(7) ＩＱ４駆（V）型式のトラクタでの路上走行時は、「４ＷＤ切換スイッチ」を「走行(ローダ)」位置にしてください。怠ると衝突・転倒事故の原因になり大変危険です。

(8) ＩＱシフト（S）型式のトラクタでは上り坂や下り坂での、変速ボタン操作はしないでください。あらかじめ低速で安全な変速位置に入れて使用してください。



(9) クラッチペダルは、ゆっくり離してください。急に離すと急発進して危険です。

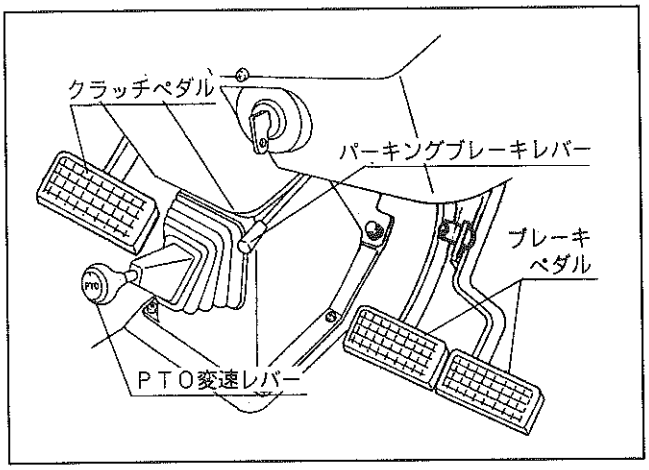
(10) 負荷の大きなけん引をする場合や、湿田での脱出時は、トラクタが後方に転倒しないよう注意してください。

▶発進・走行のしかた

(1) クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ります。

(2) 主変速レバー、副変速レバー、リニアシフトレバーを希望する変速位置に入れます。

(3) ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを外します。



(4) アクセルレバーまたはアクセルペダルでエンジン回転を上げながらクラッチペダルをゆっくりと離します。

▶変速のしかた

主変速・リニアシフトの変速については、お買いあげになったトラクタの仕様により、変速のしかたが異なります。変速のしかたについては、34ページから36ページの「主変速レバー」「副変速レバー」「リニアシフトレバー」の項をお読みください。

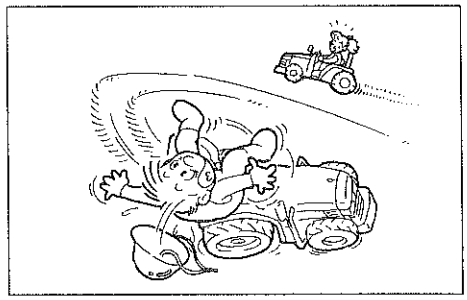
重要

- 走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- クラッチの寿命を伸ばすため、発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。速度調節をクラッチで行なわないようにしてください。
- 道路走行するときは、PTO変速レバーは常に中立にしておいてください。

▶旋回のしかた

警告

旋回するときは、できるだけエンジン回転を落し、必要な場合は変速位置を低速にしてください。高速で急旋回すると、転倒事故につながり大変危険です。



▶坂道での運転

警告

(1) 坂道では、急な旋回をしてはいけません。急旋回すると、転倒事故の原因になり大変危険です。

(2) 坂の状況に応じた安全なスピードで、走行してください。スピードを出しすぎると思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 坂の途中では、クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしないでください。また下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。これを怠るとスリップや転倒事故の原因になり大変危険です。

(4) けん引はこのトラクタに合った作業機をけん引ヒッチに取り付けて使用してください。適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になり大変危険です。不明な点がありましたら、購入先に相談し、無理なけん引は避けてください。

●急な上り坂での発進

(1) ブレーキペダルを踏込みます。
(2) クラッチペダルを踏込んで、クラッチを切ります。
(3) 各変速レバーを低速位置に入れます。
(4) アクセルレバーでエンジン回転を中速にします。
(5) クラッチペダルをゆっくりと離し、半クラッチ状態にします。
(6) 同時にブレーキペダルの踏込みを少しゆるめます。
(7) アクセルレバーをさらに引いて、エンジンの回転を上げながら、ブレーキペダルを離すと同時にクラッチペダルから足を静かに離すとトラクタは発進します。

●下り坂での運転

下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

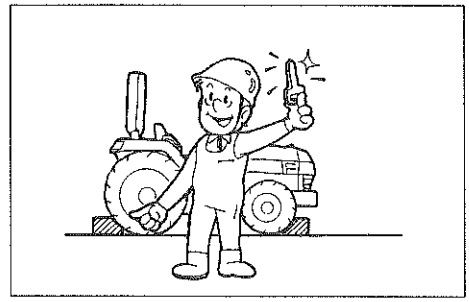
■制動および駐車

(1) エンジンの回転を下げます。
(2) クラッチペダルを踏込み、同時にブレーキを踏込みます。
(3) トラクタが完全に停止してから、主変速レバーを「中立」にします。
(4) パーキングブレーキをかけます。
(5) 作業機を装着している場合は、作業機を降ろします。

警告

(1) 駐車するときは、必ずパーキングブレーキを確実にかけてください。このトラクタは常時噛合式のトランスミッション機構を採用していますので、主変速が「中立」でも車体が動くことがあります。特に
①ミッションオイルが低温のとき
②エンジン回転が高いとき
に起こりやすくなります。この現象は異常ではありません。駐・停車のとき必ず駐車ブレーキをかけてください。

(2) トラクタから離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
また、止めるところは、広い地面の硬い場所を選んでください。
トラクタが、自然に動き出したりして大変危険です。



(3) トラクタを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因になる恐れがあります。

作業のしかた

油圧装置の取扱い

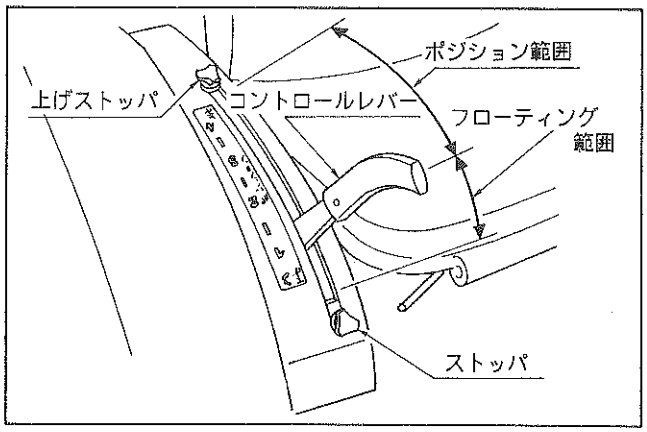
油圧装置は、油圧シリンダー、コントロールバルブを含む作業機昇降装置とエンジンに駆動されているポンプと配管より構成されています。

■コントロールレバー

(1) コントロールレバーで作業機を自由に上げ下げでき途中で止めると作業機もその位置を保ちます。（ポジションコントロール付）
(2) ストッパのノブをゆるめ任意の位置に固定することによって、同じ作業位置（深さ）が得られます。
(3) 上げストッパのノブをゆるめ、任意の位置に固定することによって、同じ作業位置（高さ）が得られます。

▶操作方法

作業機上げ……レバーを後方に引くと、作業機は上がります。
作業機下げ……レバーを前方に倒すと、作業機は下がります。



警告

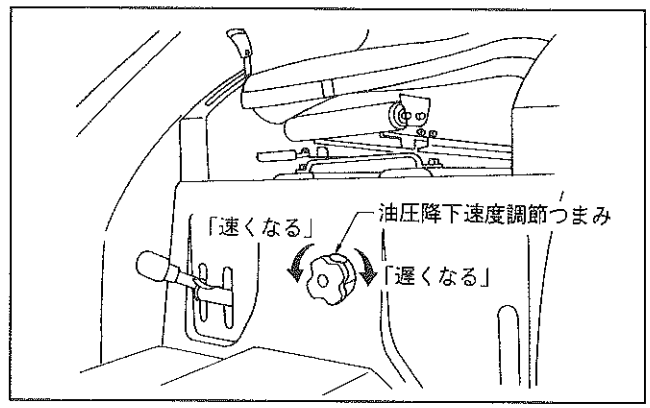
作業中トラクタから離れるときは、必ずエンジンを停止し、作業機を降してください。

■油圧降下速度調節つまみ

作業機の降下速度を調節します。
作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。

油圧降下速度調節つまみはシート前下部にあります。

●ロータリ作業……降下速度を遅くしてください。
●プラウ作業……降下速度を速くしてください。
降下速度を遅く……つまみを時計方向に回します。
降下速度を速く……つまみを反時計方向に回します。
ロック……つまみを時計方向にいっぱい回します。



警告

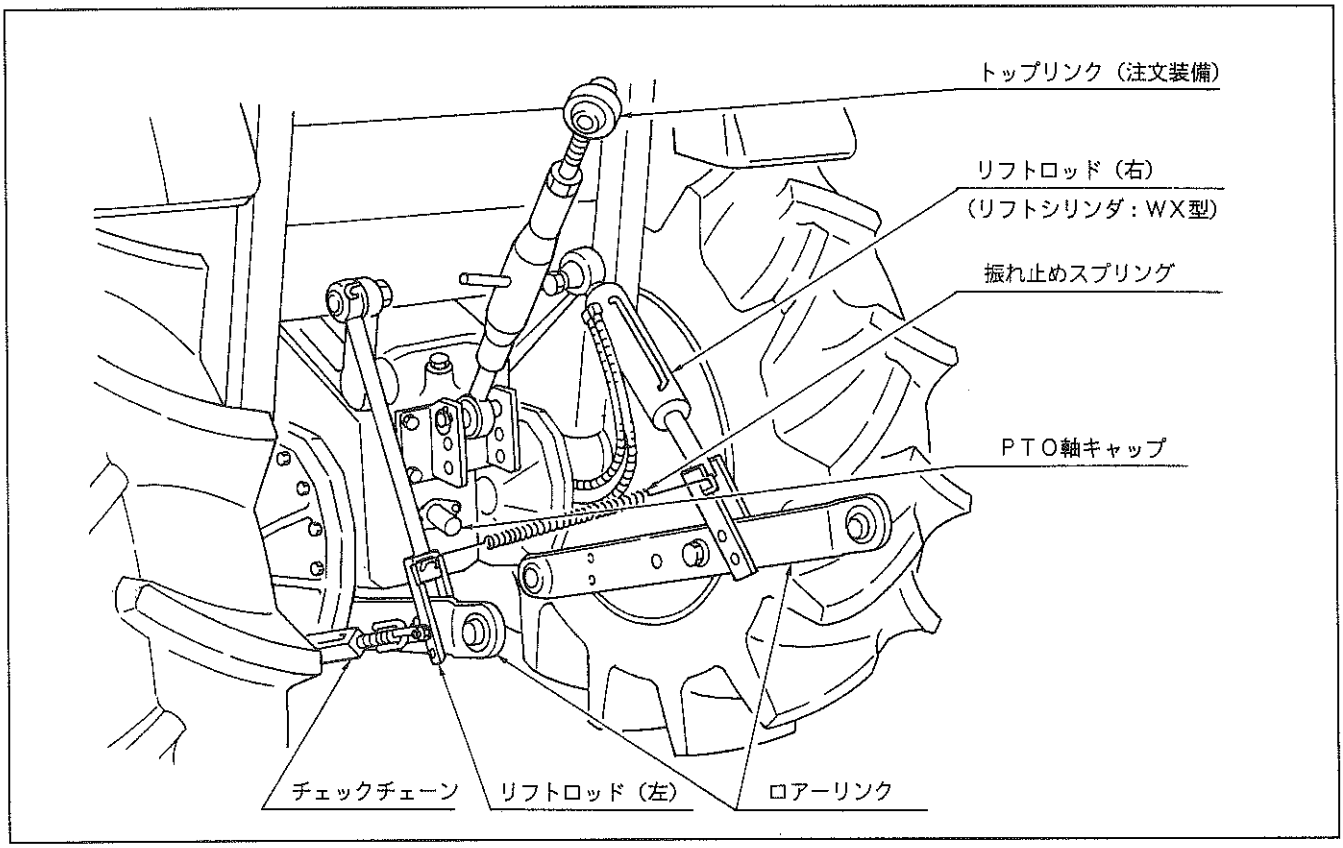
次のような場合は、必ず油圧降下速度調節つまみを「ロック」にしてください。その後コントロールレバーを作業機を下げる方向に動かして、作業機が落下しないことを確認してください。怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

(1) 路上走行するとき。
(2) ロータリの爪交換、草、ワラなどの除去
(3) 作業機の点検・調整

重要

●ロータリカバーを「浅い」方向に回動して使用する場合は、必ず油圧降下速度調節つまみで降下速度をやや遅め（1.5～2秒）に調整してください。

3点リンクの取扱いと作業機の取付け・取外し

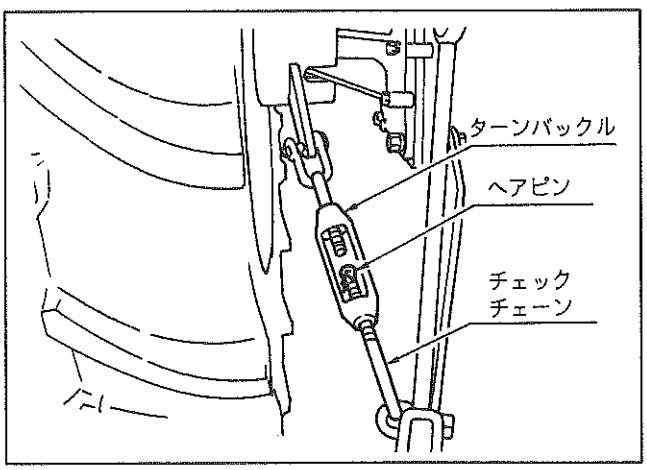


・3点リンクはＪＩＳ Ⅰ型です。

■チェックチェーンの調整

ロアーリンクの左右振れ巾をチェックチェーンで調整してください。

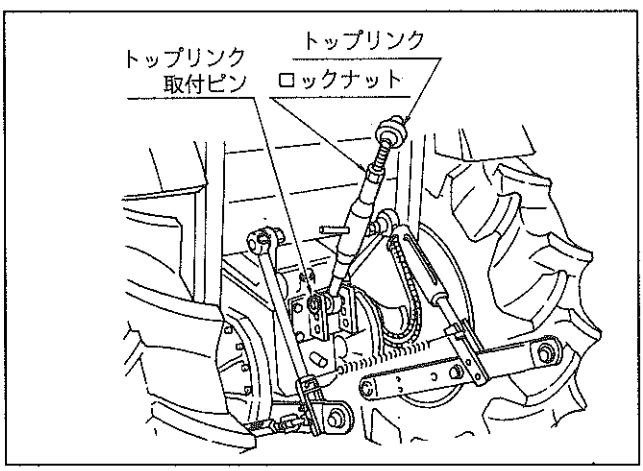
作業機	チェーンの張り具合
プラウ ハロー	5～6cm左右に動く程度に張り、ヘアピンにて回り止めをする
ロータリ	ゆるみのない程度に張りヘアピンにて回り止めをする



■トップリンクの調整（注文装備）

(1) 長さを伸縮させ作業機の傾きを調整してください。

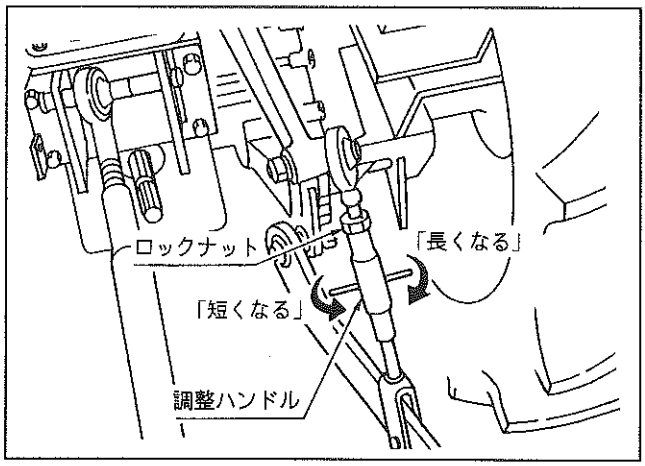
(2) トップリンク取付け位置は、作業機の種類により違います。



■リフトロッドの調整

(1) リフトロッド（右）の調整ハンドルで左右のロアーリンクの高さを調整してください。

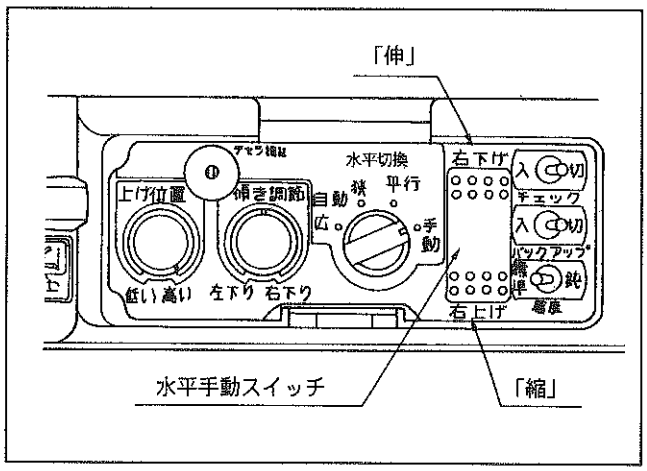
(2) 調整後は、ハンドルをロックナットで固定してください。

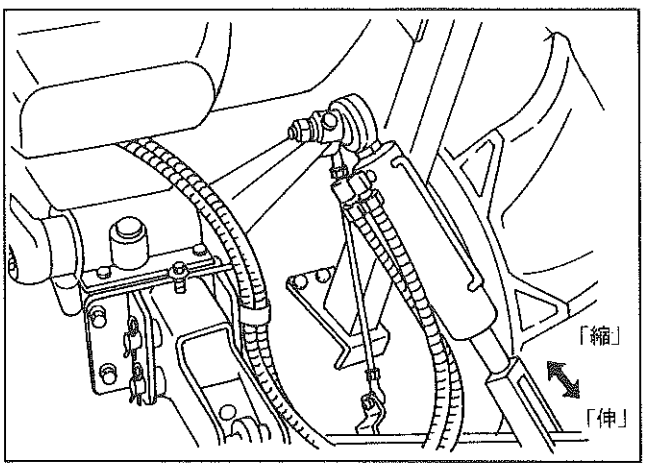


▶WX型式（電子油圧型式）

○水平調節スイッチで左右のロアリンクの高さを調整してください。

○手を離すとその位置でシリンダがとまります。





▶キャビン（CY）型式

○キャビン型式では、キャビン後部外側にも水平手動スイッチがあります。

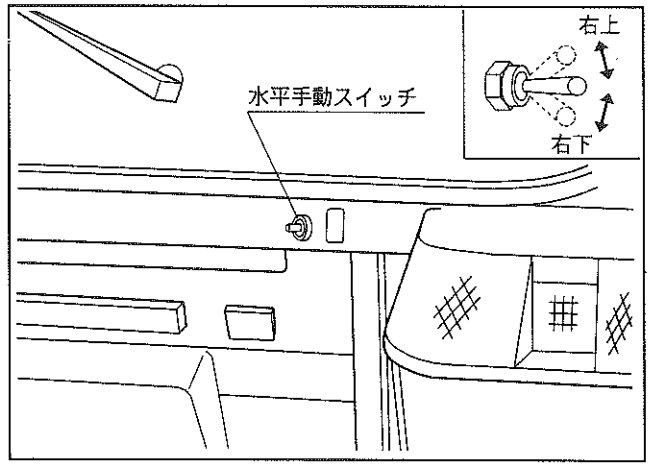
作業機を手動で左右に傾斜させるときに使用します。電子油圧操作パネルの水平切換スイッチは『手動』にしておいてください。

『右上』……方向に倒すと作業機は右上り、

『右下』……方向に倒すと作業機は右下り

になります。

手動スイッチを中央に戻した位置で傾斜が停止しますので作業機の取付け時などに使用すると便利です。



注意

キャビン後部の水平手動スイッチを操作するときは、次のことに注意してください。怠ると傷害事故を起こす恐れがあります。

①パーキングブレーキを確実にかけてください。

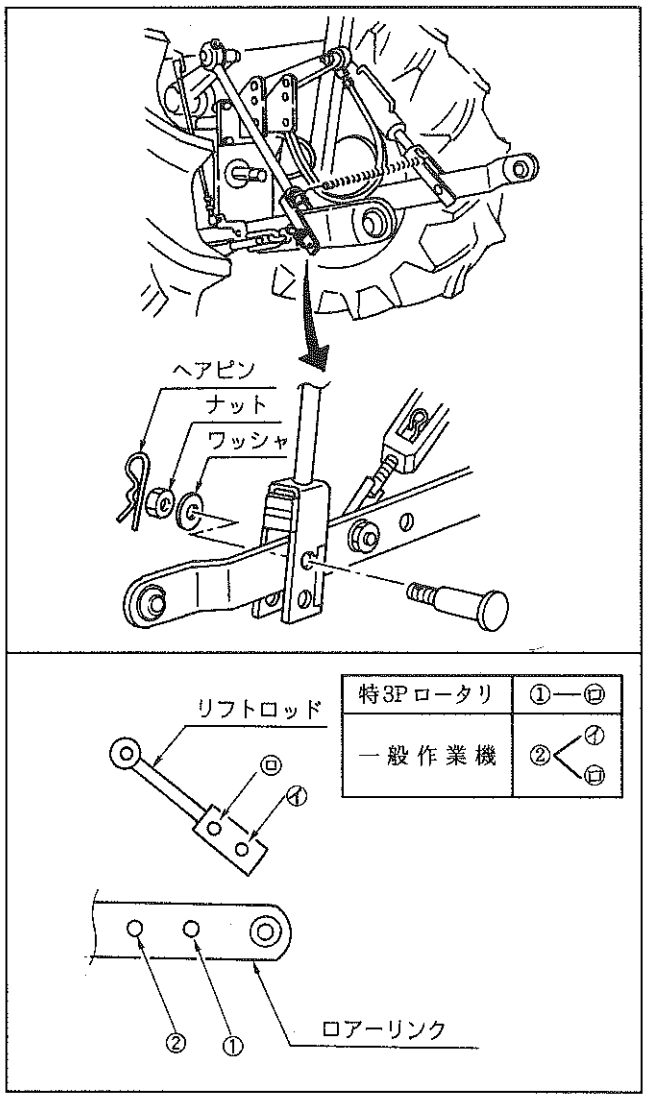
②ＰＴＯ変速を中立にして、エンジン回転をアイドリングにしてください。

③電子油圧操作パネルの水平切換スイッチを「手動」にしてください。

④必ずトラクタと作業機の間に挟まれる恐れのない位置に立ち、作業機の動きに注意しながらスイッチを操作してください。

■リフトロッド取付け穴位置

リフトロッドのロアーリンクへの取付けは、図のように一般作業機、特３Ｐロータリの場合と使い分けてください。



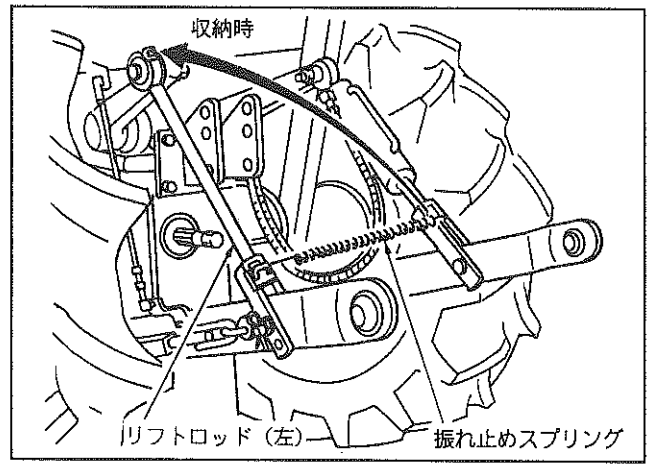
重要

- **一般作業機・普通３Ｐロータリ取付けの場合、トップリンクマストが、トラクタ側の部材（リヤフレーム、リヤウインド等）と干渉する場合がありますので、注意して上げてください。干渉する場合は、上げ規制を行なってください。（上げ規制の方法は、54、46ページをお読みください。）**

■振れ止めスプリング

作業機を使用しないときは、スプリングをかけ、ロアーリンクがタイヤに当たらないよう左右の振れ止めをしてください。

作業機を装着しているときは、リフトロッド（左）のフックを利用し、スプリングを収納してください。またこのフックはリンクピンの格納にも利用できます。



■作業機の取付け・取外し

作業機の取付け・取外しは、作業機の取扱い説明書に従い、行なってください。

警告

(1) 作業機の取付け・取外しは、平たんな場所で行なってください。怠ると機械が急に動いたり、傾いたりして思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(2) 作業機の取付け・取外しは、トラクタと作業機の間に立ってしないで、脇から扱うようにしてください。トラクタと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(3) 作業機を外した状態で、ＰＴＯ軸を回転させないでください。また、ＰＴＯ軸を使わない場合は、ＰＴＯ軸キャップを取付けてください。怠ると衣服を軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(4) 作業機に寄りかかったり、乗ったりしないでください。怠ると、転倒したり転落したりして大変危険です。

(5) ロータリ着脱時は、必ず尾輪を取付けて行なってください。怠ると、ロータリが急に傾いたりして、思わぬ事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

■バランスウエイト取付けについて

警告

ロアリンクに特に重い作業機を取付ける時は、必ずフロントバンパにバランスウエイトを取付けてください。怠るとトラクタの前輪が浮き上ったり、傾いたりして思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

また、バランスウエイトは純正品を使用してください。

■けん引作業について

警告

けん引作業を行なう場合は、必ず純正品のトレーラヒッチを使用してください。

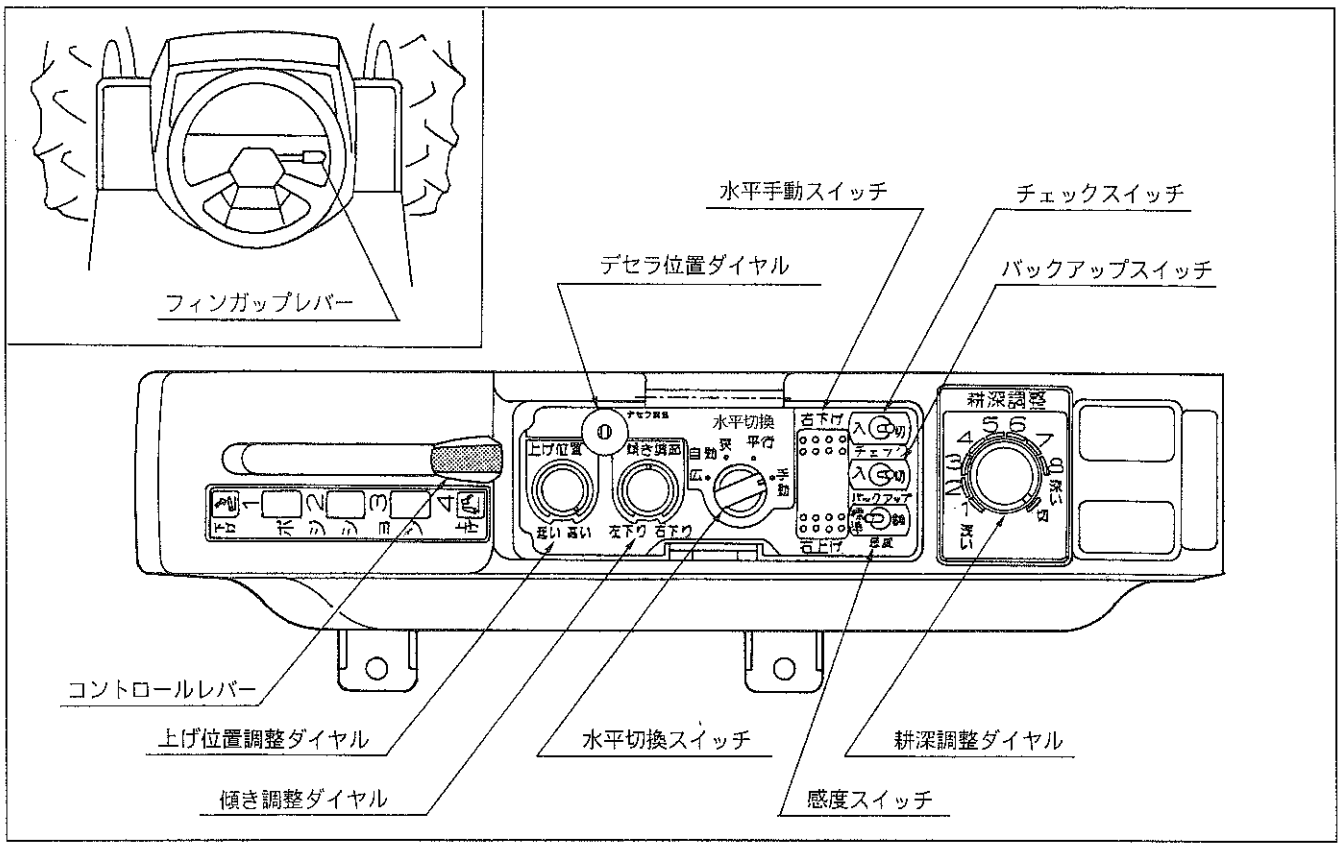
怠るとトラクタの前輪が浮き上ったり、傾いたりして思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

電子油圧装置の取扱い（ＷＸ型式）

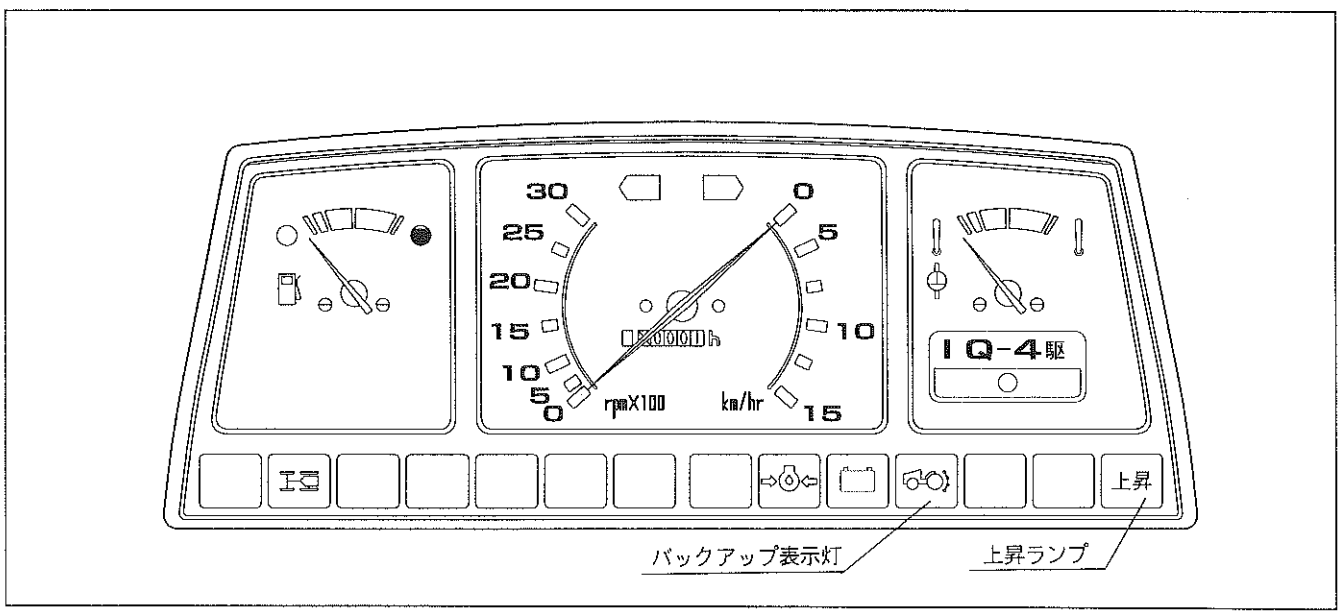
重要

●電子油圧装置の性能を発揮するためには、十分なウォーミングアップが必要です。暖機運転を行なって使用してください。（暖機運転の方法は42ページ暖機運転の項を参照してください）

■スイッチの名称



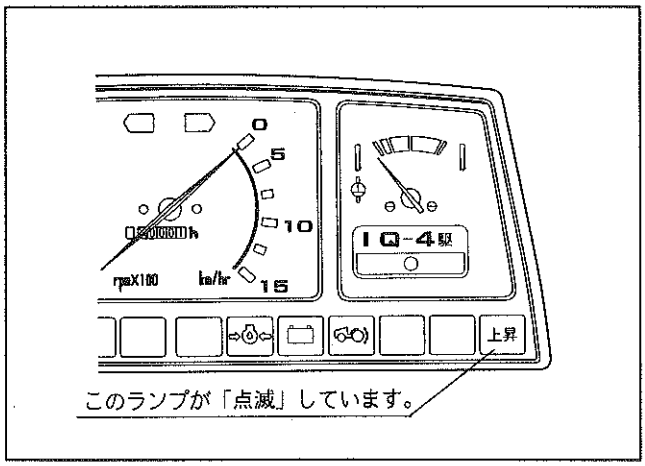
▶モニタランプの名称



作業機昇降装置の取扱い

■準備状態

エンジン始動時や、センサカプラを抜き差しした時に、油圧装置が昇降動作すると大変危険です。電子油圧装置では、エンジン始動時などでは安全のため、制御をすぐに開始せず、「準備状態」になって、上昇ランプが点滅しています。



重要

こんなとき準備状態になります。

(1) エンジンを始動したとき

(2) 耕深調整ダイヤルを切り換えたとき

(3) デプスセンサカプラを抜いたとき

(4) リフトアーム角センサカプラを抜いたとき

(5) チェックスイッチを操作したとき

■制御の開始

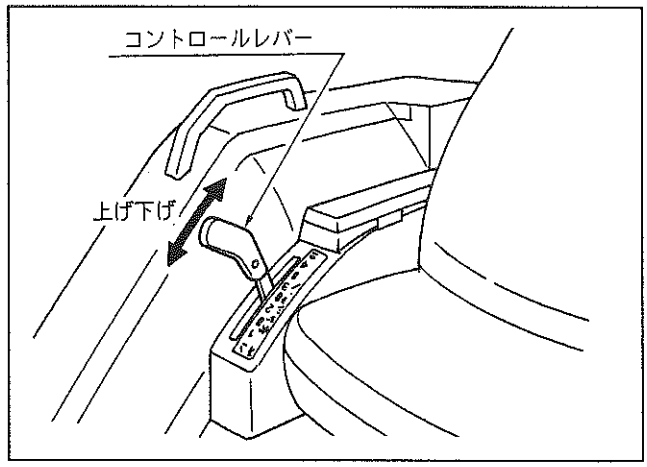
「コントロールレバー」を上げ下げすると、制御が開始されます。

▶操作方法

「コントロールレバー」を上げ下げ操作すると…

「コントロールレバー」操作位置と、作業機高さが一致したとき、ブザーが“ピッ”と鳴り、作業機がレバーの操作方向に応じて上がり下がりします。

このとき上昇ランプの点滅は止まります。



重要

●コントロールレバーを上げ方向に操作すると作業機は上がります。最上昇位置まで上げると、作業機の種類によってはトラクタと干渉する場合があります。操作はゆっくり行なってください。

また、最上昇位置でトラクタと干渉する作業機を使用する場合は、上げ位置調整ダイヤルで上げ位置を規制して使用してください。

（上げ位置調整の方法は54ページ上げ位置調整ダイヤルを参照ください。）

■コントロールレバー

コントロールレバーで作業機を自由に上げ下げでき、途中で止めると作業機もその位置を保ちます。（ポジションコントロール付）

▶操作方法

レバーを後方いっぱいまで引く。

作　業　機 ……上げ位置設定高さまで上がる
（上げ位置設定の方法は54ページ上げ位置設定ダイヤルの項を参照してください。）

上昇ランプ ……点灯

レバーを前方いっぱいまで倒す。
（フリーフローティング）

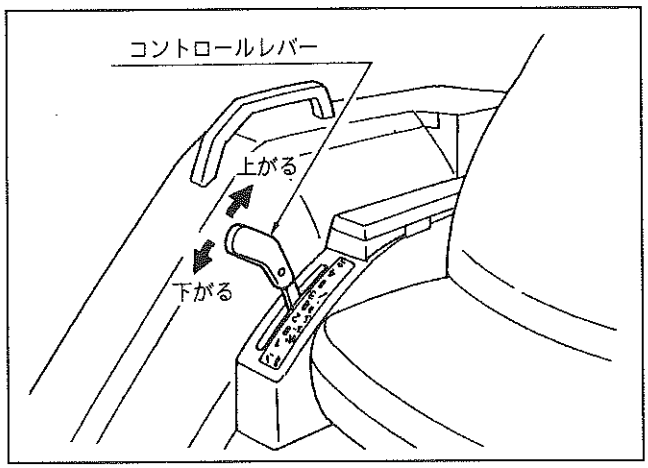
作　業　機 ……下がる

上昇ランプ ……消灯

レバーを途中で止める。

作　業　機 ……レバー操作方向に動き、停止する

上昇ランプ ……消灯



■フィンガップレバー

レバーを操作するごとにワンタッチで作業機が上がり下がりします。
（ほ場内での旋回操作が楽になります。）

▶操作方法

レバーを上げる。

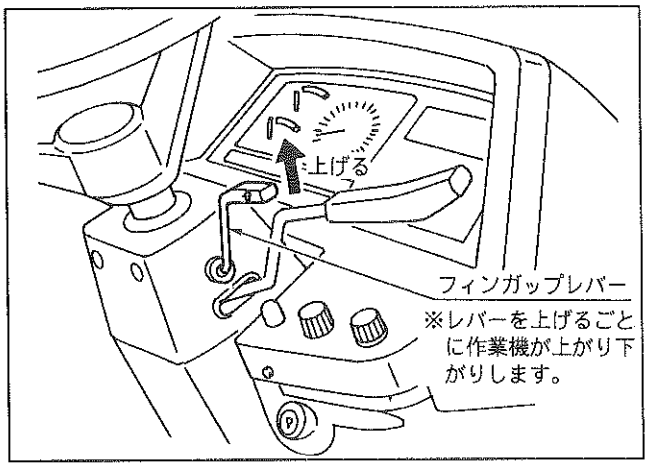
作　業　機 ……上げ位置設定高さまで上がる

上昇ランプ ……点灯

再度レバーを上げる。

作　業　機 ……下がる

上昇ランプ ……消灯



重要

●フィンガップレバーを操作すると、作業機は上がります。最上昇位置まで上げると、作業機の種類によっては、トラクタと干渉する場合があります。作業機を付け換えたときは、コントロールレバーで作業機をゆっくり上げ、トラクタと干渉しないことを確認してください。
また、最上昇位置でトラクタと干渉する作業機を使用する場合は、上げ位置調整ダイヤルで、上げ位置を規制して使用してください。（上げ位置調整の方法は54ページ上げ位置調整ダイヤルを参照ください。）

注意

(1) 危険防止のため、フィンガップレバーの使用は、ほ場内での作業のみ使用してください。
ほ場以外では、コントロールレバーで作業機を上げ下げしてください。怠ると思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(2) 畦はんぎりぎりに作業機を降下させる場合は、コントロールレバーでゆっくり下げてください。
フィンガップレバーで下げると、作業機が早く下がり、畦はんと作業機が当って畦はんや作業機を破損する恐れがあります。

■作業機降下速度調節

46ページ油圧降下速度調節つまみの項を参照してください。

■上げ位置調整ダイヤル

作業機の上げ位置を調節できます。

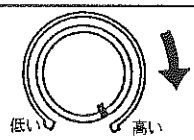
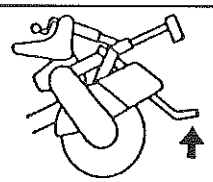
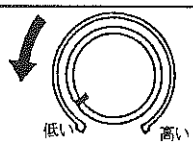
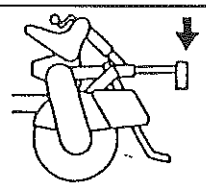
▶操作方法

ダイヤルを「高い」側に回す。

作業機の上げ位置が高くなります。

ダイヤルを「低い」側に回す。

作業機の上げ位置が低くなります。

上げ位置調整ダイヤル	作業機上げ位置
 「高い」側に回す	
 「低い」側に回す	

重要

コントロールレバーまたはフィンガップレバーを操作して作業機を上げたときおよび、バックアップで作業機が上がったときの上げ位置を任意の高さに規制できます。

■バックアップスイッチ

リニアシフトレバーを「後進」側に操作すると作業機が自動的に上がります。

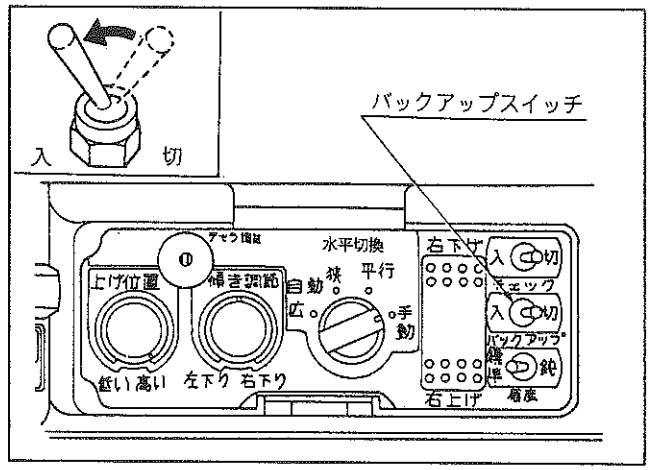
▶操作方法

(1) バックアップスイッチを「入」にしてください。

(バックアップ表示灯が点灯します。)

(2) リニアシフトレバーを「後進」側に操作すると、作業機が自動的に上がります。(上げ位置調整ダイヤル設定位置まで上昇すると停止します。)

(3) バックアップ装置で上がった作業機は、コントロールレバーまたはフィンガップレバーを操作して、下げることができます。



重要

- バックアップした後、リニアシフトレバーを「後進」にしたままで作業機を下げて、クラッチを踏んで停止している場合、そのままクラッチから足をはなすとトラクタは後進しますが、作業機は上がりません。
  この時はコントロールレバー又はフィンガップレバーを操作して作業機を上げてから後進してください。
- この装置は、リニアシフトレバーを「ニュートラル」→「後進」に操作したとき、作業機が上がるものです。
- リニアシフトレバーを「後進」に操作している間ブザーが鳴ります。(バックアップスイッチの切換位置に関係なくブザーは鳴ります。)

警告

バックアップをほ場以外で使用しないでください。ほ場以外では、必ずバックアップスイッチを「切」にしてください。怠ると、思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■上昇ランプ

作業機の状態が、このランプの表示状態によってわかります。

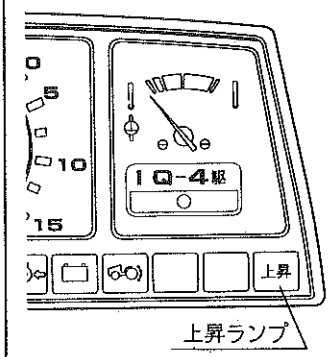
作業機上昇……点灯

作業機下降……消灯

準 備 状 態……点滅

上昇ランプが点滅しているときは、準備状態です。コントロールレバーを操作して制御を開始して使用してください。

(制御の開始は、52ページを参照してください。)



作業機状態	ランプ
作業機上昇	点灯
作業機下降	消灯
準 備 状 態	点滅

自動耕深制御装置の取扱い

■耕深調整ダイヤル

自動耕深制御での耕うん深さの調整と、ポジションコントロールへの切換えができます。

このダイヤルで希望の耕うん深さを設定してください。

▶操作方法

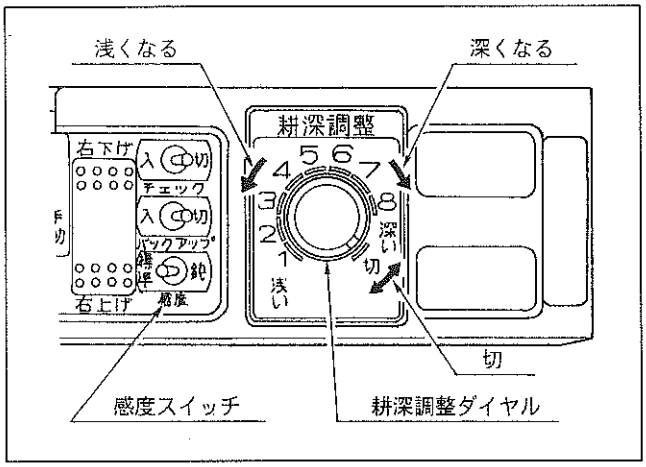
「深い」 … 耕うん深さを「深く」する。

「浅い」 … 耕うん深さを「浅く」する。

「切」 ……自動耕深制御を解除する。

(ポジションコントロール)

耕深調整範囲から「切」または「切」から耕深調整範囲に切換えたときは、準備状態になります。コントロールレバーを操作して制御を開始して使用してください。(52ページ制御の開始の項を参照してください。)



重要

- 畝立て作業などロータリカバーを上げて作業するときや、尾輪作業ではダイヤルを「切」にしてください。

■感度スイッチ

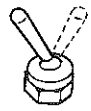
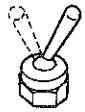
自動耕深制御の動作感度が切り換わります。

▶操作方法

「標準」……一般的な作業で使用します。

「鈍」…… ロータリの昇降動作がにぶくなります。

●一般的な調整位置

耕深感度	作　業　例
〔標準〕 標準  鈍	一般的な作業で使用します。
〔鈍〕 標準  鈍	浅おこし作業などで使用します。 「標準」の位置で作業すると、作業機が上下にハンチングする様なときには、この位置に切り換えてください。

■デセラ機構

自動耕深制御がスムーズに作動するよう、ある一定の位置からロータリの降り速度が遅くなるようにした機構です。

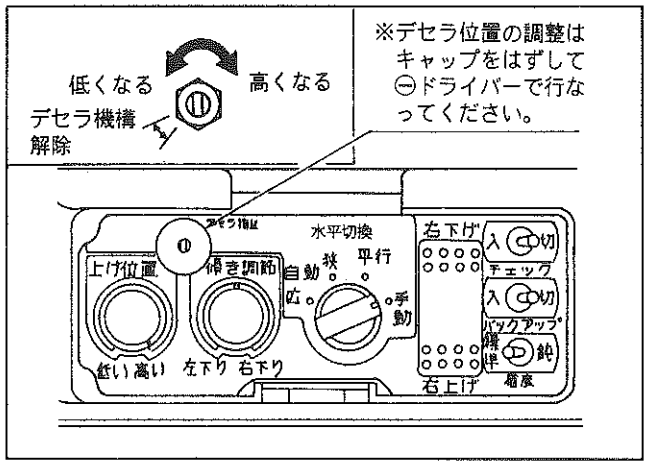
ほ場の条件によって、タイヤの沈下量が異なる場合など、デセラ機構がきき始める位置をデセラ位置ダイヤルによって調節することができます。

▶デセラ位置ダイヤルの調整方法

ダイヤルを右に回す ……きき始めの位置が高くなる。

ダイヤルを左に回す ……きき始めの位置が低くなる。

ダイヤルを回し切った位置にする ……デセラ機構が解除される。

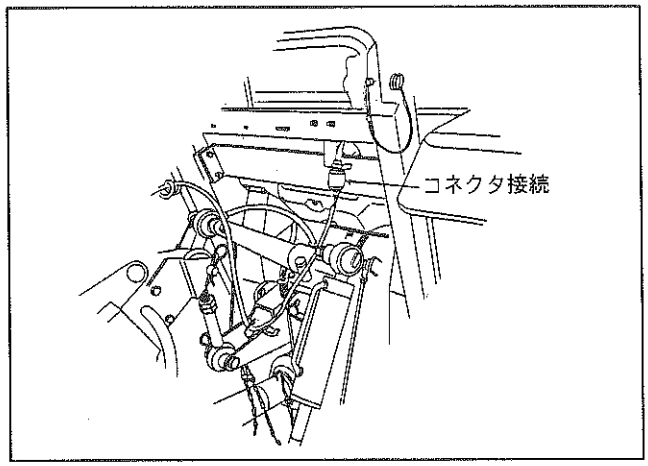


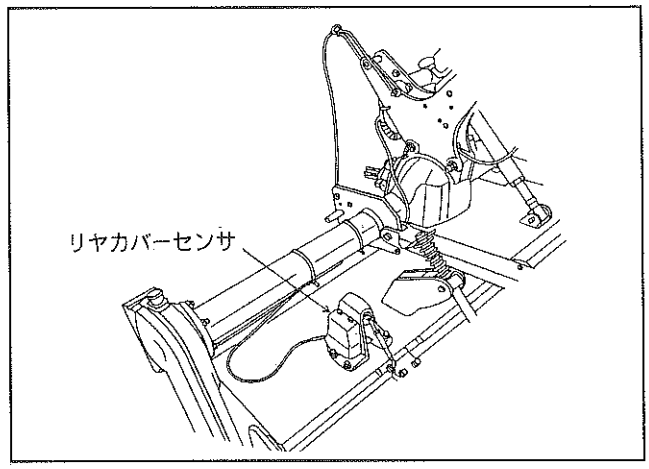
重要

- デセラ機構がきき始める位置は、ロータリを上げ位置から下げて、ロータリの耕うん刃が接地前5～10cm程度の位置から降下速度が遅くなる様に調整してください。(新車時はこの位置に設定しています。)
- デセラ位置を調整する場合は、取扱い販売店にご相談ください。
  調整が悪いと自動耕深制御の性能が悪くなる場合があります。

■リヤカバーセンサの接続

自動耕深作業を行なうときは、ロータリにリヤカバーセンサを取付け、ハーネスをトラクタ側のコネクタと接続してください。





重要

- ハーネスのコネクタを接続後、エンジンを始動し、ロータリを最上げ位置まで上昇させると、リヤカバーセンサの調整が自動的に行なわれます。この操作をした後、作業を行なってください。
- トラクタからロータリを外す場合は、必ずコネクタを抜くのを忘れないでください。またコネクタには、ゴムキャップを取付け土やほこりが入らないようにしてください。もし守らないと部品の破損につながります。

水平ロータリ装置の取扱い

■水平切換スイッチ

「自動」「平行」「手動」の選択と「自動」のときの作業機取付幅選択を切換えることができます。

● 「自動」

トラクタ本体の傾きに関係なく、傾き調整ダイヤルで設定した一定角度に作業機を保ちます。

「狭」……キセキ純正ロータリのとき

「広」……作業機取付幅がＪＩＳ １型（約720㎜）のとき

重要

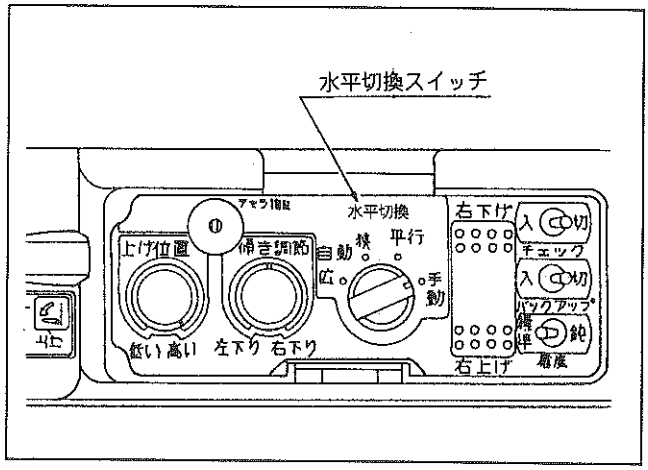
● 作業機を上げ位置まで上げた場合、トラクタ本体に対する作業機の傾斜角度が小さくなります。

● 「平行」

作業機がトラクタ本体と平行になります。

● 「手動」

自動水平制御、平行制御が「切」になります。



■感度スイッチ

自動水平制御の動作感度が切り換わります。

▶操作方法

「標準」……一般的な作業で使用します。

「鈍」……自動水平装置の動作が鈍くなります。

重要

このスイッチは耕深感度スイッチと同じものです。「鈍」にすれば、耕深感度、水平感度とも動作がにぶくなります。

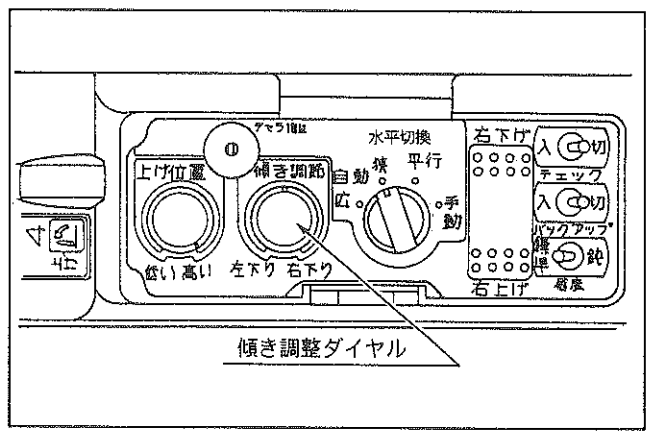
■傾き調整ダイヤル

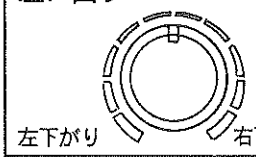
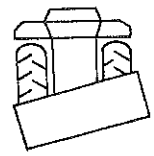
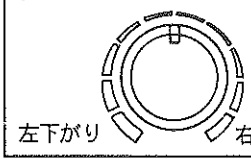
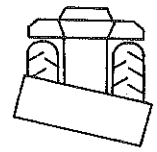
水平切換スイッチが「自動・狭」または「自動・広」のとき、作業機の傾きを任意の傾きに調整できます。

● 「左下り」……作業機が左下がり方向に動き、設定した位置を基準に自動水平装置が働きます。

● 「右下り」……作業機が右下がり方向に動き、設定した位置を基準に自動水平装置が働きます。

作業機の水平が調整不良の場合は、トラクタ本体を平坦な所に置いて、このダイヤルを回して調整してください。



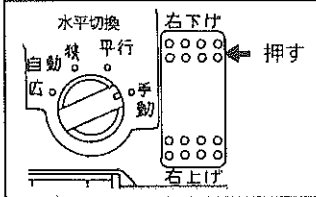
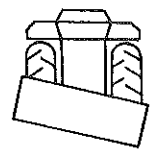
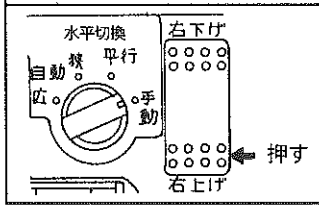
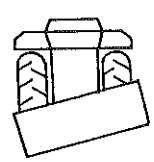
傾き調整ダイヤル	作　業　機
左に回す ←  	右が上がる 
右に回す →  	右が下がる 

■水平手動スイッチ

作業機を手動で、左右に傾斜させることができます。

- 「右上げ」 ……作業機の右側が上がります。
- 「右下げ」 ……作業機の右側が下がります。

「水平切換スイッチ」を「手動」にしておくと、手動スイッチの操作を止めた位置で傾きが止まります。作業機取付時などに使用すると便利です。

水平手動スイッチ	作　業　機
 	右が下がる 
 	右が上がる 

チェックスイッチの取扱い

チェックスイッチを「入」にすると、コントロールパネルのスイッチや、ダイヤル、ＩＱシフトレバーまたはセンサの作動確認や配線のはずれが確認できます。

確認後、チェックスイッチは必ず「切」にしてください。

▶操作方法

(1) メインスイッチを「ＯＮ」にしてください。
（メインスイッチの操作方法は、24ページを参照してください。）

(2) チェックスイッチを「入」にしてください。

(3) センサを作動させたり、コントロールパネルのスイッチやレバーやダイヤルを操作してください。
ＩＱシフト型式の時、主変速ボタン、副変速レバーを操作してください。
正常なときは、センサを作動させたりスイッチやレバーやダイヤルを操作したとき、ブザーが鳴ります。ブザーが鳴らない場合は配線のはずれがないか確認してください。

以上の操作でブザーが鳴らなかったり、不調時の処置を行なっても故障が直らない場合は、ハーネスの断線、コントロールボックスの故障、バルブのゴミ詰り等が考えられますのでお買いあげ先に御相談ください。

自動回動ロータリ装置の取扱い（U型ロータリ）

自動回動ロータリ専用部品の組付け

ロータリ梱包内の組付要領書に従って正しく組付けてください。

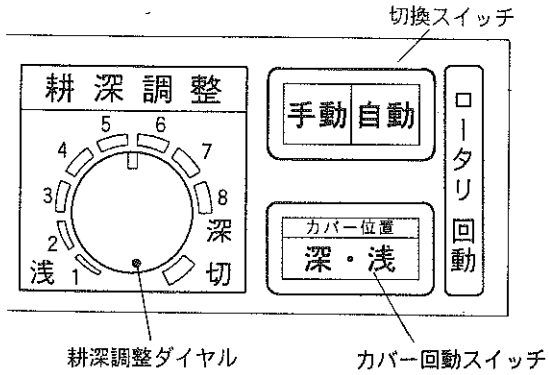
ハーネス、コネクタの着脱

WX型式と同じです。57ページを参照してください。

重要

トラクタからロータリをはずす場合は、必ずコネクタを抜き去り、損傷しない所に置いてください。
又、コネクタには、ゴムキャップを取付け土やホコリが入らない様にしてください。

スイッチの操作要領



■耕深調整ダイヤル

耕うん深さの調整ができます。

（56ページ耕深制御装置の取扱いを参照してください。）

■切換スイッチ

自動回動ロータリの自動、手動が切換わります。

▶操作方法

「自動」……耕深調整ダイヤルと連動して、ロータリカバーが動きます。

「手動」……自動回動を解除する。（ロータリカバーが耕深調整ダイヤルと連動しません）

重要

スイッチを「自動」に切換えても、作業機昇降装置が「準備状態」のときは、ダイヤル操作してもカバーは動きません。52ページの操作要領に従って、制御を開始してください。

■カバー回動スイッチ

ロータリカバーを任意の位置に設定することができます。

「深」…ロータリカバーが「深側」に動きます。

「浅」…ロータリカバーが「浅側」に動きます。

■いろいろな使いかた

①一般的な使いかた

(1) 切換スイッチを「自動」にしてください。

(2) 耕深調整ダイヤルで、耕うん深さを調整してください。
耕深調整ダイヤルと連動してロータリカバーが動きます。

②①で作業中、耕深は変えたくないが、ロータリカバー位置を少し変更したい

(1) ①操作後、カバー回動スイッチで、ロータリカバー位置を調整してください。
耕深は、ほとんど変化せず、ロータリカバーのみ動きます。

重要

カバー回動スイッチを操作して、耕深調整ダイヤルと、ロータリカバーの位置関係をずらした後（②作業）、元の位置関係に戻すときは、切換スイッチを一旦「手動」にし、再度「自動」に切換えてください。

③ロータリカバー位置は固定して、耕深を変えたい

(1) 切換スイッチを「手動」にしてください。

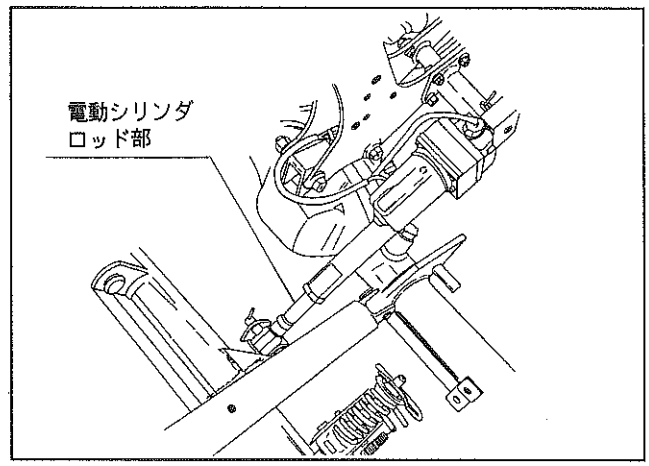
(2) カバー回動スイッチを操作して、ロータリカバーを希望の位置に動かしてください。

(3) 耕深調整ダイヤルで、希望の耕うん深さを設定してください。

重要

耕うん作業を始める時には、電動シリンダのロッド部は、泥やほこりを水洗い又は、ふきとってきれいにしてから始めてください。

但し、圧力水は長時間かけないでください。

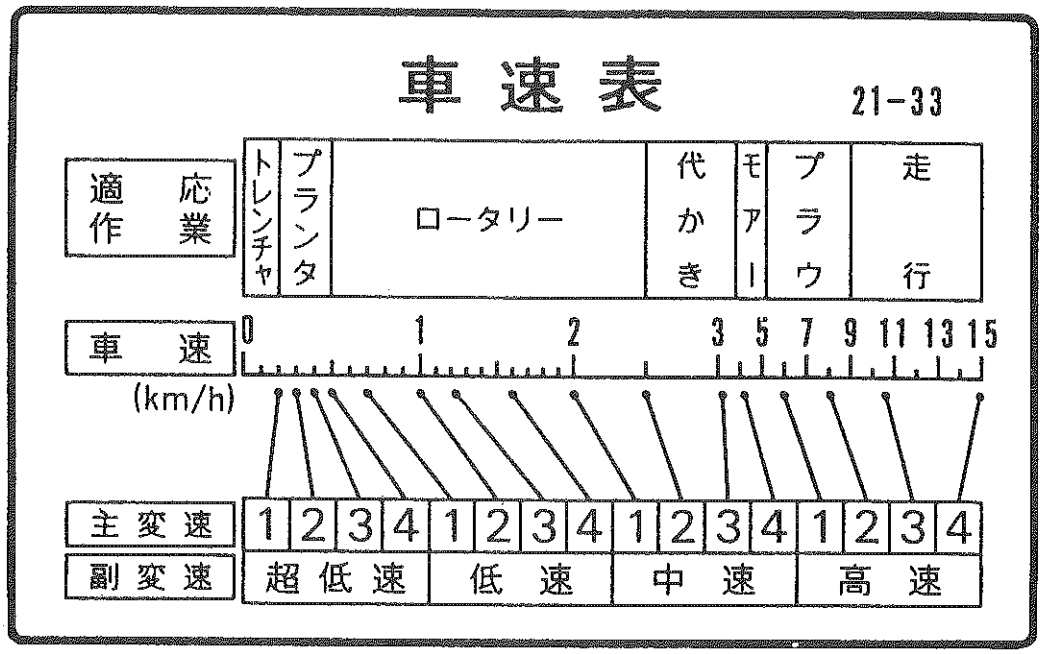


作業運転のしかた

■走行速度とＰＴＯ回転速度

トラクタの走行速度およびＰＴＯ軸回転速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。安全で最適な速度で、作業をしてください。

▶走行速度



▶ＰＴＯ軸回転速度

ＰＴＯ		作業内容	回転数／分		
			ＴＧ21Ｆ ＴＧ23Ｆ ＴＧ25Ｆ	ＴＧ27Ｆ ＴＧ29Ｆ	ＴＧ31Ｆ ＴＧ33Ｆ
正転	1速	ロータリ耕うん・畦立	561	584	569
	2速	ロータリ耕うん・畦立	720	749	729
	3速	代掻・砕土	1037	1079	1051
	4速	代掻・砕土	1246	1296	1262
逆転	1速 2速 3速 4速	逆転耕うん（但し未耕地耕うんは、しないでください。） 土寄せ 砕土	同上	同上	同上

■ほ場の出入り

警告

(1) 必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。これを怠ると、ブレーキが片ぎきして、転倒事故を引き起こす危険があります。

(2) 道路とほ場の高低差が大きい場合や畦の高さが高い場合は、必ずアユミを使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒する恐れがあり危険です。

(3) 畦を横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、畦と直角にゆっくり走行してください。斜めになると、スリップや転倒の原因になり大変危険です。

(4) 常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。バンパウエイトがわりに人が乗ったりすると傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■ほ場での旋回

(1) ほ場での旋回は、左右のブレーキペダルを連結している連結金具を外して、左右独立して使用すれば、小さく回れます。
この場合は、ハンドルを切ると同時に旋回しようとする方のブレーキペダルを踏込んでください。

(2) 作業速度やほ場の傾斜の程度に配慮し、安全な作業をしてください。

警告

作業機を装着すると、かなりの長さになり旋回半径が大きくなりますので、周囲の人や構築物に注意してください。これを怠ると傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

■デフロックの使いかた

デフロック装置は、非常に便利で役立ちますが、取扱いを誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので、注意してお使いください。

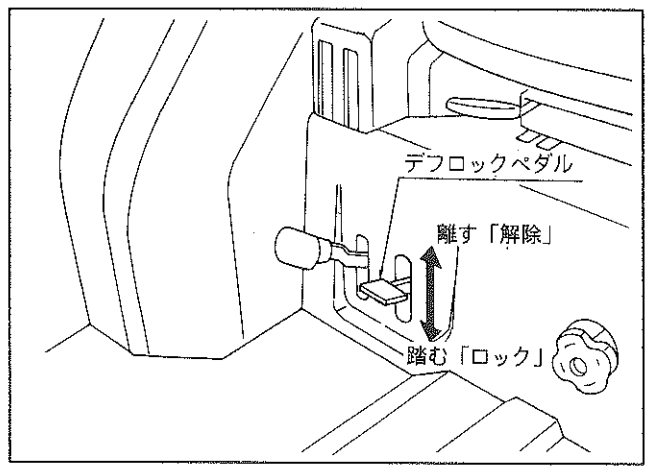
▶デフロックの使用例

(1) ほ場への出入りに片輪がスリップし、トラクタが進まないとき。

(2) 凹凸ほ場で片輪がスリップするとき。

(3) 軟弱ほ場で片輪がスリップし、走行不能になったとき。

(4) プラウ作業中に車輪がスリップし、牽引力が出ないとき。



重要

(1) デフロックを使用するときは、エンジン回転を低速にしてください。

(2) デフロックペダルから足を離してもデフロックが外れない場合は、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

警告

(1) 道路走行するときは、デフロックペダルを解除してあるか確認してください。これを怠ると衝突・転倒事故を引き起こします。

(2) デフロックを入れたままで旋回しないでください。これを怠ると衝突・転倒事故等につながり大変危険です。

警告

(1) 路上走行時は、４WD切換スイッチを「２WD」か「４WD」位置にしてください。怠ると転倒事故の原因になり大変危険です。

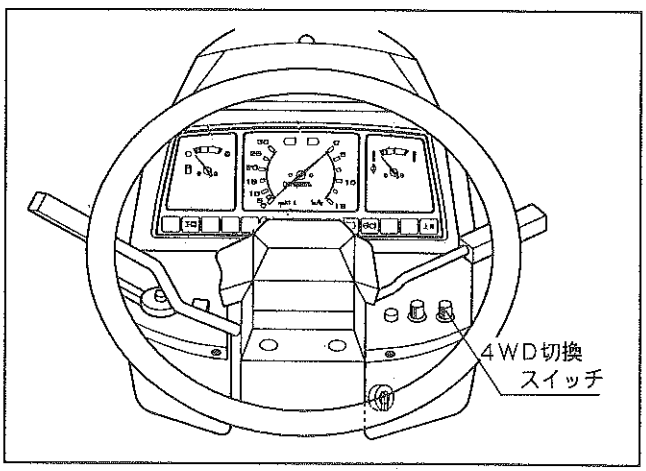
(2) ほ場の出入り・トラックへの積み・降ろしは、４WD切換スイッチを「４WD」位置にして行なってください。怠ると転倒事故の原因になり大変危険です。

(3) フロントローダ作業等、前輪に重荷重がかかる作業は、４WD切換スイッチを「スーパーフルターン」位置にして行なわないでください。トラクタの故障や思わぬ事故の原因になる恐れがあります。

■スーパーフルターン（K型式）の使いかた

スーパーフルターンは、「４WD切換スイッチ」を「スーパーフルターン」の位置にすると、ほ場内で小さく素早く旋回できます。

しかし、使用方法を誤ると転倒などの危険がありますので、十分注意してお使いください。



■ＩＱ４駆（Ｖ型式）の使いかた

ＩＱ４駆は、運転状態に応じて２駆状態と４駆状態が自動的に切換わります。

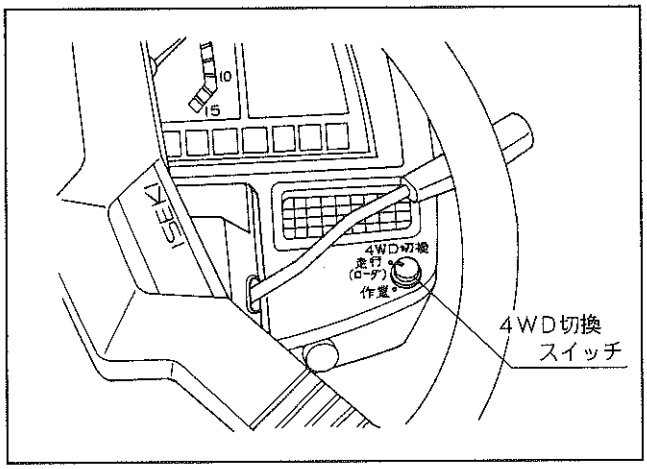
(1) ほ場では、タイヤによる土押し防止、なめらかで素早い小回り旋回ができます。

(2) 路上走行時には、制動力向上、タイヤ摩耗軽減の効果があります。

下記により「４ＷＤ切換スイッチ」の切換えを行ない使用してください。

「走行（ローダ）」 ……２駆状態と４駆状態が自動的に切換わります。

「作業」……２駆状態と４駆状態およびスーパーフルターン作動状態が自動的に切換わります。



警告

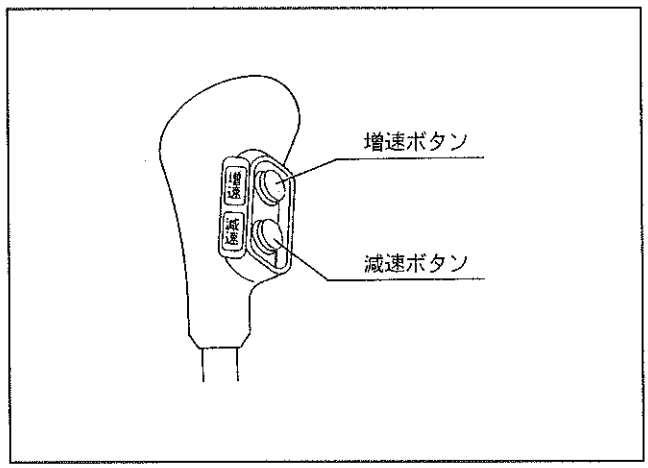
路上走行等の高速作業、ほ場の出入り、トラックへの積み・降ろし、急傾斜地作業やフロントローダ作業等の前輪に重荷重のかかる作業は、４ＷＤ切換スイッチを「走行（ローダ）」位置にして行なってください。怠ると、転倒事故の原因になり大変危険です。

■ＩＱシフト（Ｓ型式）の使いかた

(1) 主変速４段の増速・減速は、クラッチペダル操作なしで「増速ボタン」・「減速ボタン」操作のみで行なえます。

作業中、状況に応じてボタン操作のみで簡単に変速できます。

ボタンを押すごとに、速度が１段づつ増速または減速します。



(2) 前後進の切換えは、クラッチペダルを踏まなくても、リニアシフトレバーの操作のみで行なえます。

前進・後進の多い作業、ロータリ耕うんでの４隅の切り返しなどが楽に行なえます。

警告

(1) 急な登り坂や、下り坂、トラックへの積み・降ろし、畦の乗り越え途中での変速ボタン操作は、しないでください。あらかじめ低速で安全な変速位置に入れて使用してください。これを守らないと、前輪の浮き上りや、転倒の原因となり大変危険です。

(2) 副変速が「高」の場合、前進・後進の切換えは一旦停止してから行なってください。これを怠ると変速時のショックが大きく、運転者に危険を及ぼし、またリニアクラッチ損傷の原因になります。

(3) リニアシフトレバーの操作は、必ずトラクタの座席に座って行なってください。これを怠るとトラクタが動き出した時、正常な運転ができなくて事故を引き起こす原因になります。

重要

- 寒冷地においては、発進および変速の時間が遅れる場合がありますが、これは異常ではありません。油温が上がれば正常に発進することができます。

  必ず暖機運転をしてください。
- 路上走行中の「増速」「減速」は、エンジン回転を落してから行なってください。

輪距の調節

警告

けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。最小輪距では、左右のバランスが不安定になります。
輪距を広げないと、転倒による傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■前　輪

前輪輪距は変更できません。前輪タイヤの左右入れ替えは、しないでください。

■後輪輪距調節

(1) ボルト・ナットをゆるめた後、ジャッキで左右の後輪を浮かします。
(2) ボルト・ナットを外し、輪距の調節をします。

警告

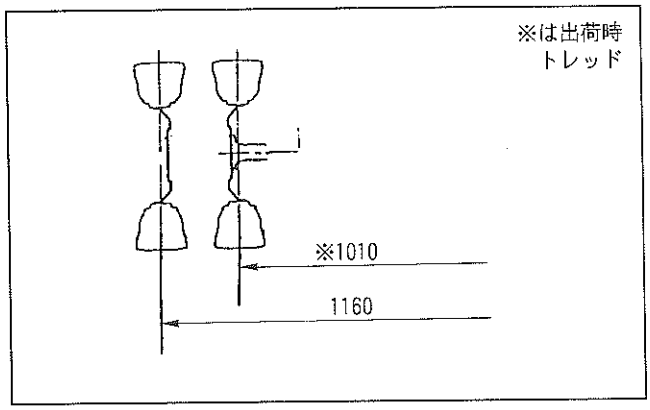
ジャッキアップするときは、エンジンを止め、ジャッキとトラクタの安定を確認し、前輪には車止めをしてください。これを怠ると傷害事故を引き起こす恐れがあります。

重要

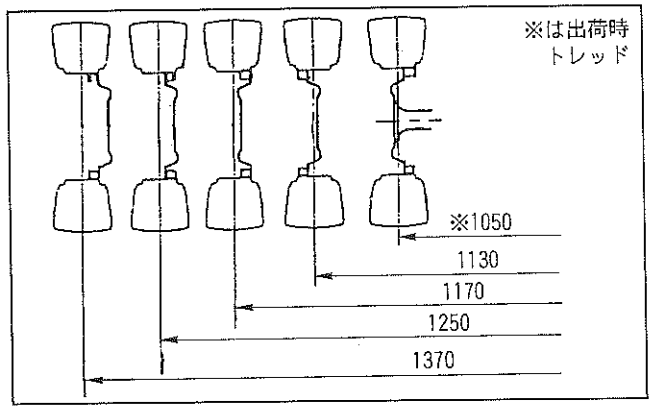
- タイヤは、側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
- 各部のボルト・ナットは確実に締付けてください。

前輪…… 900～1100kgf・cm
後輪……1600～1800kgf・cm

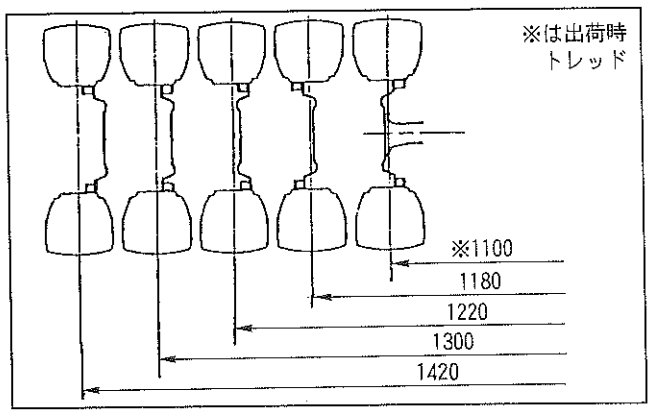
TG21, TG21-06, TG23, TG25N



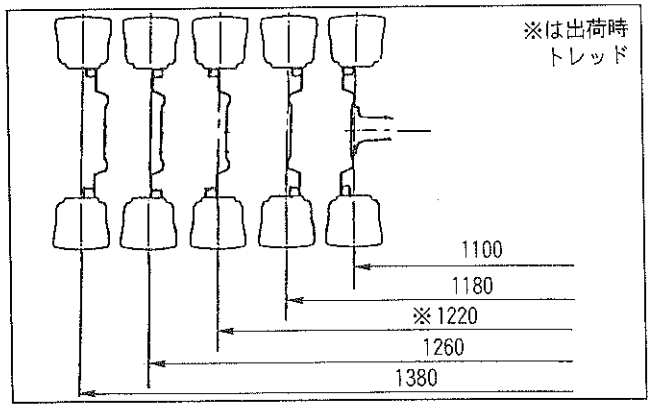
TG23-06, TG25, TG27



TG29, TG31, TG33



TG29-16



点検整備

警告

給油及び点検整備するときは、①トラクタを平たんな広い場所に置き、②エンジンを止め、③パーキングブレーキをかけ、④油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックし、⑤さらにロータリの爪軸の下に木の台を置き、⑥エンジン各部が十分冷えてから、安全を確認して行なってください。

安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

定期点検整備箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店・農協または当社営業支店にご相談ください。

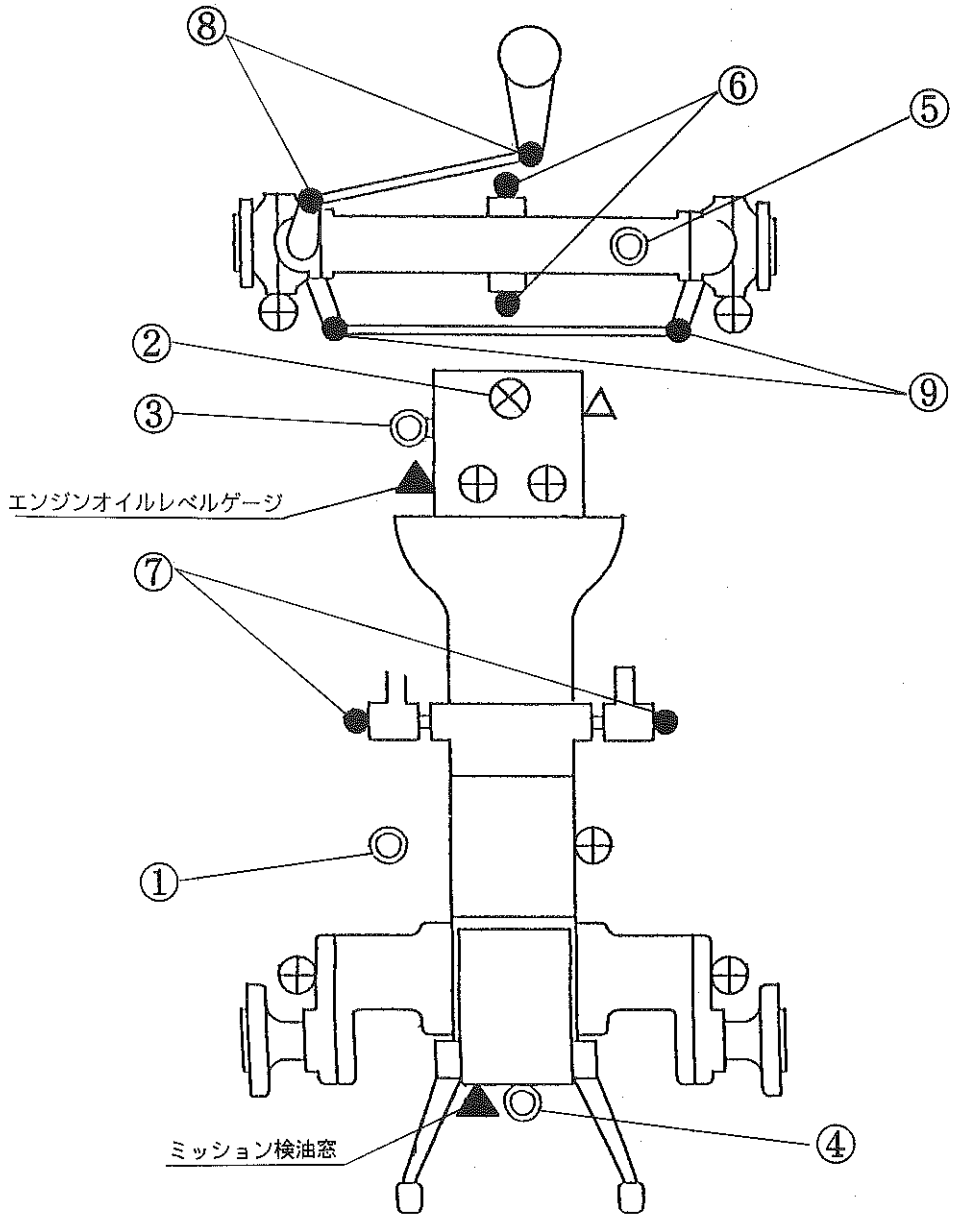
○ 点検、補充、調整　　△ 清掃、洗浄
● 交換　　★ サービス工場に依頼

区分	項目	運行前点検	定期点検・整備時（アワー・メータ表示） 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	備考	参照ページ
エンジン	エンジンオイル	○	●		●		●		●		●		●		初期50時間、その後100時間毎交換	73
	エアクリーナ	○		△		△		△		△		△		●	100時間毎清掃 エレメントは5回清掃後又は破損のある場合交換	75
	ラジエータ冷却水	○													1年1回交換	74
	ラジエータ	○														75
	燃料	○														72
	燃料フィルタ	○		△		△		●		△		△		●	100時間毎洗浄 300時間毎エレメント交換	72
	ファンベルト	○														83
	バッテリ液面点検	○		○		○		○		○		○		○	100時間毎点検	81
	オイルフィルタ		★						★						初期50時間、その後300時間毎交換	73
	各部ボルト、ナットのゆるみ	○														—

○ 点検、補充、調整　　△ 清掃、洗浄
● 交換　　★ サービス工場に依頼

区分	項目	運行前点検	定期点検・整備時（アワー・メータ表示） 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	備考	参照ページ
本体	ミッションオイル	○	●						●						初期50時間 その後300時間毎交換	76
	クラッチペダルの遊び	○														82
	ブレーキペダルの遊び	○														82
	ブレーキペダルの効き具合	○														82
	各レバー類の作動	○														–
	ステアリングホイルの遊び	○						★						★	300時間毎点検	84
	トーイン							★						★		83
	空気圧	○						○						○	300時間毎調整	84
	かじ取り装置ボールジョイント増締							○						○		–
	ホイル締付ボルト	○														67
	電装計器作動	○														–
	アクセルレバー アクセルペダル調整							★						★	300時間毎調整	84
	各部のグリースアップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間毎補充 （代掻時は毎日）	78
	各部ボルトナットのゆるみ	○														–
	クラッチ室、オイル漏れ点検														クラッチ室下部のプラグを抜き、1年1回点検	–
	油圧 オイルフィルタ		★				★				★				初期50時間 その後200時間毎交換	77
	四駆フロントアクスルオイル	○	●		○		○		○		○		○		100時間毎点検 600時間毎交換	77
	各部ゴムパイプ			○		○		○		○		○		○	100時間毎点検	–
	電気配線の点検	○			○			○		○		○		○	1年に1回点検	79

給油・給水一覧表



● グリース給油（グリースニップル）

◎ 給油口

⊕ 排油口

▲ 検油口

⊗ ラジエータ（給水口）

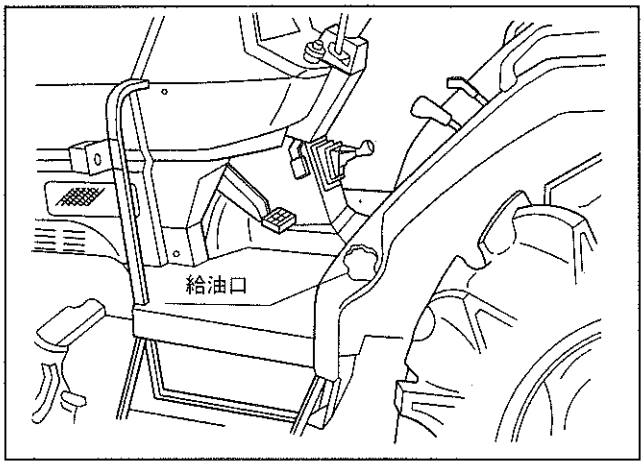
△ ラジエータ（排水口）

番号	給油（水）箇所	容　量（ℓ）		使　用　オ　イ　ル
①	燃　料	35.0		ディーゼル軽油（ＪＩＳ２～３号）
②	ラジエータ	5.6		清水または不凍液（Ｌ・Ｌ・Ｃ）
③	エンジン	5.0		ヰセキ・ディーゼル・エンジンオイル
④	ミッションケース	ＴＧ21 ＴＧ23 （06型式除く） ＴＧ25Ｎ	22.0	ヰセキＵ・Ｔ・Ｈオイル
		ＴＧ23-06 ＴＧ25 （Ｎ型式除く） ＴＧ27 ～ ＴＧ33	24.0	
⑤	フロントアクスル	ＴＧ21 （06型式除く） ＴＧ25Ｎ	7.0	ヰセキ・ハイポイドギヤーオイル （#80） ヰセキ・マルチデラックスオイル （#80）
		ＴＧ21-06 ＴＧ23 ＴＧ25 （Ｎ型式除く） ～ ＴＧ33	7.5	
⑥	センタピボット	適　量		リチューム系一般グリース
⑦	ブレーキアーム			
⑧	タイロッドエンド(前)			
⑨	タイロッドエンド(後)			

点検と清掃

■燃　料

燃料は、ディーゼル軽油（ＪＩＳ２号～３号）を使用してください。



重要

●燃料タンク内に水、ゴミ等が入らぬよう注意してください。

●燃料キャップが締まっているか確認してください。

> **危険**
> **燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。**

▶燃料系統の空気抜きのしかた

次のような場合に燃料系統の空気抜きを行なう必要があります。

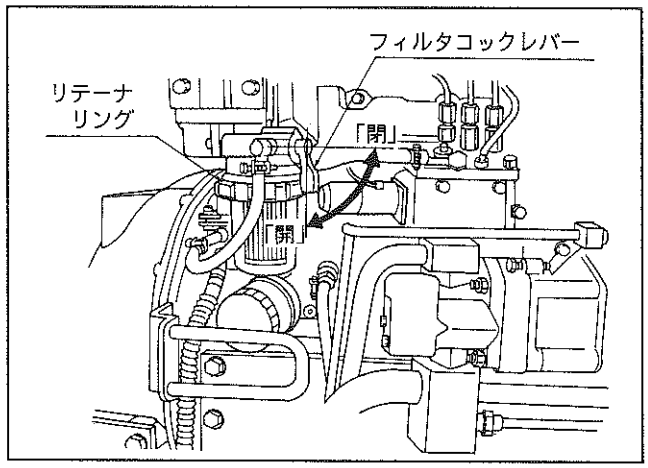
●燃料切れを起したとき

●フィルタおよび配管を外したとき

(1) 燃料フィルタのレバーを『ＯＦＦ』にして燃料タンクに燃料を入れます。（９ℓ以上）

(2) 燃料フィルタのレバーを『ＡＩＲ』にして、メインスイッチを「ＯＮ」にします。

(3) オーバーフローパイプより燃料の流出を確認してください。気泡が出なくなるとレバーを『ＯＮ』位置にします。



▶燃料フィルタの清掃と交換

(1) 燃料中に含まれる水・ゴミがフィルター内に沈殿しているか点検する。

(2) 水・ゴミがたまっている場合は、リテーナリングを回しカップを外し、エレメントおよびカップ内部を軽油で洗浄してください。

(3) 締付けは、燃料もれのないよう十分注意してください。

重要

●フィルタを外したときは、必ずエア抜きをしてください。

▶燃料ホースの点検

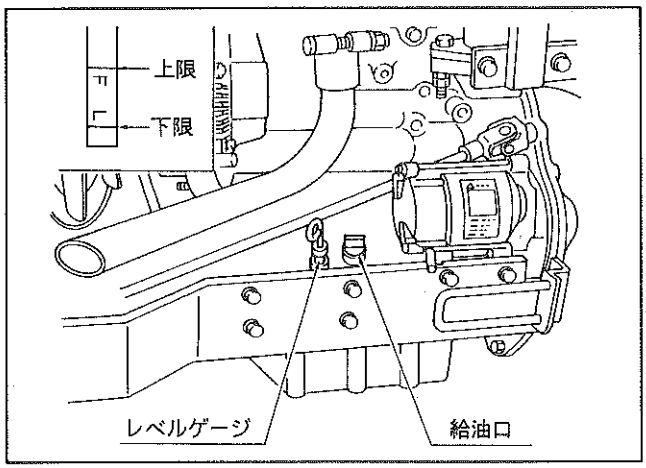
燃料ホースは100時間ごとに点検してください。ひび・きれつ・燃料もれがあった場合は交換してください。

■エンジンオイル

▶点　検

(1) レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

(2) 「下限」以下の場合は、補給してください。



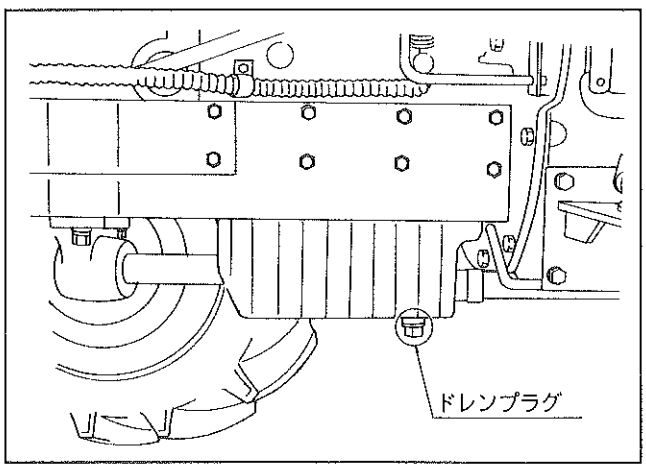
重要

- **エンジンオイルは、上限以上に入れないでください。**
- **使用するエンジンオイル、ギヤーオイルは、必ず「ヰセキ純正オイル」を使用してください。**
  (112ページ参照)

▶オイルの交換

(1) ドレンプラグ（２箇所）を外してオイルを排出します。

(2) 給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。



▶エンジンオイルフィルタの交換

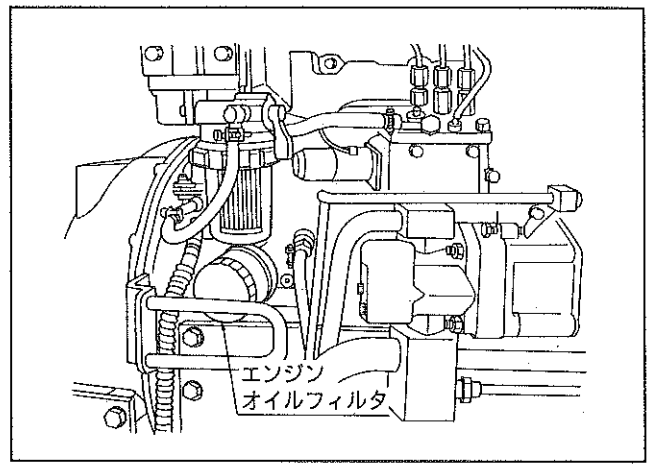
(1) 市販のフィルタレンチで取外します。

(2) 新しいオイルフィルタのＯリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締付けます。（シール面のゴムパッキンが接触してから、約⅔回転締付けてください。）

(3) エンジンオイルを規定量まで補給します。

(4) エンジンを約５分間運転し、オイルランプの作動に異常がないか確認してから止めます。

(5) 再びレベルゲージで油面を確認し、不足していればエンジンオイルを補給してください。



■冷却水

警告

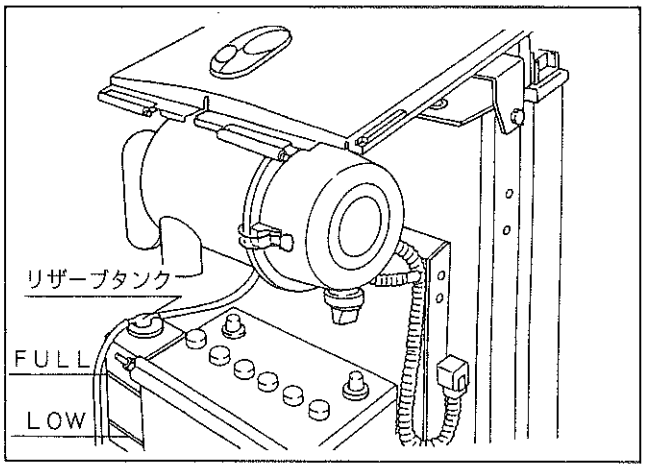
ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しつつ開けてください。これを怠ると、熱湯が噴出してやけどをする危険があります。

ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。

▶点 検

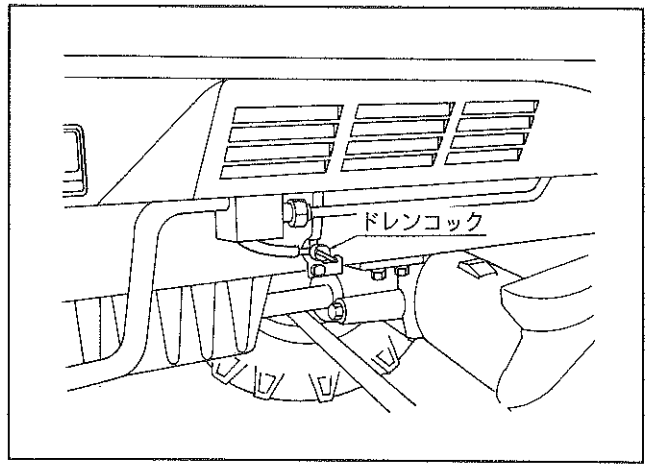
(1) 右側のサイドカバーを開いてリザーブタンク内の冷却水が、上限「ＦＵＬＬ」と下限「ＬＯＷ」の間にあることを確認してください。

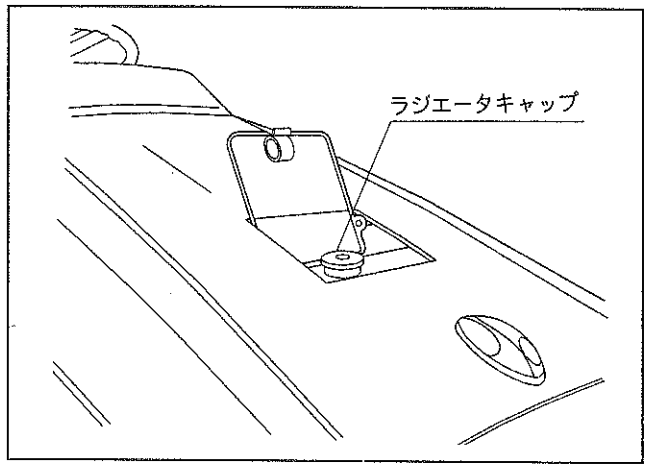
(2) 冷却水が不足している時は、リザーブタンクの「FULL」まで補給してください。



▶交 換

(1) 冷却水を抜くときは、エンジン右側のドレンコックを開けて抜きます。ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。
リザーブタンクの排水は、リザーブタンクを外して行ないます。





(2) 水道の水でラジエータ内部をよく洗浄してください。

(3) ドレンコックを閉じて、冷却水を注入し、ラジエータキャップを確実に締めてください。

(4) エンジンを始動し、約５分間ほどアイドリング回転で運転し、再度冷却水の量を確認し不足していれば補給してください。

▶不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

(1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。

(2) 不凍液の混合比は、不凍液メーカや気温により異なりますので、不凍液メーカの説明書に従ってください。

(3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。

(4) 不凍液の補給

●蒸発の場合……

冷却水が減った分だけ、リザーブタンクに水を補給してください。

●ブリーザより漏れた場合……

同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

■ラジエータの清掃

警告

エンジンは必ず停止して清掃してください。これを怠ると、回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

▶防虫網の清掃

水田・草地や夜間の作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫などが付着し詰まることがありますので、こんなときは防虫網を清掃してください。

防虫網を引出して清掃します。

▶ラジエータコアの清掃

フィンとチューブの間にまで、ゴミが入った場合は、水道水で流してください。

重要

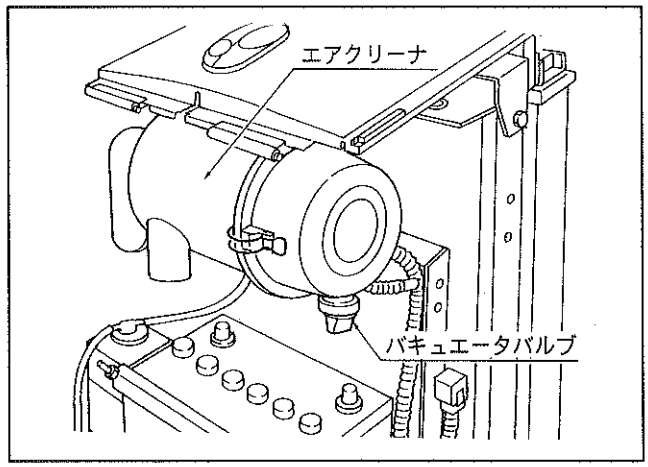
●強い圧力水をかけると、フィンが変形することがありますから、注意してください。

●エンジンまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。

■エアクリーナの清掃

▶バキュエータバルブの清掃

サイドカバーを開け、バキュエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落してください。水分があるときは、エアクリーナ内部をボロ布等にてふき取ってください。



▶エレメントの清掃

(1) クリップを外し、エレメントを取出します。

(2) エレメントの清掃は次の要領で行なってください。

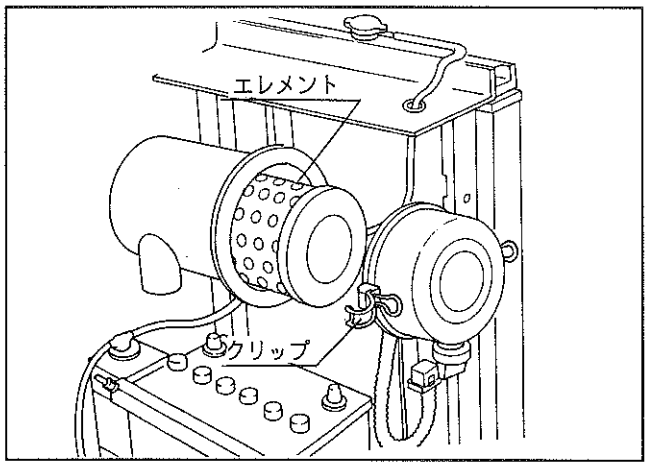
●乾いたほこりがついている場合

エレメントの内側から空気を吹付けるか、または手で軽くたたいてゴミを取除いてください。

●湿ったほこり、油分などで汚れている場合

家庭用中性洗剤を水でうすめエレメントを約30分浸し、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。

(3) エレメント清掃後、確実に組付けてください。



重要

(1) 清掃時エレメントを石やコンクリートでたたかないようにしてください。

(2) エアクリーナ各部の締付けは、確実に行ないゴミを吸込まないようにしてください。

▶エレメントの交換

エレメントは5回清掃後または破損している場合は交換してください。

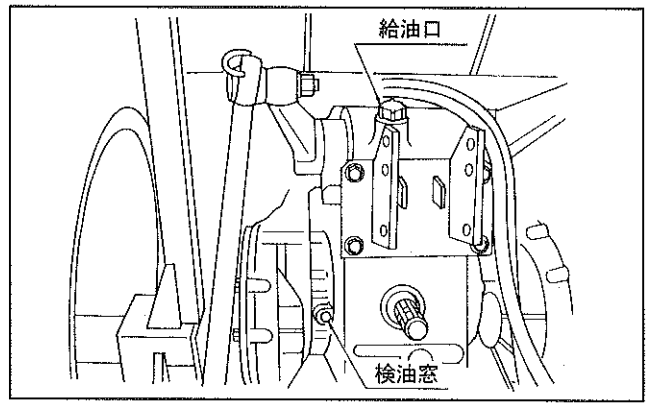
■ミッションケースのオイル

▶点　検

(1) オイルレベルが検油窓の範囲にあるかを調べます。（平坦な場所で行なってください。）

(2) 検油窓以下の場合は補給が必要ですが、検油窓以上には入れないでください。

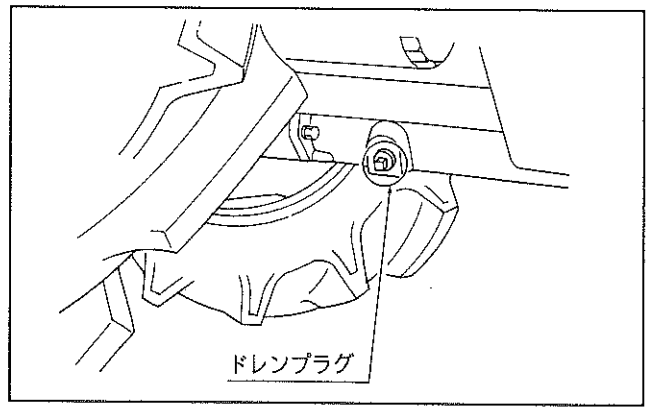
（油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。）

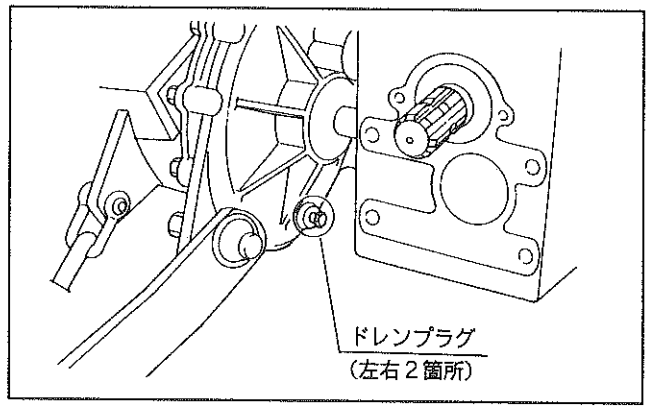


▶交　換

(1) ドレンプラグ（3箇所）を外してオイルを排出します。

(2) ミッションオイルを給油口から、検油窓口に見えるまで入れてください。(71ページ参照)





▶エア抜きの方法

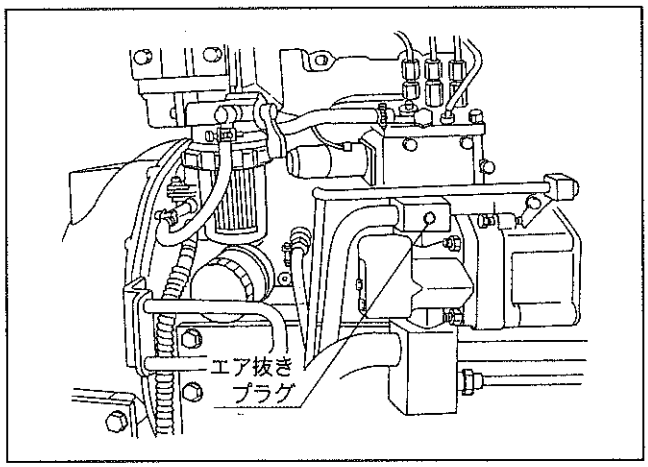
ミッションオイルを抜いた後、再び給油したときには次の要領で必ず油圧配管内のエア抜きをしてください。

(1) エア抜きプラグをゆるめておきます。

(2) エンジンを始動して５秒経過したらエンジンを停止します。このとき、プラグ穴よりオイルが吹き出しますので注意してください。

(3) エア抜きプラグを締めます。

(4) 検油窓で検油して、不足していれば補給してください。



重要

● エア抜きを行なわないと、ギヤーポンプの焼付・油圧装置の作動不良を引き起こすことがあります。

■油圧オイルフィルタの交換

油圧オイルフィルタが詰まると、油圧系統の故障の原因となります。交換は定期的にお買いあげ先で行なってください。

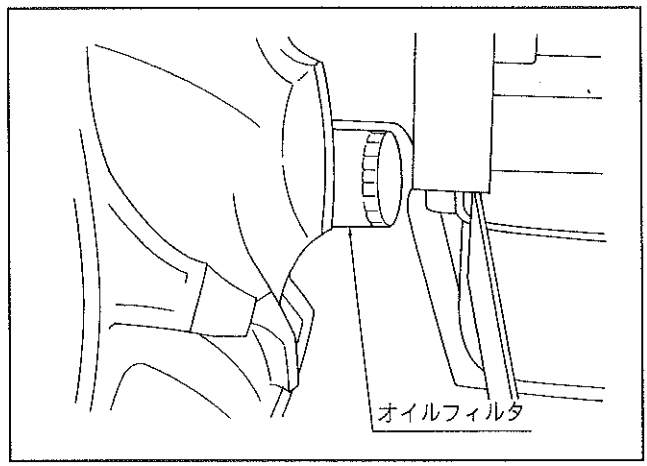
フィルタはカートリッジ式です。

(1) ミッションオイルを抜きます。

(2) 市販のフィルタレンチで取外します。

(3) 新しいオイルフィルタのＯリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締付けます。（シール面のゴムパッキンが接触してから、約⅔回転締付けてください。）

(4) ミッションオイルを規定量入れてください。

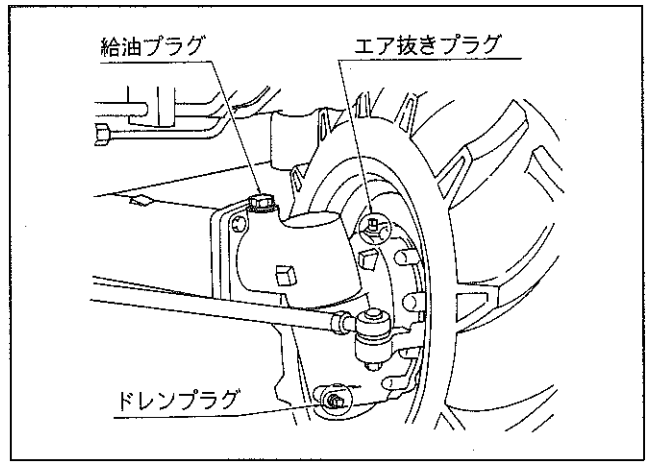


■フロントアクスルのオイル

▶点 検

給油プラグを外し、穴から中を見て軸の中心までオイルがあるか調べます。

少ない場合は補給してください。



▶交 換

(1) 左右のドレンプラグを外してオイルを抜きます。このときエア抜きプラグも外してください。

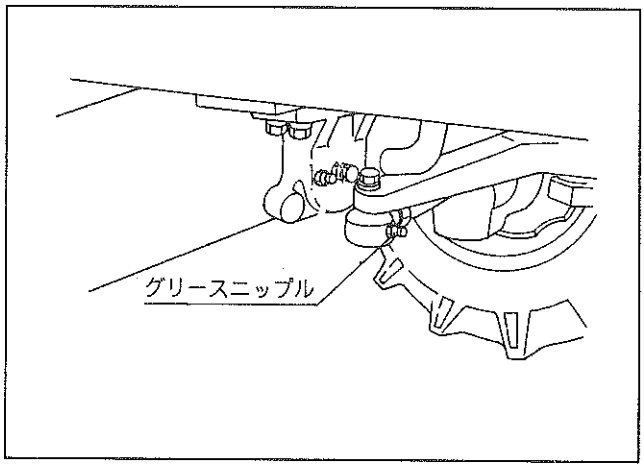
(2) 給油口からオイルを規定量入れてください。

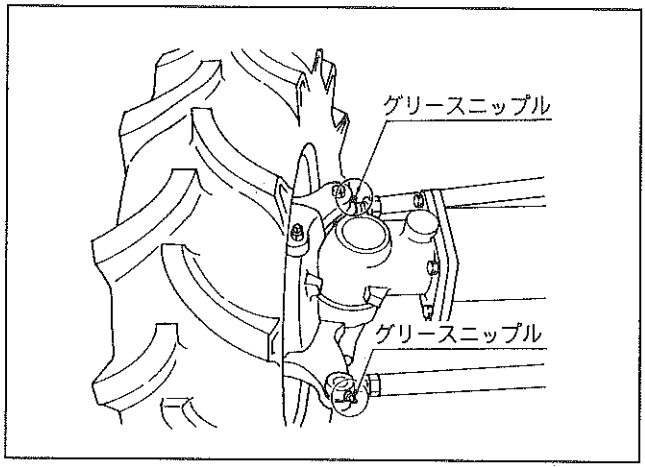
(3) エアー抜きプラグを確実に締めてください。

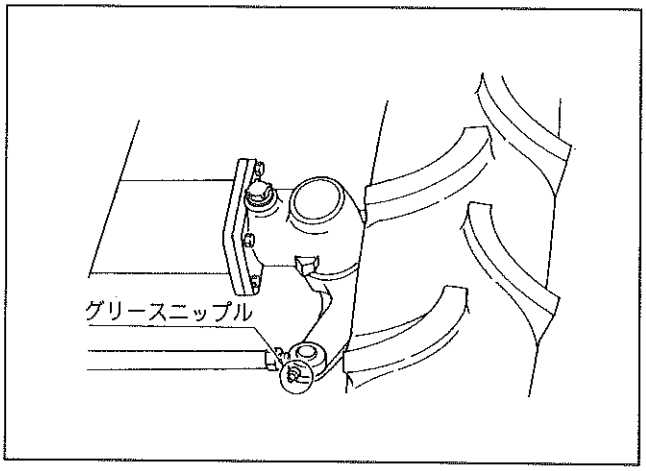
■グリースの注入について

▶タイロッドエンド

タイロッドの両端４箇所にグリースを少量注入します。



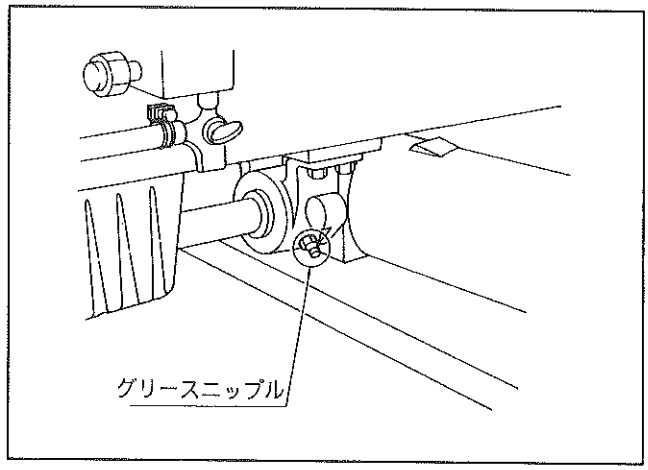


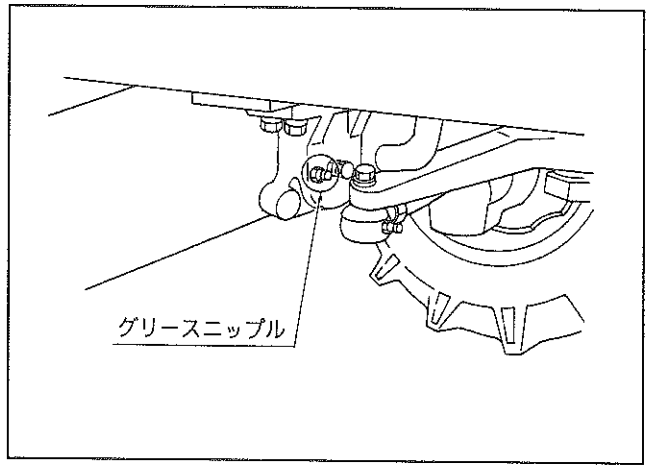


▶センタピボット

グリースを適量注入します。

注入箇所は、フロントアクスルの前後に２箇所あります。

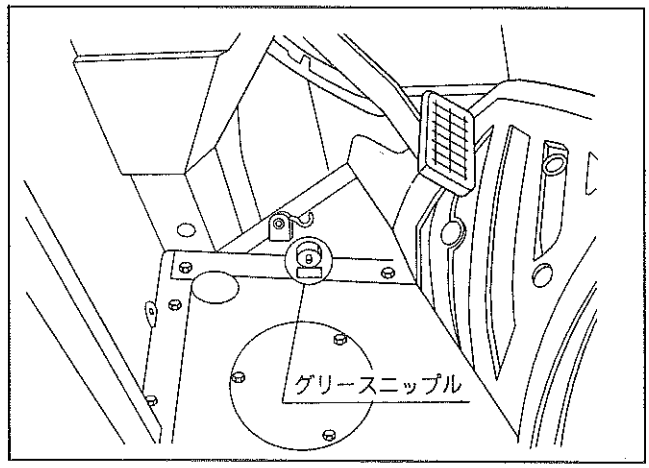




▶ブレーキアーム

フロアマットの前部をめくり、グリース注入マークのある穴から、グリースを少量注入します。

（左右に２箇所あります）



電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃

注意

(1) 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

(2) バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。

(3) １年に１回、販売店での定期点検を受けてください。また安心して作業できるよう電気配線は、２年毎に交換することをお勧めします。

下記の項目につき定期的に点検してください。

(1) 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れている時は、ビニールテープを巻き補修してください。

(2) 配線のクランプのゆるみがないこと。
配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。

(3) ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。

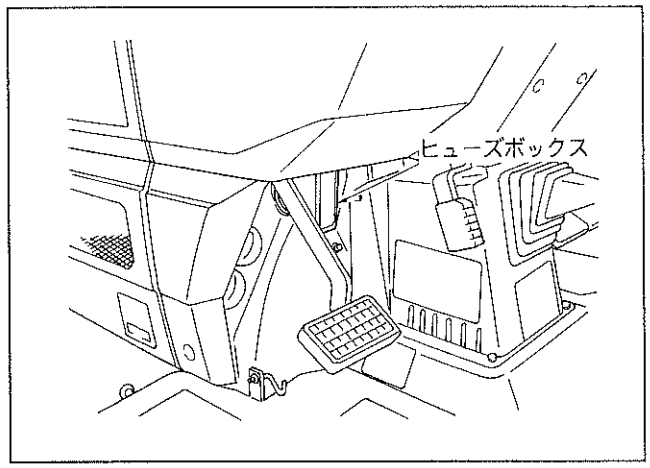
(4) 各スイッチが確実に作動すること。

重要

●メータパネル、バッテリ、エンジンまわりの電気配線・電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。
電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズおよびスローブローヒューズの取扱い

▶ヒューズの交換



ヒューズはヒューズボックスの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。
ヒューズボックスのフタにマークが貼付けてありますので、これと照らし合わせてチェックしてください。

（Ｕ型式の場合）

10A	メータパネル
15A	ターンシグナル，ワークランプ
15A	ヘッドランプ，ホーン
10A	バックランプ，ブレーキランプ（大特車）
10A	ＩＱ４ＷＤ（Ｖ），フルターン（Ｋ）
10A	電子油圧（ＷＸ）
5A	キーストップ
10A	ＰＴＯ(Ｇ)，ＩＱシフト(Ｓ)，キーストップリレー
5A	フューエルポンプ

〈スローブローヒューズ〉

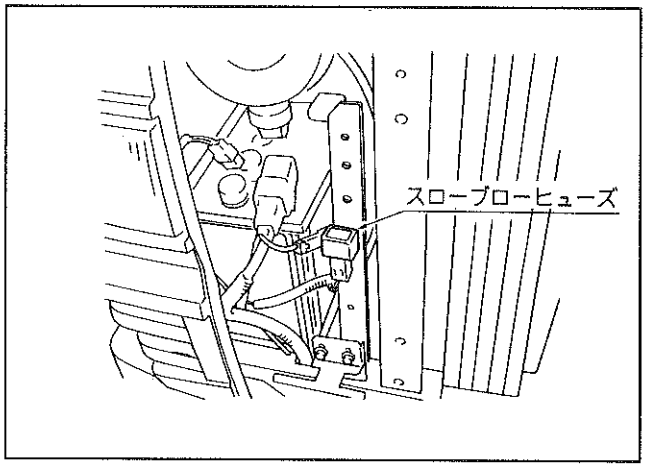
配線中にスローブローヒューズが２個設置されています。

スローブローヒューズはヒューズの一種で、過大電流が流れたりショートしたときに、溶断して配線の損傷を防ぎます。

●40Aメイン回路

キースイッチを回しても電源が入らないときは、ラジエータ左前部のスローブローヒューズを交換してください。

ヒューズ
の色：緑

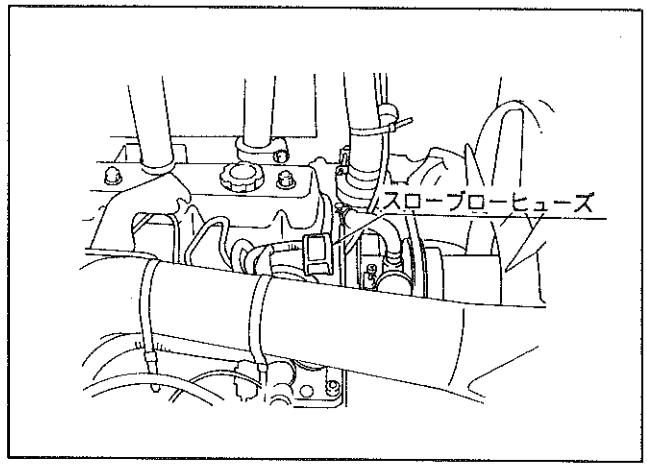


●60Aオルタネータ回路

オルタネータ部スローブローヒューズはブースターケーブルなどで始動させる場合、誤ってプラスとマイナスを接続しようとしたときに溶断し、オルタネータを保護します。

ヒューズ
の色：黄色

このようなときは、スローブローヒューズを点検し、溶断しているときは、交換してください。交換しないとバッテリが充電されなくなり、バッテリ上がりを起こします。



●チェック方法

黒いケースのフタを開けると、スローブローヒューズが見えます。溶断している場合は、スローブローヒューズを抜き交換してください。

重要

●ヒューズが切れた場合は、切れた原因を調べ、修理後に純正部品のヒューズと交換してください。絶対に針金などで代用しないでください。

■バッテリの点検と取扱い

▶バッテリ液の点検

危険

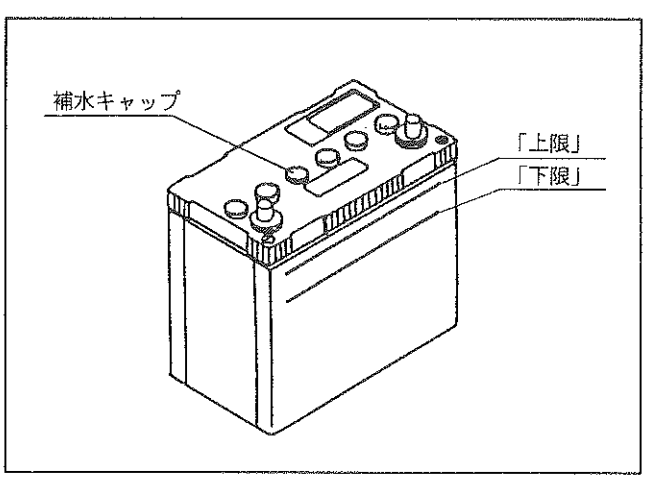
(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電は、通風のよいところで行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(2) バッテリ液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。
（20ページを参照してください。）

バッテリ液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリの前面に２本の線（レベル）があり、その間に液面があればよく、少ないときは上側の線（レベル）まで補給してください。

●液が自然に減ったとき…精製水を補給します。



重要

●バッテリ液が不足すると、バッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体を腐蝕させます。

▶バッテリの取扱い

(1) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリの管理に注意してください。

(2) バッテリは使用しなくても自己放電しますから補充電を行なってください。
夏期……１カ月毎
冬期……２カ月毎

(3) トラクタを長期格納する場合は、バッテリを外し、日光の当らない乾燥した場所に保存してください。どうしてもトラクタに取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（㊀側）を外してください。

(4) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式（80D26R）のバッテリを使用してください。

重要

●バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。

●バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。

●充電は、バッテリの⊕を充電器の⊕に、㊀を㊀にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。

●バッテリを外し、再度取付けるときにはバッテリの⊕、㊀のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

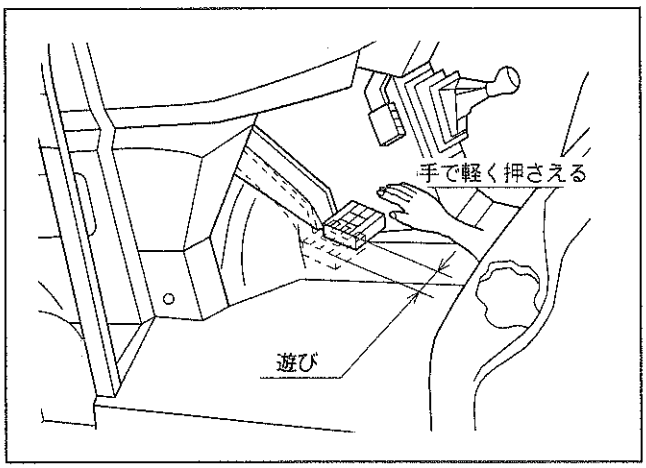
●バッテリコード（端子）を取外すときは、㊀コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりします。

調整のしかた

■クラッチペダル

▶点　検

ペダルの遊び量が20～30㎜あるか確認してください。



重要

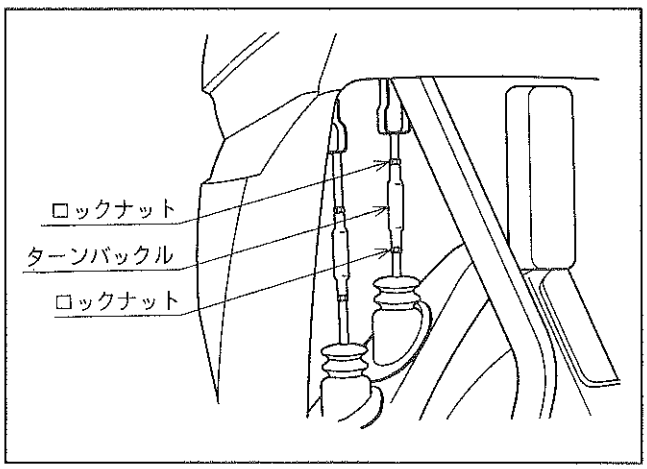
●クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こし損傷につながります。

▶調　整

(1) ロックナットをゆるめます。

(2) ターンバックルを回してペダルの遊び量を20～30㎜に調整します。

(3) ロックナットを確実に締付けてください。



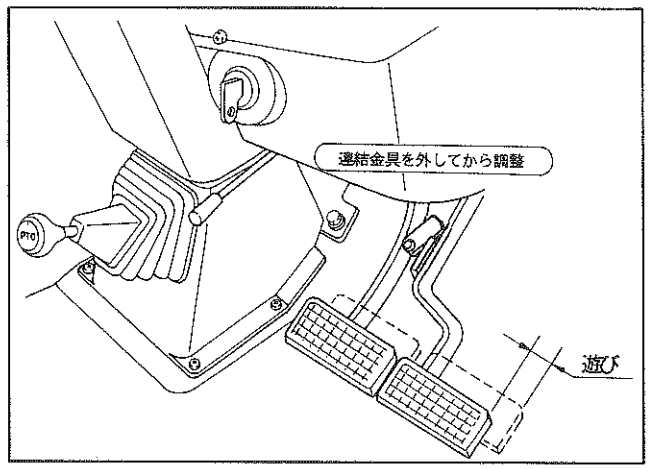
■ブレーキペダル

注意

調整時左右のペダルの踏込み量を必ず合わせてください。合わせていないと、ブレーキが片ぎきになり、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

▶点　検

左右のペダルの遊び量を「30～40㎜」および左右ブレーキの踏込み量が「不均一」になっていないかを調べます。

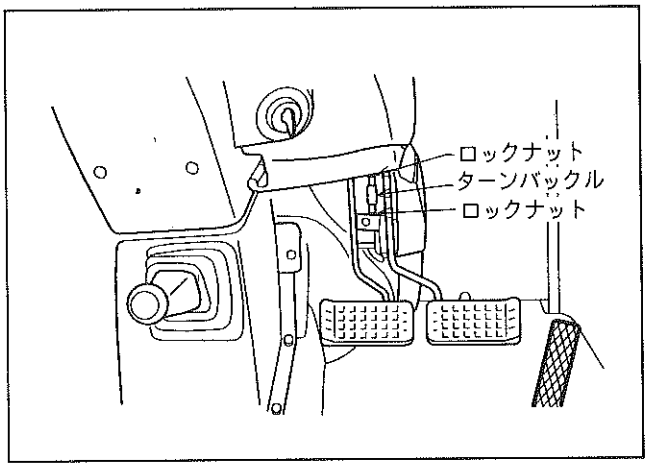


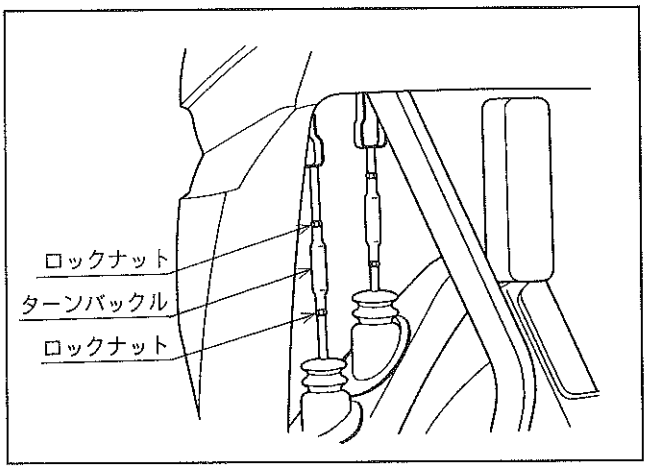
(1) パーキングブレーキを解除します。

(2) ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回してペダル遊び量が「30～40㎜」になるよう、また踏込み量が「均一」になるように調整します。

(3) 上下２箇所のロックナットを確実に締付けてください。

(4) 調整後、パーキングブレーキが確実にかかる事およびブレーキが正常に作動することを確認してください。





▶調　整

(1) オルタネータを取付けているナットとボルトをゆるめます。

(2) オルタネータを動かし、ベルトの張りが10～12㎜たわむ程度に調整します。

(3) 調整後はナットとボルトを確実に締付けます。

(4) ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。

警告

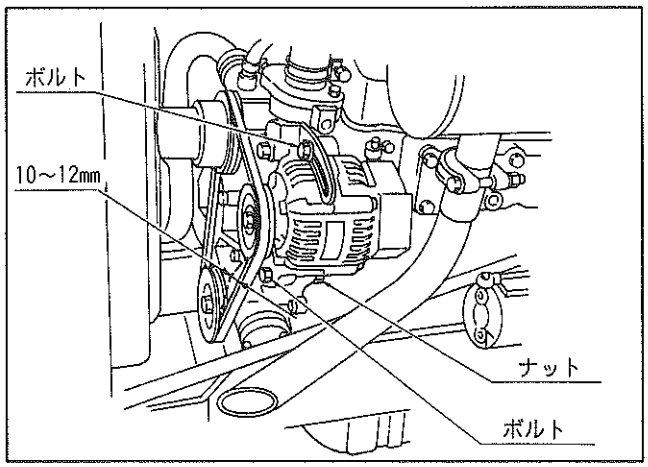
マフラーは、エンジン停止直後にさわると、やけどをすることがあります。エンジン停止後十分冷えてから点検を行なってください。

■ファンベルトの張り具合

▶点　検

ベルトの中央部を指先で押さえて10～12㎜程度たわむか確認してください。

ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になります。



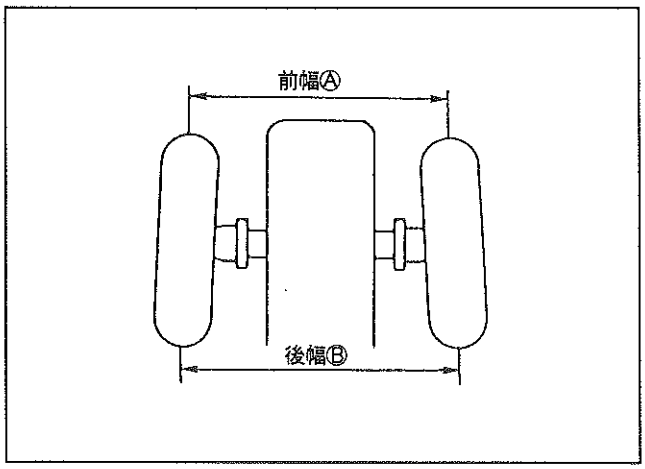
■トーイン

トーインの調整が悪いと、ハンドルを取られたり、異常に振れることがあります。

調整はサービス工場で行なってください。

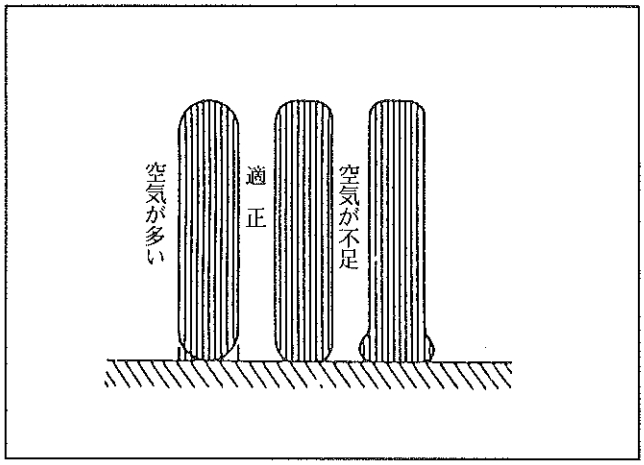
▶点　検

前輪の前幅Ⓐと後幅Ⓑを測り、Ⓑ－Ⓐ＝２～６㎜になっているかを調べます。



■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次の通りです。



▶標準空気圧

	機種	仕　様	タイヤサイズ	空気圧(kgf/cm²)
前輪	TG21	標準	6-14	2.0
		06(ラジアル)	7-14	1.8
	TG23	標準	7-14	1.8
		06(ラジアル)	7-16	1.8
	TG25	標準	7-16	1.8
		N(低床)	6-12	2.0
	TG27	標準	7-16	1.8
		04(ローラグ)	7-16	1.8
		15(タフ)	212/80D-15PD	1.6
	TG29	標準	8-16	1.6
		16(大径)	8-16(FSLSC)	1.6
	TG31	標準/02	8-16	1.6
		08(ローラグ)	8-16	1.6
	TG33	標準/02	8-16	1.6
		04(ローラグ)	8-16	1.6
		15(タフ)	212/80D-15PD	1.6
後輪	TG21	標準	9.5-22	1.4
		06(ラジアル)	9.5R-24	1.6
	TG23	標準	9.5-24	1.4
		06(ラジアル)	11.2R-24	1.6
	TG25	標準	11.2-24	1.2
		N(低床)	9.5-22	1.4
	TG27	標準	11.2-26	1.2
		04(ローラグ)	12.4-24	1.0
		15(タフ)	355/80D-20PD	1.0
	TG29	標準	12.4-24	1.2
		16(大径)	11.2-28(FSLSC)	1.2
		02(ハイラグ)	11.2-26	1.2
	TG31	標準	12.4-26	1.2
		02(ハイラグ)	11.2-28	1.2
		08(ローラグ)	13.6-24	1.0
	TG33	標準	13.6-24	1.0
		04(ローラグ)	13.6-24	1.0
		15(タフ)	355/80D-20PD	1.0
		02(ハイラグ)	11.2-28	1.2

■アクセルレバー

アクセルレバーの回動が重くなったり、軽くなったりしたときは、調整をお買いあげ先に依頼してください。

■ステアリング

ステアリング系統には、はなはだしい遊びやガタがないことを確認してください。
遊びはステアリングホイルの外周で30～60mmが標準です。

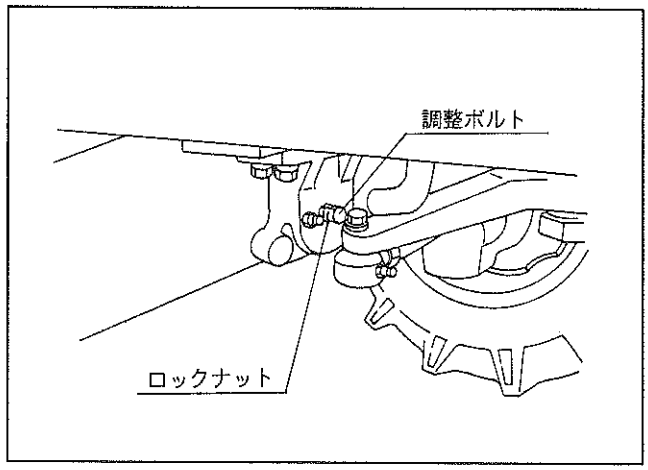
■フロントアクスル支持部

▶点　検

前後方向のガタを点検し、ガタがあれば調整します。

▶調　整

(1) ジャッキで前部を持上げ前輪を浮かします。
(2) ロックナットをゆるめ、ボルトを締込み、ガタを調整します。(前後のガタ0.1～0.3mm)
(3) ロックナットを確実に締付けてください。



格納時の取扱い

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行なってください。

(1) トラクタはきれいに清掃しておきましょう。
特に代掻、湿田作業後は、きれいに洗車してください。

(2) 作業機は必ず降ろしてください。

(3) 格納はできる限り屋内にしてください。

(4) 厳寒時はバッテリをはずし暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

(5) 外気温が0℃以下になるときは、エンジン凍結割れ防止のため、不凍液を入れるか、または冷却水を完全に抜いてください。

重要

●洗車するときは、メータパネル、電装品、およびサイドカバー等のマーク貼付部には圧力水をかけないでください。圧力水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

●漏電の原因となるため、メインスイッチのキーは抜いておいてください。

■長期格納

トラクタを長い間使用しない場合は、きれいに清掃し次の要領で格納してください。

(1) 不具合箇所は整備してください。

(2) エンジンオイルを新しいオイルと交換、5分ほどエンジンをアイドリング回転にて運転し各部にオイルをゆきわたらせます。

(3) ラジエータの冷却水を抜いてください。
排水後「水なし」と書いた札をハンドルにかかげておきましょう。

(4) 各部の給油を必ず行なってください。

(5) 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。

(6) タイヤの空気圧は標準よりも少し多目に入れてください。

(7) バランスウエイトなどは外しておきましょう。

(8) 作業機は取外すかまたは下に降ろしてください。

(9) 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。

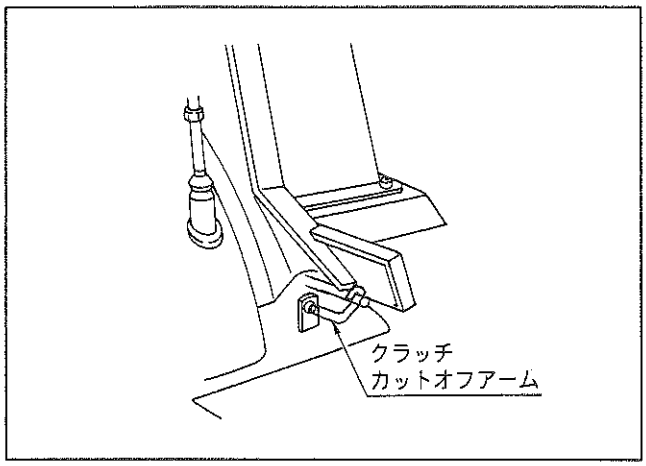
警告

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

(10) 後輪の前後に車止めをしておいてください。

(11) バッテリは、トラクタから外し補充電を行ない、液面を正しく調整して日光の当らない乾燥した場所に保管してください。どうしても取付けたまま保管しなければならない時は、必ずアース側（㊀側）を外してください。

(12) クラッチはカットオフアームを使用し、確実に切れた状態にしておいてください。
クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが錆付いてクラッチが切れなくなることがあります。



重要

- エンジン防錆のため、１ケ月に１回、1500～2000回／分の中速回転で５～10分間運転してください。
- バッテリを外さないときは最低限バッテリの㊀端子を外してください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。
- メインスイッチのキーは必ず抜いておいてください。

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は特に次の内容に注意してください。

- 運行前点検（始業点検）を確実に行なってください。
- エンジンの寿命、性能を保つためエンジン始動後は、アイドリング回転で30分ほど運転してください。

不調時の処置

本機について

	故障状況	原因	処置
エンジン関係	スタータ・スイッチを回しても、スタータが回らない	○クラッチペダルを踏み忘れていませんか。	○ペダルを踏込む
		○セフティースイッチの故障	○サービス工場で修正または交換
		○バッテリの放電	○バッテリを充電
		○各部端子のゆるみ	○はずれ、ゆるみ、腐蝕を点検し清掃して確実に締付け、グリスを塗布し防錆しておく
		○スイッチの故障	○サービス工場で修理または交換
		○スタータの故障	○サービス工場で修理または交換
	スタータは回るが、回転が上がらない	○バッテリが弱い	○バッテリの充電
		○アース不良	○接続部を清掃しアースを確実に
		○エンジン・オイルの粘度不適	○適性粘度のオイルに交換
		○燃料ポンプの作動不良	○ヒューズの点検
	スタータは回るがエンジンがかからない	○燃料系統にエアー混入	○エアー抜きを行なう
		○燃料フィルタのつまり	○フィルタの清掃または交換
		○燃料が供給されない	○コックを開いて燃料を送る
		○エンジン本体の不具合	○サービス工場で修理する
	エンジン回転が不規則である	○燃料系統エアー混入	○エアー抜きを行なう
		○燃料フィルタのつまり	○フィルタの清掃または交換
		○噴射ノズルのつまり	○サービス工場で修理
		○パイプ系の燃料もれ	○クランプの締付け、パイプ交換 銅ワッシャは表面を磨き締付け
		○燃料噴射の不揃い	○サービス工場で修理
		○燃料ポンプの作動不良	○ヒューズの点検
	エンジンを低速にすると停止する	○インジェクション・ポンプの不良	○サービス工場で修理
		○エンジンのバルブ・クリアランス不良	○サービス工場で修理
		○ノズル不良	○サービス工場で修理

	故障状況	原因	処置
エンジン関係	エンジンが過回転する	○ガバナにゴミ等がつまっている ○オイル上り	○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理
	運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足 ○エンジンオイル不足 ○ノズル不良 ○オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	○燃料補給とエアー抜きを行なう。 ○エンジンオイル補給 ○サービス工場に依頼し交換 ○サービス工場に依頼 ○ファンベルトを引張ってクランクプーリが動けば燃料不足か、ノズル不良の場合が多い
	エンジンが過熱する	○冷却水の不足 ○ファンベルトのゆるみ、破損 ○ラジエータの目づまり ○エンジン・オイル不足	○冷却水を補給する ○ベルトの張り調節または交換 ○清掃する ○点検・補給
	エンジンの排気色が白い	○エアー・クリーナがつまっている ○エンジン・オイル量が多すぎる ○燃料供給量の不足	○エレメントの清掃 ○点検し適正量にする ○サービス工場で修理
	エンジンの排気色が黒すぎる	○燃料が良くない ○燃料の供給過剰 ○ノズル圧力の不足	○正規の燃料に入れかえる ○サービス工場で修正 ○サービス工場で修正
	エンジンの出力不足	○ノズルの焼付、つまり及びカーボンがたまっている ○圧縮圧力の不足、バルブ・シート部よりガスもれ ○バルブ・クリアランス調整不良 ○噴射時期不良 ○燃料不足 ○エアークリーナのつまり	サービス工場で修理 ○燃料系統をチェックする ○エレメントを清掃する

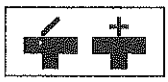
	故障状況	原因	処置
エンジン関係	運転中エンジンオイル圧力警告灯が点灯する	○エンジン・オイル量が少ない ○エンジン・オイルの粘度が低い ○プレッシャ・スイッチの故障 ○オイル・ポンプの故障 ○オイル・フィルター・エレメント目づまり	○規定量まで補給 ○適性粘度のオイル交換 ○スイッチを交換する ○サービス工場で修理 ○エレメントを交換
	運転中にバッテリチャージ警告灯が点灯する	○配線の故障 ○オルタネータの不良 ○レギュレータ不良 ○バッテリの不良または蒸留水不足 ○ファン・ベルトのゆるみまたは破損	○端子のゆるみ汚損、ショート、アース不良を修理 ○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理 ○バッテリの交換または蒸留水の補給 ○張り調節またはベルト交換
クラッチ関係	クラッチがすべる	○ペダルの調整不良 ○クラッチ・ライニングの摩耗・焼損	○ペダルの遊び、踏みしろの調整 ○サービス工場で修正または交換
	クラッチが切れない	○クラッチ・ライニングの錆付き ○ペダルの調整不良	○サービス工場で修理する ○ペダルの遊び、踏みしろ調整
ブレーキ関係	ブレーキのききが悪い。または片ききである	○ブレーキ・ペダルの遊びが多すぎる ○ライニング摩耗・焼付 ○左右の踏込み量が異なる	○遊び量を調整する ○サービス工場でライニング交換 ○踏込み量を左右同じにする
	ブレーキ・ペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷 ○各摺動部のグリース切れ	○スプリング交換 ○錆を落としグリース・アップ

	故障状況	原因	処置
油圧関係	油圧が上らない	○エンジンの回転数不足	○回転数1,000～1,500rpmで使用する
		○ミッションオイル不足	○規定量まで補給する
		○吸入パイプ系統からエアーを吸い込む	○取付け部を増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換
		○オイルフィルタのつまり	○サービス工場で清掃または交換
		○油圧ポンプの故障	○サービス工場で修理
		○コントロール・バルブの故障	○サービス工場で修理
		○シリンダの破損	○サービス工場で交換
	配管に油もれがある	○各部ジョイントのゆるみ	○増し締めを行なう
		○パイプの亀裂	○サービス工場で交換する
	油圧レバーを上げにするとビーというリリーフ・バルブの音がする	○ストッパのずれ	○位置を調整する
	油圧が下がらない	○降り速度調節ノブがロック位置になっている	○下げの位置にする
		○コントロール・バルブの故障	○サービス工場で修理
		○シリンダの破損	○サービス工場で交換
		○リフト・シャフト回動部の焼付	○サービス工場で修理
操行関係	ハンドルが重い ハンドルがとられる	○ステアリングシャフトの調整不良	○調整組付
		○トーインが正しくない	○サービス工場で修理
		○タイヤ空気圧の不揃い	○左・右共に規定空気圧にする
		○各エンドにガタがある	○増し締めまたは部品交換
	ハンドルの遊びが多い	○ハンドル・シャフトの摩耗	○サービス工場で修理
		○各エンドにガタがある	○サービス工場で修理

	故障状況	原因	処置
電装関係	バッテリが充電されない	○スローブローヒューズの断線 ○配線の故障 ○オルタネータの不良 ○レギュレータ不良 ○ファンベルトのゆるみまたは破損 ○バッテリの機能不良	○配線チェック後にスローブローヒューズの交換 ○端子のゆるみ汚損、ショート、アース不良を修理 ○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理または交換 ○張り調節またはベルト交換 ○端子のゆるみ、腐蝕、電解液の不足などを修正する
	ヘッド・ランプが暗い	○バッテリの性能低下 ○結線、接触不良	○充電する ○アース及びターミナルの点検清掃及び増し締め
	ヘッド・ランプが点灯しない	○電球の断線 ○ヒューズの断線 ○接触不良	○電球交換 ○配線をチェックしヒューズを交換する ○アース及びターミナルの点検清掃
	ホーンが鳴らない	○ホーン・ボタンの故障 ○配線不良 ○ホーンの損傷	○交換する ○修理する ○修理または交換する
	ウインカが点滅しない	○電球切れ ○フラッシャ・ユニットの故障 ○接触不良	○電球を交換する ○交換 ○アース及びターミナルの点検清掃
	警報ブザーが鳴り続ける	○パーキングブレーキかけ忘れ ○パーキングブレーキスイッチの故障 ○リレーの故障 ○配線の故障	○パーキングブレーキをかける ○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理
スーパーフルターン（K型式）	スーパーフルターン表示灯が点灯しない	○4WD切換スイッチが「スーパーフルターン」位置になっていますか。 ○サブシフトレバーは「超低，低，中」のいずれかですか。 ○電球切れ ○配線不良	○「スーパーフルターン」位置にする ○「超低，低，中」にする ○サービス工場で交換 ○修理する
	スーパーフルターンが作動しない	○スイッチの故障 ○バルブの故障 ○ライニング摩耗・焼付	○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理 ○サービス工場で交換
	スーパーフルターンの左右のきき具合が異なる	○スイッチの調整不良	○サービス工場で調整

	故障状況	原因	処置
電子油圧関係	コントロールレバーを操作しても油圧が上・下しない ○上昇ランプが点滅したままコントロールレバーを操作しても変わらない	○チェックスイッチは「切」になっているか ○コントロールレバーセンサのカプラはずれ ○コントロールレバーセンサの不良 ○リフトアームセンサのカプラはずれ ○リフトアームセンサの不良 ○配線の不良 ○コントローラの不良	○チェックスイッチを「切」にする ○カプラを接続 ○サービス工場で修理または交換 ○カプラを接続 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	○コントロールレバーを最上げ操作すると、上昇ランプが点灯するが、油圧が上がらない	○上げ位置ダイヤルは適正位置になっているか ○上げ位置ダイヤルの不良 ○バルブ配線のはずれ ○配線の不良 ○油圧関係の不良	○上げ位置ダイヤル調整する (54ページ参照) ○サービス工場で修理または交換 ○カプラを接続 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	○コントロールレバーを最下げ操作すると、上昇ランプが消灯するが、油圧が下がらない	○降り速度調節ノブがロック位置になっている ○バルブ配線のはずれ ○配線の不良 ○油圧関係の不良	○下げ位置にする (52ページ参照) ○カプラを接続 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	フィンガップレバーを操作しても油圧が上・下しない	○上昇ランプが点滅している ○フィンガップレバー不良 ○フィンガップレバー配線はずれ	○コントロールレバーを操作して、準備状態を解除する (53ページ参照) ○サービス工場で修理または交換 ○カプラを接続
	バックアップしない	○バックアップスイッチ「切」になっている ○リニアシフトレバー後進側センサの調整不良 ○バックアップスイッチの不良 ○リニアシフトレバー後進側センサの不良 ○配線不良	○バックアップスイッチ「入」にしてください。 ○サービス工場で調整 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換

	故障状況	原因	処置
電子油圧関係	自動耕深制御が働かない	○デプスセンサが接続されていない ○デプスセンサハーネスが断線している ○デプスセンサの不良 ○耕深調整ダイヤルの不良	○デプスセンサカプラを接続する ○交換する ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	水平制御装置不調 ○水平手動スイッチを操作しても動かない	○ヒューズの断線 ○バルブ配線のはずれ ○配線の不良 ○バルブゴミ詰り	○配線をチェックし、ヒューズを交換する ○カプラを接続 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	○水平切換スイッチを「平行」にしても平行にならない	○ストロークセンサリンクはずれ ○ストロークセンサ調整不良	○リンクを組付ける ○サービス工場で修理または交換
	○水平切換スイッチを「自動」にしてもロータリが水平にならない	○傾き調整ダイヤルの調整不良 ○スロープセンサの不良 ○スロープセンサの調整不良 ○配線の不良	○トラクタを平たんな所に置いて、ロータリが地面と水平になる様に調整してください。 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で調整 ○サービス工場で修理または交換
マルチアイ関係	エンジンを始動しても［マルチアイ］表示が長くつづく	○充電回路の不良	○バッテリが充電されない（91ページ）を参照
	通常表示に切り換った後耕深設定部表示が出ない ［シャソク P.T.O］ ↑ここに表示がない	○配線の不良 ○WXコントローラあるいはメータの不良	○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	約1㎞/H以上で走行しているのに車速が表示されない （“シャソク”のまま）	○車速センサの調整不良あるいは故障 ○車速センサ配線不良	○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換

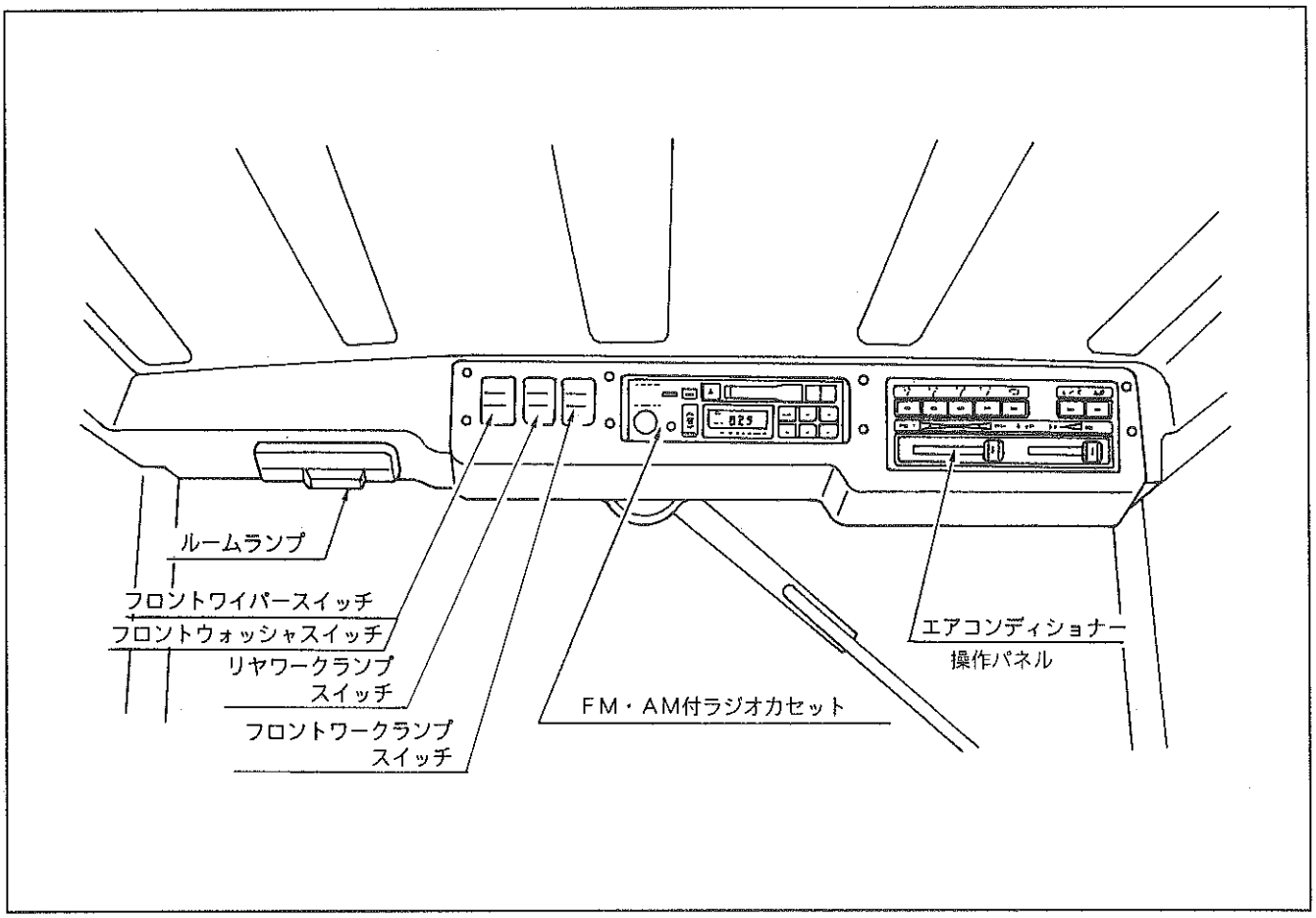
	故障状況	原因	処置
マルチアイ関係	P．T．Oが100rpm以上で回っているのに回転数が表示されない（“P．T．O”）のまま	○P．T．O回転センサの調整不良あるいは故障 ○P．T．O回転センサ配線不良	○サービス工場で調整または交換 ○サービス工場で修理または交換
	副変速レバーを「高速」にしても  の表示が出ない	○高速検出センサ調整不良あるいは故障 ○配線不良	○サービス工場で調整または交換 ○サービス工場で修理または交換
	リフトアームセンサ がでている	○リフトアームセンサカプラ抜け ○リフトアームセンサ配線の断線 ○リフトアームセンサ不良	○カプラを差す ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	スロープセンサ がでている	○スロープセンサカプラ抜け ○スロープセンサ配線の断線 ○スロープセンサ不良	○カプラを差す ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	水平 [／] がでている 傾斜作業で、シリンダ限界で動作している時に出るのは正常	○ストロークセンサリンクはずれ ○スロープセンサ不良 ○水平バルブ関係の不良	○リンクの組付け ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	メインシフトセンサ がでている	○メインシフトセンサの不良 ○メインシフトセンサ配線の不良 ○メインシフトバルブ配線の不良	○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	サブシフトセンサ がでている	○サブシフトセンサの不良 ○サブシフトセンサ配線の不良	○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換

	故障状況	原因	処置
IQ4駆関係	スーパーフルターンが効かない	○4WD切換えスイッチは“作業”になっていますか	○4WD切換えスイッチを“作業”にする
		○油圧ポジションレバーは上げ位置ですか（WX型式の場合セフティー解除していますか）	○油圧ポジションレバーのセフティー解除を行ない（WX型式）、ポジションレバーを上げ位置にする
		○油圧ポジションレバースイッチ調整不良（WX型式以外）	○サービス工場でスイッチ調整
		○4WDパネル内スイッチ（右側ダッシュパネル内部にあります）が常時4WD側になっていませんか	○4WDパネル内スイッチをIQ4WD側にする
		○フルターン用ソレノイドバルブ故障又はカプラ外れ	○サービス工場で修理
		○IQ4駆用コントロールボックス故障又はカプラ外れ	○サービス工場で修理
	走行中に2WDにならない	○4WD切換えスイッチは“走行”になっていますか	○4WD切換えスイッチを“走行”にする
		○4WDパネル内スイッチ（右側ダッシュパネル内部にあります）が常時4WD側になっていませんか	○4WDパネル内スイッチをIQ4WD側にする
		○入力軸回転センサ故障又はカプラ外れ	○サービス工場で修理
		○出力軸回転センサ故障又はカプラ外れ	○サービス工場で修理
		○入力軸回転センサと出力軸回転センサのカプラ誤組	○サービス工場で修理
		○ステアリング切角センサ故障	○サービス工場で修理
		○IQ4駆用コントロールボックス故障又はカプラ外れ	○サービス工場で修理

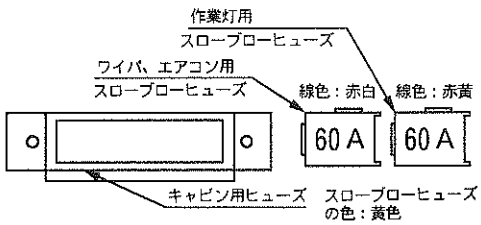
故障状況		原因	処置
IQ4駆関係	タイヤスリップ時および急ブレーキ時に4WDにならない	○4WD用ソレノイドバルブ故障又はカプラ外れ ○IQ4駆用コントロールボックス故障又はカプラ外れ	○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理
	スーパーフルターン動作時のステアリング操舵量が左右で異なる	○ステアリングセンサ調整不良	○サービス工場で修理
IQシフト関係	リニアシフトレバーで動かない	○リニアシフトレバー"前進"または“後進”側に操作したままエンジンを始動した ○ヒューズ切れ ○配線の不良 ○油圧系統の不良 ○リニアシフトレバーセンサの不良	○リニアシフトレバーを一旦"中立"にして再度“前進”または“後進”に操作してください。 ○交換してください。 ○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換
	主変速ボタンを押しても変速できない	○ヒューズ切れ ○配線の不良 ○変速ボタンの不良 ○油圧系統の不良	○交換してください ○サービス工場で修理 ○サービス工場で修理または交換 ○サービス工場で修理または交換

キャビン型式の取扱い

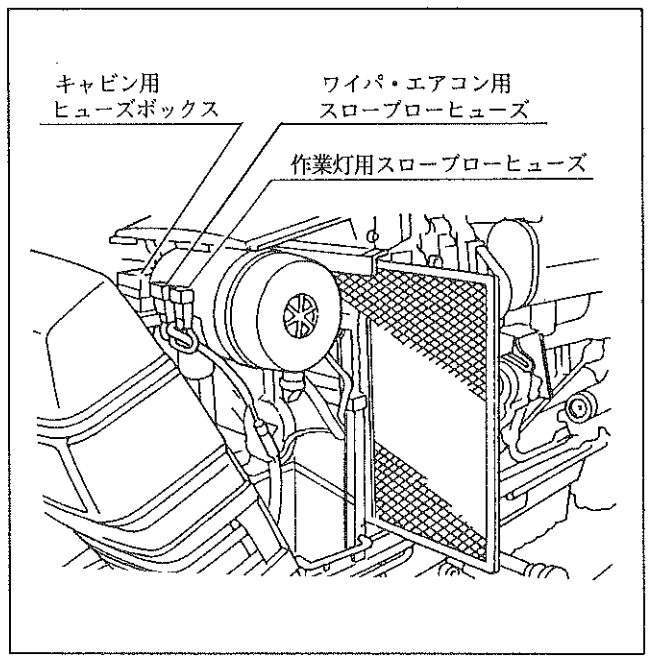
計器及びスイッチの取扱い



■ヒューズの配置図



10A	エアコンパネル
20A	ブロアモータ
10A	コンプレッサ
15A	ワイパ前
15A	ワイパ後
5A	時　計
5A	ラジオ・オーディオ
15A	作業灯前
15A	作業灯後



■ドアの開けかた

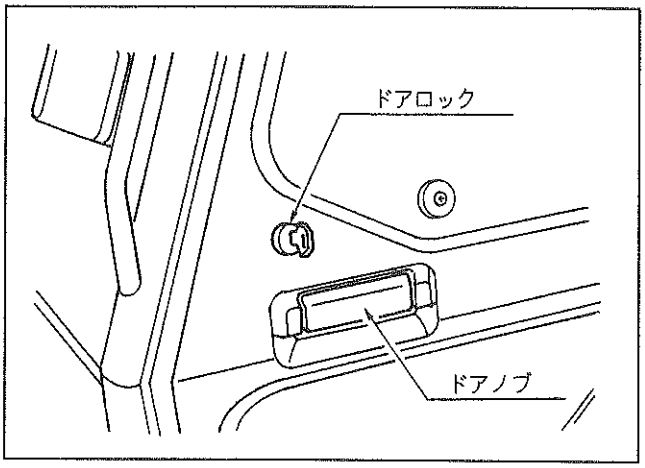
●車外から

ドアロックを開錠してドアノブを引いて開けます。

●車内から

ドアインナーハンドルを内側に引いて開けます。

・ラッチ部
・ヒンジ部
} グリース給油



■ドアの施錠、解錠

●車外から

キーを差し込み、左側は右回転、右側は左回転に回すと施錠します。

キーは垂直位置にして抜き取ります。

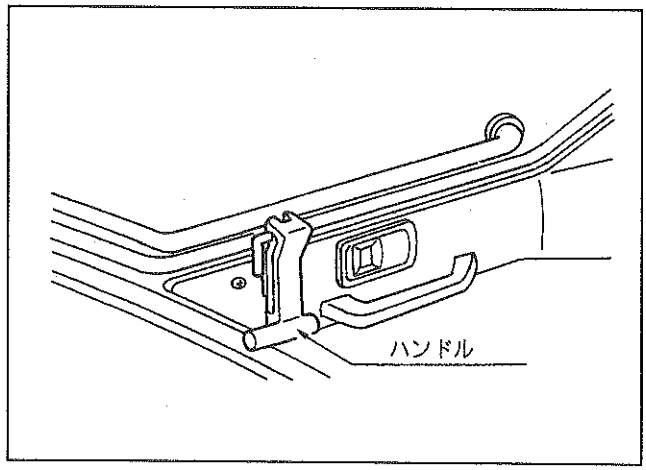
注意

(1) ドアを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠ると、ドアの破損等を引き起こす恐れがあります。

(2) ドアを閉めるときには、手などをはさんで傷害事故を起こさないよう注意してください。

■サイドウインドの開けかた

●ハンドル部を持ち、回転させながら押し出すと開きます。



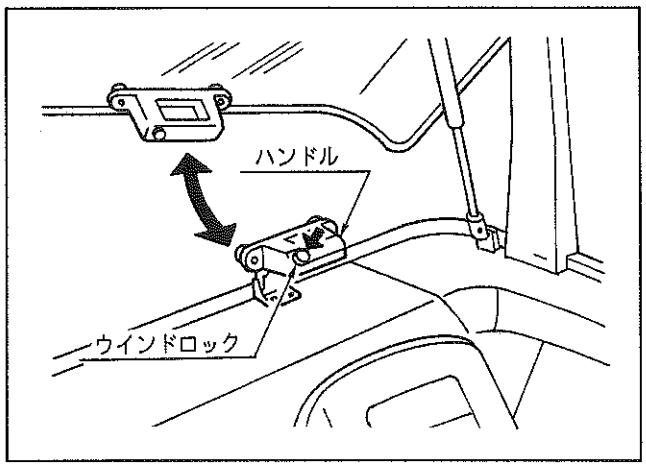
注意

(1) サイドウインドを開けたまま悪路走行等の衝撃のかかる作業をしないでください。怠ると、ウインドの破損、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(2) サイドウインドを閉めるときは、ハンドルの下側に手をかけないでください。もし怠るとハンドルで手をつめます。

■リヤウインド

ハンドル部に手をかけ、ウインドロックを押しながら、リヤウインドを少し押し出すとダンパーの作用によって自動的に開きます。



注意

リヤウインドを開けるときは、後部の安全を確認してください。怠るとウインドの破損、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

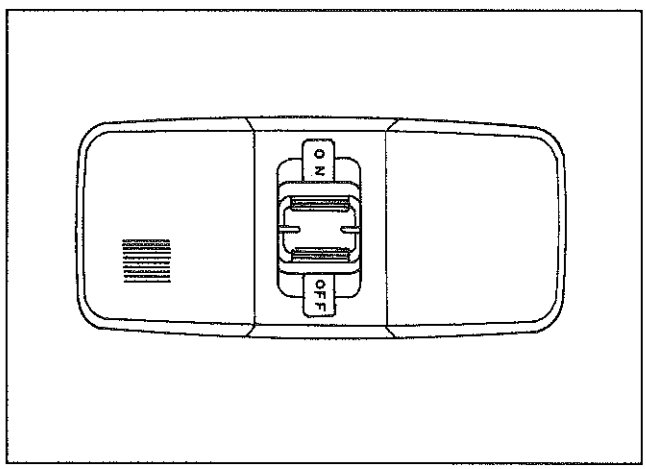
■ルームランプ

スイッチの位置により点灯状態が次のようになります。

ＯＮ位置：常時点灯

中立位置：常時消灯

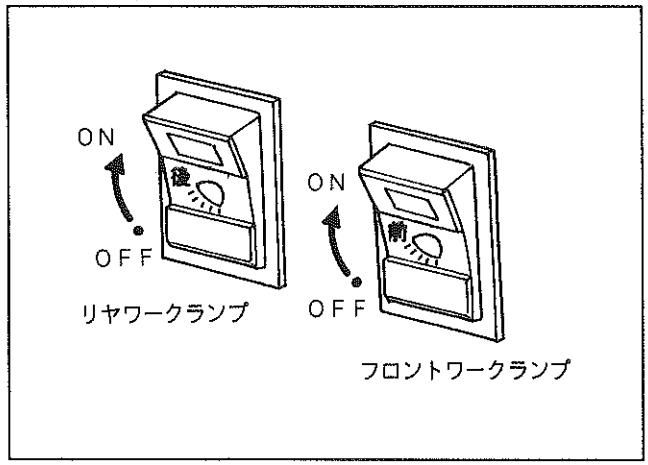
ＯＦＦ位置：常時消灯



■ワークランプ

スイッチをＯＮにするとランプが点灯します。

※作業灯点灯時スイッチも点灯します。消灯時はスイッチも消灯します。



重要

(1) 作業終了時バッテリ上がり防止のためワークランプスイッチの消灯を確認してください。

(2) 作業灯を点灯しての外部電源の使用は避けてください。バッテリが放電してしまう恐れがありますので注意してください。

注意

道交法により路上走行時の作業灯点灯は禁止されていますので必ず消灯してください。

■フロントワイパー・フロントウォッシャ

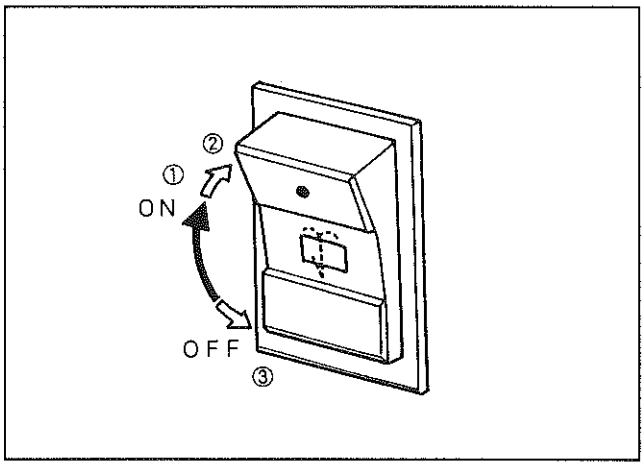
『ON』位置で

①……ワイパが作動します。

②……ワイパが作動しながらウォッシャ液が噴出します。

『OFF』……作動が停止します。

③……OFF位置から下側に押し込むとウォッシャ液のみ噴出します。

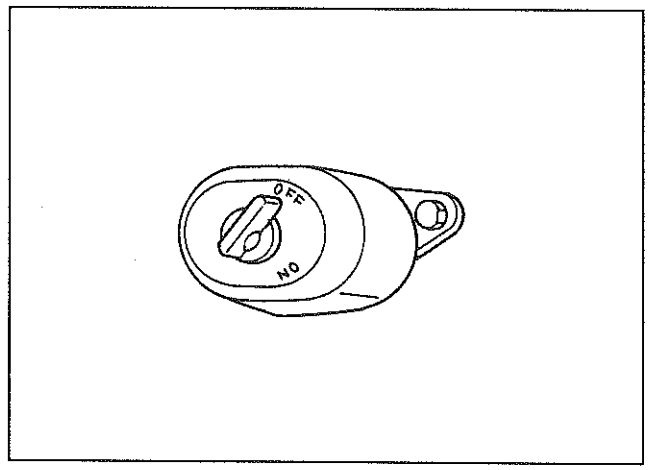


重要

- 空拭きはガラスに傷をつけますので、ウォッシャ液を噴出させてから使用してください。
- 寒冷時、ワイパーブレードが凍結することがあります。凍結時に作動させるとワイパーが損傷します。
- エンジン停止時、ワイパーを長時間使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなりますのでワイパーを極力停止してください。
- ウォッシャ液がない時は、ウォッシャスイッチを操作しないでください。
  故障の原因となります。

■リヤワイパー

リヤウインドのワイパーモータにスイッチが付いています。

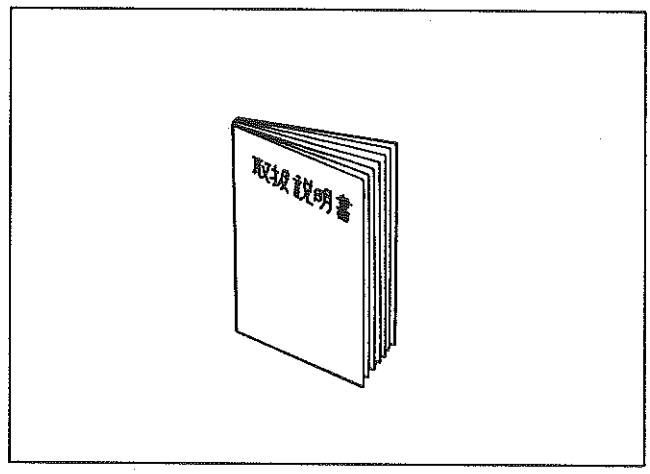


重要

- 寒冷時、ワイパーブレードが凍結することがあります。凍結時に作動させるとワイパーが損傷します。
- エンジン停止時、ワイパーを長時間使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなりますのでワイパーを極力停止してください。
- 空拭きはガラスに傷をつけますので、空拭きはしないでください。

■FM・AM付ラジオカセット

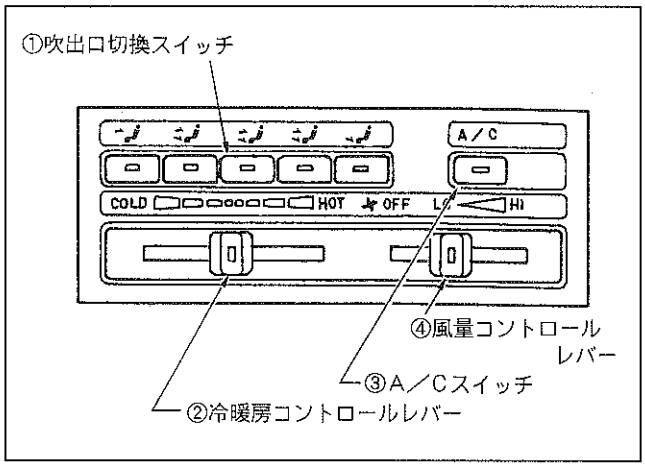
添付の取扱説明書をご参照ください。



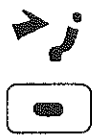
エアコンの取扱い

エアコンの修理等については、販売店にお問い合わせください。

■各操作部の説明



吹出口切換スイッチ……冷暖房時の冷風、温風の吹出口を切換えます。



スイッチを押すと中央のランプが点灯し、冷風又は温風がパネルより出ます。

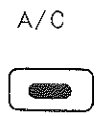
スイッチを押すと中央のランプが点灯し、冷風又は温風がパネルと足元より吹出します。

スイッチを押すと中央のランプが点灯し、冷風又は温風が足元より吹出します。

冷暖房コントロールレバー

冷房時は、ＣＯＬＤ側に、暖房時はＨＯＴ側にレバーをセットし、中間期には任意の位置にセットし吹出し温度を調整してください。
(エアコンで使用する時はA/Cスイッチを入れて使用してください)

A／Cスイッチ



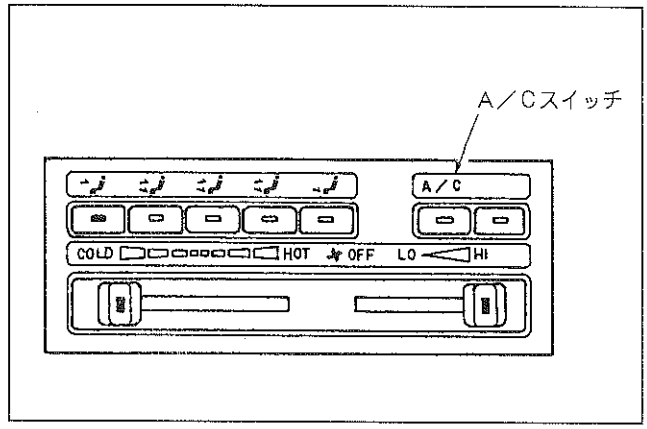
スイッチを押すと、中央のランプが点灯しエアコンが作動します。
もう一度押すとＯＦＦになります。

風量コントロールレバー

ＯＦＦ，ＬＯ，ＨＩの無段階スライドスイッチで任意風量がコントロールできます。

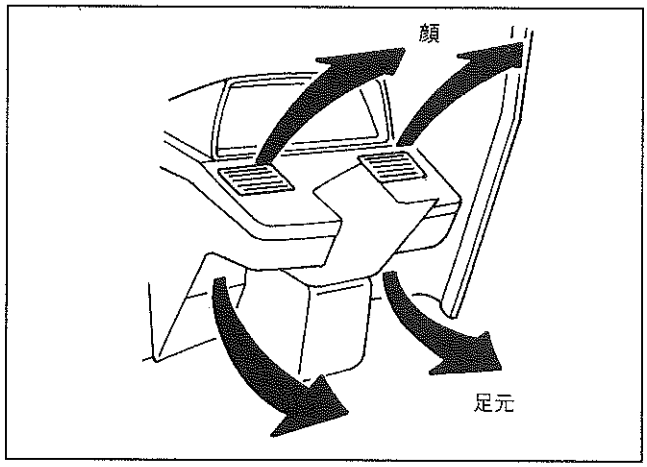
▶取扱い操作方法

●冷房及び除湿

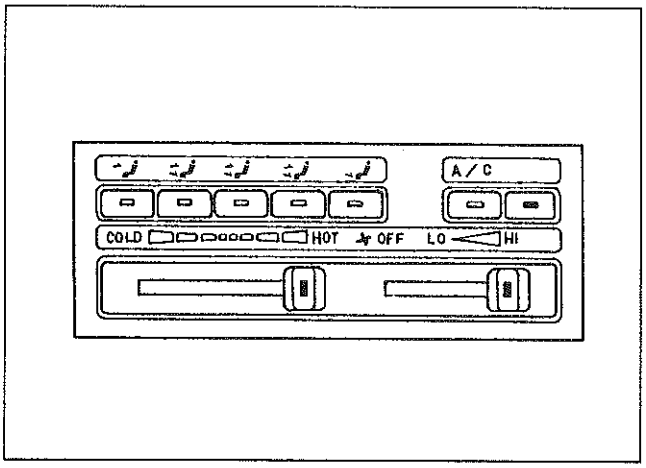


各レバー、スイッチを上図の位置にセットし、次にA／Cスイッチを押して始動させます。
風量コントロールレバーを変えて（ＯＦＦ，ＬＯ◁ＨＩ）風量調整をしてください。
上部吹出口から除湿され、冷やされた冷風が吹出し車室内を快適にします。
夜間照明はライトスイッチを入れると点灯します。

●冷風温風の吹出し口



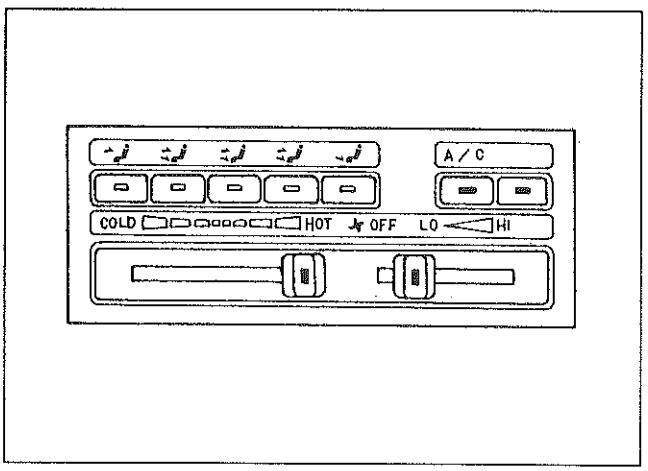
●暖房



各レバー、スイッチを上図の位置にセットします。この時クーラースイッチはＯＦＦ（消灯）してください。

暖められた空気が吹出口から吹出し車室内を暖房します。

●除湿暖房



各レバー、スイッチを図の位置にセットします。

暖房の状態からＡ／Ｃスイッチを押してＯＮ（点灯）させ、クーラーを作動させます。

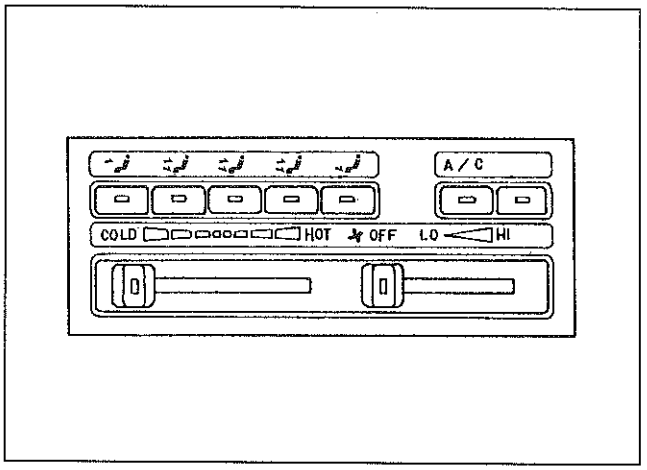
風量コントロールレバーは、任意の位置に合わせてください。

春や秋あるいは、湿度の高い雨天の時にご使用ください。

重要

外気温が極端に低い時、エアコンが作動しない場合がありますが故障ではありません。

●エアコンを使用しないとき



エアコンを使用しない時、各レバー、スイッチを上図の位置にセットしてください。

エアコンの全機能は停止します。

重要

Ａ／Ｃスイッチは必ずＯＦＦにしてください。

定期点検・整備箇所一覧表（キャビン型式）　ロプス型式と異なる部分のみ

○ 点検、補充、調整　△ 清掃、洗浄　● 交換　★ サービス工場に依頼

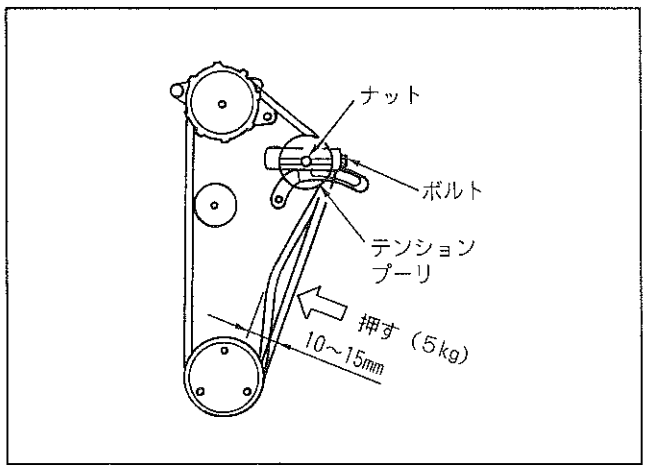
区分	項目	運行前点検	定期点検・整備時（アワー・メータ表示） 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	その後の点検	始業点検判定基準
エンジン	エアコン用ファンベルト	○														5kgで押してタワミ10～15mm
	コンデンサ	○														ゴミつまりなきこと
	配管ホース														★1年に1回点検	水洩れ、冷媒洩れ、傷なきこと
	クランプ														★2年に1回点検	ゆるみなきこと
	エアコン用フィルタ														★1ケ月に1回点検	ゴミつまりなきこと
フレーム	キャビン固定防振ゴム														★1年に1回点検	ボルトのゆるみ、ゴムのクラックなきこと

●ラジエータ、コンデンサの点検
ラジエータ、コンデンサに付着した泥やゴミはネットを取り外して水道水で洗い落とし、フィンのつぶれはマイナスドライバ等で修正してください。

●キャビン関係のヒューズ、スローブローヒューズおよびリレーは、フロントグリルの内側に設置されています。

エアコン用ファンベルトの点検・調整

ファンベルトの張りは運行前に点検調整してください。



重要

ファンベルトは初期伸びしますので、約50Hr使用後に再調整してください。

■調整方法

テンションプーリを締めつけているナットをゆるめボルトでテンションプーリを動かして調整してください。
調整後はナットで確実に締めつけてください。

●使用ベルト……ＬＡ53－ＡＧ６Ａ

重要

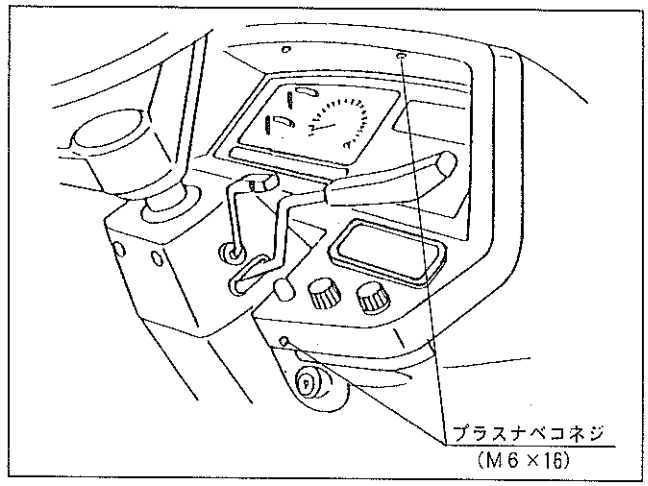
ベルトは必ず指定ベルトをご使用ください。（指定外ベルトを使用すると、ベルト切れをすることがあります。）

ＴＧキャビン　エアコンフィルタの清掃要領

エアコンフィルタの目詰りはエアコンの性能低下の原因になります。性能を維持するためにフィルタ清掃を下記の要領で行ってください。

※エアコンフィルタを取外した状態での使用は絶対にしないでください。

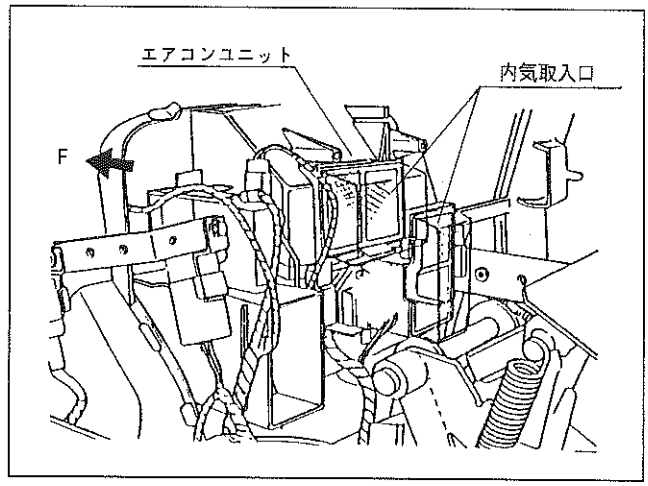
(1) メータパネル取付ビス４本を外し、パネル裏のカプラと回転ケーブルを外してメータパネルを取外してください。



重要

- **メータパネルの操作面は常に上に向いているようにしてください。（故障の原因になります。）**
  清掃作業中はもちろん、取付け、取外しの際にも注意するよう徹底してください。

(2) 内気の取入口の清掃



重要

- **エアコンフィルタは右図の様に２枚あります。**
- **内気取入口のエアコンフィルタを清掃してください。**

※フィルタの目詰りを防止するために、日常よりフロア上部の清掃を行ってください。

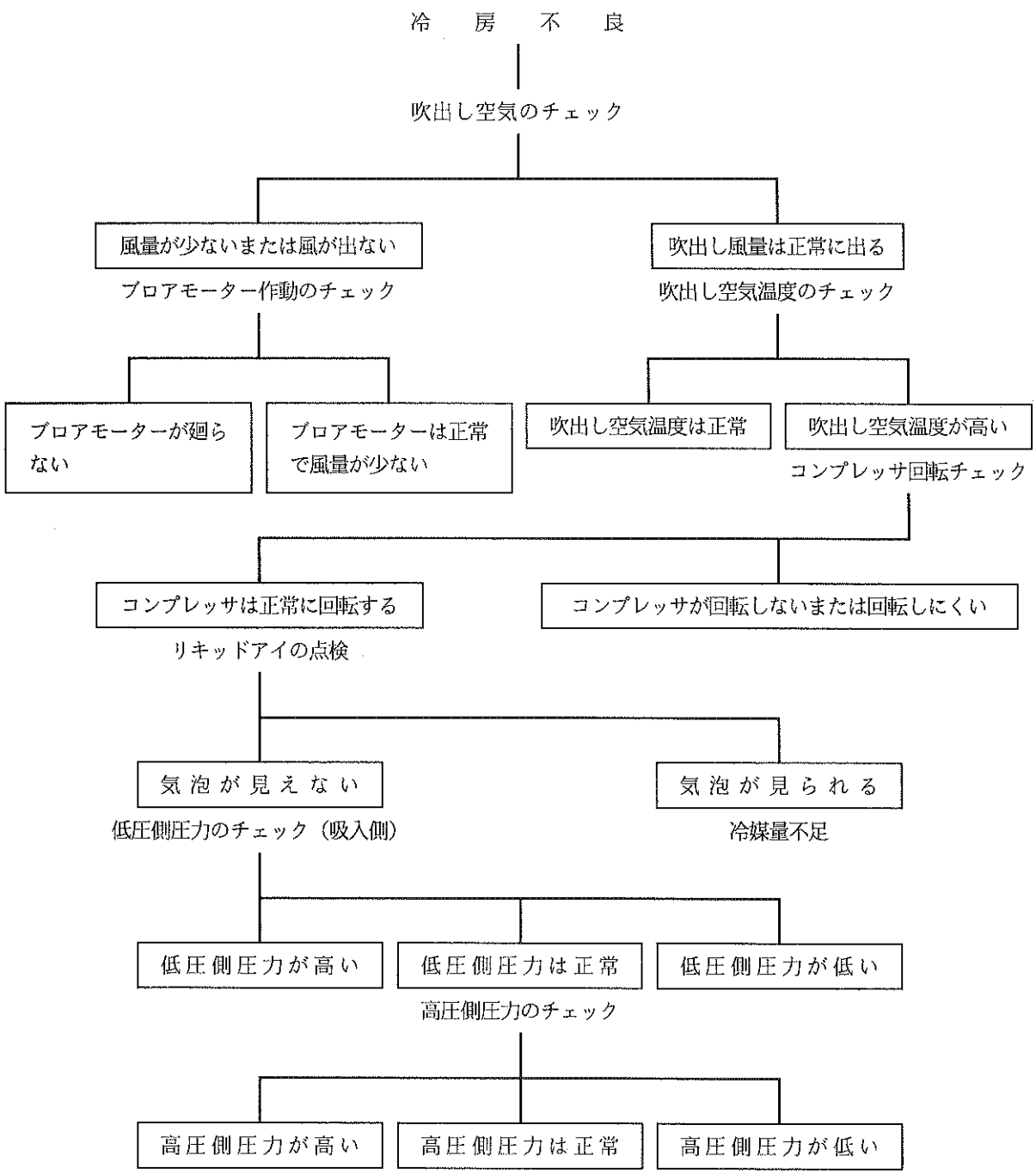
(3) エアコンフィルタの清掃はこの説明書の記載の周期（１カ月毎）で行ってください。

不調時の処置

	故障状況	原因	処置
電装関係	ワーク・ランプが点灯しない	○電球切れ ○ヒューズ断線 ○接触不良	○電球交換 ○配線をチェックしヒューズを交換する ○アースおよびターミナルの点検・清掃
	ワイパーが作動しない	○バッテリの容量不足 ○ヒューズの断線 ○モーターの損傷	○充電する ○配線をチェックしヒューズを交換する ○サービス工場にて交換
	ウォッシャ液が出ない	○ウォッシャ液が少ない ○接触不良 ○モーターの損傷	○規定量まで補給 ○アースおよびターミナルの点検・清掃 ○サービス工場にて交換
	ラジオの音が出ない	○ヒューズの断線 ○本体損傷	○配線をチェックしヒューズを交換する ○サービス工場にて修理
	エアコンが冷えない	○トラブルシューティング早見表を参照してください。	
本体関係	ドアの開きが弱い ドアが走行中開く	○ドアダンパ不良 ○ドアロックとストライカの調整不良 ○ドアロック損傷	○ガス反発力チェック ○サービス工場にて調整 ○部品交換
	リヤウインドが開く リヤウインドの開きが弱い	○ウインドロックとストライカの調整不良 ○ダンパウインドの不良	○サービス工場にて調整 ○ガス反発力チェック

エアコンについて

トラブルシューティング早見表



※サービス工場にご相談ください。

農作業を安全に行なうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。

この項は、トラクタを使用される方のために特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しています。

取扱説明書の内容と併せて熟読の上、事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

■トラクタを使用する人の条件

(1) 農用トラクタを使用する作業（以下「トラクタ作業」という。）に従事する者は、運転する機械の操作に十分熟練した者であること。また、運転者は、必要の運転免許をもっている者であること。

(2) 次に該当する者は、トラクタ作業に従事しないこと。

ア 精神病者

イ 酒気をおびた者

ウ 過労、病気、薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者

エ 妊娠中の者

オ 18才未満の者

(3) トラクタ作業に従事する者は、とくに健康に留意し、適当な休養をとること。

(4) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い危険のないよう作業に従事すること。

ア 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落および落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

交通頻繁な道路を運行する場合および乗用型トラクタによる作業に従事する場合には、ヘルメットを着用すること。

イ 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機もしくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手ふき等が巻き込まれないように適正な帽子および作業衣等を使用すること。

ウ 足の傷害およびスリップ防止の措置

機械の作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏込、踏抜きおよびスリップ等の恐れのある場合には、これらの事故を防止するために適正なはきものを用いること。

エ 粉塵および有害ガスに対する措置

多量の粉塵および有害ガスが発生する作業にあっては、粉塵および有害ガスによる危険防止のための適正な保護具を使用すること。

オ 農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、目、皮膚等からの農薬による傷害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

カ はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音を伴う作業にあっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

キ 保護具の取扱い

安全保護具を、常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

■保守管理

(1) トラクタの運転者は、使用の前後に日常の点検整備を行なうほか、定期的に点検整備を行ない、つねに、トラクタ・作業機およびトレーラーを安全な状態に保つこと。

(2) トラクタの運転者は、トラクタおよび作業機の操縦装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を、常に点検整備し、正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

(3) トラクタおよび作業機の点検整備および修理は交通の危険がなく平坦である等安全な場所でかつ安全な方法で確実に行なうこと。また、屋内でエンジンを運転して点検整備を行なう場合には、換気を適正に行なうこと。

(4) トラクタの点検整備は、必ず原動機を止め、駐車ブレーキをかけ、車止めをつかう等安全な状態で行なうこと。また、油圧装置で重い機械が持ち上げられている下で作業しなければならないときは、ロック装置のあるものについては必ずそれを使用し、かつ、ささえ棒をつかう等急激な落下を防止する措置を講じて行なうこと。

(5) 作業機を上げた位置で点検調整等を行なう場合には、ロック装置のあるものについては、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業について落下防止の措置を講ずること。

(6) 原動機を停止して点検整備中、不注意により原動機が始動しないような措置を講ずること。

(7) トラクタ、トレーラー等を持ち上げ、その下で修理、車輪幅の調整、車輪の交換等を行なう場合は、地面についている車輪には、車止めをかけること。持ち上げるときのささえは、十分な強度と安全性を有することを確認すること。ジャッキを使用する場合は、ジャッキを車輪またはギヤボックス等安全な箇所にかけ、ジャッキの下は平にして、たおれたり、はずれたりしないようにすること。

(8) トラクタおよび作業機にとりつけられている防護装置等を、トラクタおよび作業機の点検整備または修理等で取りはずす場合は、その部分の作動が停止していることを確認したのち取りはずすこと。また、取りはずした防護装置は、必ず復元すること。

(9) エンジンが動いているときまたは過熱しているときに、燃料の補給をしないこと。
また、燃料の補給時または燃料庫付近では、火を使わず、また喫煙しないこと。
夜間に給油を行なう場合は、裸火を照明に用いないようにとくに注意すること。

(10) ラジエータへの給水のために過熱したラジエータキャップをはずすときは、蒸気または熱湯が噴出する恐れがあるので十分注意すること。また、過熱したラジエータに急に冷たい水を入れると、ラジエータが破裂する恐れがあるので注意すること。

(11) バッテリの点検はエンジンの始動前に行なうこと。また、バッテリには、火気を近づけないこと。とくにバッテリの栓をあけるときは、電解液にふれないように注意すること。

(12) 点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、正しく使用すること。なお、トラクタには、点検整備に必要な工具類を常備しておくこと。

■火災防止と危険物の安全管理

(1) 火災防止

ア 作業中可燃物を原動機、火元等に近づけないこと。

イ 作業中火災の起らないように原動機、火元等を安全に取り扱うこと。

(2) 危険物の安全管理

ア 危険と思われる機械は、作業終了後、おおいをする等安全を確保するための措置を講ずること。

イ 引火または爆発の恐れのある燃料等は、作業終了後必ず所定の格納庫に入れるか、危険のない場所におき、火気厳禁の表示をすること。

ウ 可燃性物質は、作業後火気のない安全な場所に移すこと。

■作業機の着脱および調整

(1) 作業機の着脱は、平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行なうこと。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等安全に留意して行なうこと。

(2) 乗用型トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意すること。トラクタと作業の連結に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておくこと。

(3) 作業機の装着が終わったときは、確実に装着されているかピンに抜止ピンがしてあるかどうか確認すること。

(4) ユニバーサル・ジョイントは、作業中できるだけ真直ぐになるようにトラクタに装着すること。

(5) 重い作業機を連結または装着した場合には、トラクタにバランス・ウエイトをつけて、バランスの良い状態を保つこと。

(6) 運転者が運転位置をはなれて、作業機を調整する場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、駆動軸への動力の伝動が断たれていることを確認したうえで行なうこと。

(7) 作業機の下へもぐったり、足を踏み込んだりしないこと。

(8) ロータリ耕作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節すること。

■トラクタを定置作業に使用した時の注意事項

(1) 原動機から作業機への動力伝動は、安全かつ確実な方法によること。人が連結部に接触する恐れがある場合は、そこのベルトに接触しないように配慮すること。また、ベルトの継ぎ目には、突出した金具を使用しないこと。

ベルトの掛けはずしは原則として原動機を停止して行なうこと。

(2) 機械の据付に際しては、確実に固定するとともに作業のために必要な通路および作業場を適切に確保すること。

(3) 室内作業の場合は、適切な換気および採光の措置を講ずること。内燃機関を動力源とする作業または有毒ガスを発生する作業を室内等で行なう場合には、とくに換気を適切にすること。

■乗車等の禁止

(1) トラクタに他人を同乗させないこと。また、作業機に人を乗せないこと。ただし人が座るための座席か、立って乗るためのプラットホームがある場合は、これらの座席またはプラットホームの乗車定員の範囲内の人員については、この限りではない。

(2) 路上走行の場合は、作業機に人を乗せないこと。

(3) 運転者は、トラクタの座席以外の場所に立ったり座ったりして運転しないこと。

(4) 非常の場合を除いて、運行または作業中のトラクタおよび作業機に飛び乗り、または飛び降りをしないこと。

■運転操作

(1) 18歳未満の者は、乗用型トラクタの運転をしないこと。ただし、熟練した大人の監視下の訓練のために運転する場合は、この限りではない。

(2) 機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(3) 補助作業者および他人に危害を及ぼさないように機械を正しく運転すること。とくに土礫をはね飛ばす恐れのあるロータリ耕うん作業の場合は、子供等が近寄らないように注意すること。

(4) 始動および発進にあたっては、次の事項を守ること。

ア エンジンを始動するときは、変速位置を必ず中立にし、P.T.O軸への動力も断っておくこと。

イ 格納庫内でエンジンを始動するときは、換気がよいことを確認してから始動すること。

ウ 始動ハンドルで始動させる場合は、手がすべらないようハンドルをしっかりにぎって逆回転しないように注意して回すこと。

エ 発進に際しては、変速位置と周辺の安全を確認するとともに、作業機やトレーラーに注意し、人と機械の安全を確認したのちに発進すること。

(5) 作業または運行にあたっては、次の事項を守ること。

ア 運転者は乗用型トラクタの運行中には、運転席に着座して行なう以外の状態でトラクタを操作しないこと。また、運行中非常の場合を除き、運転席をはなれないこと。休けい等でトラクタを離れる場合には、安定した場所に置き、作業機をおろしエンジンを止め、かつ駐車ブレーキをかけておくこと。やむをえず傾斜地にトラクタをおく場合には、必ず車止めをしておくこと。

イ 必要以上の高速運転、急発進、急加速、急制動および急旋回は、厳につつしむこと。

ウ トラクタの運行中は、ハンドルを正しく、しっかりにぎって操作し、わき見運転、いねむり運転をしないこと。

エ 高速走行をしている場合は、急ブレーキをかけることをなるべく避け、とくに旋回の時の急ブレーキは、危険であるので厳重にさけること。

オ トラクタ本体に荷台がある場合を除き、小さな荷物といえどもトラクタ本体の上に積まないこと。

カ 動力伝動装置、回転部等の危険な部分には、接触しないよう注意すること。

キ 乗用型トラクタの旋回の際に、作業機に人が接触しないように周囲にとくに注意をすること。

ク 夜間作業においては、とくに安全に留意

し、適正で安全な照明を行なうこと。

ケ 刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行なう場合は、傷害防止のためとくに注意すること。

(6) 路上走行にあたっては、(5)に掲げた事項のほか、次の事項を守ること。

ア 関係法規を守り、安全に運転すること。

イ 他の自動車の運行の妨げとならないように留意すること。

ウ 刃物または鋭利な突起物を有する作業機は、とりはずすこと。やむを得ず装着したまま走行するときは、おおいをつけること。

エ おうとつのはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。

オ 左右の車輪を別々に制動するブレーキがある場合は、左右のブレーキペダルを一体にした状態で走行すること。

カ トラクタより幅が広い作業機を装着して走行する場合は、作業機の左右で見やすい所に赤い標識（夜間は赤燈）および低速であることを明示するマーク等をつけて他の自動車の注意をうながすとともに、運転者は幅が広いことおよび左右に揺動することに留意して運転すること。また、折りたたみ可能な作業機は必ず折りたたむこと。

キ 見通しの悪い交差点または踏切り等を通過することが多い場合は、トラクタに側写鏡を装備する等車体を突き出さずに左右の安全を確認できるような措置を講ずること。

(7) 作業または運行条件の悪い場合には、(5)および(6)で掲げた事項のほか、次の事項を守ること。

ア 土地条件、気象条件等がトラクタ作業に対して良くない場合には、実施の判断、作業方法および装備の選択等に注意して行なうこと。

イ おうとつの道、坂道、溝や川のそばの道および不整地ではスピードを落とし、また、旋回する際には特別の注意を払うこと。

ウ 坂道を登るときまたは溝から出るときは、途中で馬力不足のため変速操作することのないようにあらかじめ適当な変速位置にし、静かに発進すること。

エ 坂道の途中で変速操作は行なわないこと。

オ 坂道を下るときは、登るときの速度またはそれ以下の速度で走行すること。またクラッチを切ったり変速位置を中立にしたりして、ブレーキだけで速度を制御しようとしないでエンジン・ブレーキを利用して運転すること。

カ 降坂時は、必ずエンジン・ブレーキを用いること。また、操行クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

キ 水田への出入、洗車のため川などへの出入等の場合は、できる限りわたり板等を使用し、転覆・転落等が起らないよう細心の注意を払うこと。

ク 急傾斜地を登り降りするときは、作業機をできるだけ低くして重心位置を下げること。また、とくに穴や溝に落ち込まないように注意するとともに、危険な旋回は絶対に行なわないこと。

ケ そばに溝のある道路、または道の片側もしくは両側が傾斜しているところを走行するときには、路肩の軟弱さおよびトラクタの横すべりに注意すること。とくに溝の満水時には注意すること。

コ 溝または畦畔を横断するときおよび軟弱地を通過するときは、スリップおよび転倒を

防ぐために速度を落とす等とくに注意をすること。

サ 溝または軟弱地に落ち込んでスリップしたときは、状況をよく判断して無理な脱出を試みないこと。とくに作業機を取りはずしたり、バランス・ウエイトをはずしたりしないこと。やむを得ずこれらをはずして自力で脱出を試みる場合には、とくに転倒の恐れが大きいので細心の注意を払うこと。

シ 重い荷物のけん引や抜根をするときは、けん引索を緊張させるまで徐々に前進し一旦停止してから静かにけん引すること。また、乗用型トラクタでは、けん引索とトラクタとの連結点を後車軸中心線より低い位置にすること。

ス トラックまたはトレーラーへのトラクタの積み降しをするときは、転倒および落下を防ぐために、わたし板の固定角度、強度、すべり止めおよびトラクタの前後のバランス、速度にとくに注意すること。

サービス資料

■推奨潤滑油一覧表

区分		メーカ名	商品名	出荷時充填油
エンジンオイル ディーゼル		井関農機	キセキ・ディーゼル・エンジン・オイル	○
		他有名メーカのグレードＣＣ品以上使用		
ギヤーオイル	フロントアクスル	井関農機	キセキ・ハイポイド・ギヤー・オイル（#80）	○
		〃	キセキマルチデラックスオイル（#80）	
		他有名メーカのグレードG1.4以上使用		
	ミッションケース	井関農機	キセキU・T・Hオイル	○
一般グリース		協同油脂	ユニルーフNo.2	○
		他有名メーカのリチューム系一般グリース		
燃料		有名メーカ品	ディーゼル軽油 ＪＩＳ２号～３号（３号は厳寒時）	○
不凍液		モービル石油 シェル石油 他有名メーカ品を使用	モービルロングライフクーラント（L.L.C.） アンチフリーズ	○
ウォッシャ液		シェル石油 有名メーカ品	シェルウインドクリーナ	○ （ＣＹ仕様）
エアコンガス		有名メーカ品	カーエアコン・クーラ用ガス　R－134a （ＨＦＣ－134a）	○ （ＣＹ仕様）

■主要諸元

( )内はキャビン仕様　　この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名称			TG21F	TG21F-06	TG23F	TG23F-06
型式名			T0114		T0124	T0124A
駆動方式			4輪駆動			
機体寸法	全長 (mm)		2970			3070
	全幅 (mm)		1345	1345		1375
	全高 (mm)		1940(1930)	1970 (1960)		1985
	軸距 (mm)		1560	1590		1690
	輪距 (mm)	前	960	1080		
		後	1010, 1160			1050～1370
	最低地上高 (mm)		320	345		370
機体質量 (kg)			1200(1360)	1230 (1390)		1260(1420)
エンジン	型式名		E3CE-B		E3CF-B	
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総排気量 (CC{ℓ})		1429 {1.429}		1463 {1.463}	
	出力 (KW{PS}/rpm)		15.4{21.0}/2500		16.9{23.0}/2500	
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は北海道厳寒時)			
	燃料タンク容量 (ℓ)		35			
	バッテリ (V.Ah)		12V・55Ah			
走行部	タイヤ	前輪	6-14 4PR	7-14 4PR		7-16 4PR
		後輪	9.5-22 4PR	9.5-24 4PR		11.2-24 4PR
	クラッチ形式		乾式単板			
	ブレーキ形式		湿式ディスク式			
	かじ取方式		パワーステアリング			
	変速方式		常時かみ合い			
	変速段数		前進：16段　後進：16段 (S型式後進15段)			
	走行速度 (km/h)	前進	別表			
		後進	別表			
最小旋回半径 (m)			2.0			2.15
PTO	回転数 (rpm)		561, 720, 1037, 1246			
	軸寸法 (mm)		6スプライン軸径　35mm			
けん引装置			固定ヒッチ (注文部品)			
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール			
	装着方式		3点リンクJIS1型			

( )内はキャビン仕様　　この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名称			TG25F	TG25NF	TG27F
型式名			T0134		T0144
駆動方式			4輪駆動		
機体寸法	全長 (mm)		3070	2970	3070
	全幅 (mm)		1375	1345	1380
	全高 (mm)		1985	1830	1965
	軸距 (mm)		1690	1570	1700
	輪距 (mm)	前	1080	990	1080
		後	1050～1370	1010・1160	1050～1370
	最低地上高 (mm)		370	250	365
機体質量 (kg)			1265 (1425)	1190	1325 (1485)
エンジン	型式名		E3CF-B		E3CD-B01
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル		
	総排気量 (CC{ℓ})		1463 {1.463}		1498 {1.498}
	出力 (KW{PS}/rpm)		18.4{25.0}/2500		19.9{27.0}/2600
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号・3号 (3号は北海道厳寒時)		
	燃料タンク容量 (ℓ)		35		
	バッテリ (V.Ah)		12V・55Ah		
走行部	タイヤ	前輪	7-16 4PR	6-12 4PR	7-16 4PR
		後輪	11.2-24 4PR	9.5-22 4PR	11.2-26 4PR
	クラッチ形式		乾式単板		
	ブレーキ形式		湿式ディスク式		
	かじ取方式		パワーステアリング		
	変速方式		常時かみ合い		
	変速段数		前進：16段　後進：16段 (S型式後進15段)		
	走行速度 (km/h)	前進	別表		
		後進	別表		
最小旋回半径 (m)			2.15	2.0	2.15
PTO	回転数 (rpm)		561, 720, 1037, 1246		584, 749, 1079, 1296
	軸寸法 (mm)		6スプライン軸径　35mm		
けん引装置			固定ヒッチ (注文部品)		
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール		
	装着方式		3点リンクJIS1型		

( )内はキャビン仕様　　この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

名称			TG29F	TG29F-16	TG31F	TG33F
型式名			T0154		T0164	T0174
駆動方式			4輪駆動			
機体寸法	全長(mm)		3150			
	全幅(mm)		1425	1515	1415	1460
	全高(mm)		1960(1975)	1995		
	軸距(mm)		1750			1780
	輪距(mm)	前	1140	1210	1140	
		後	1050～1370	1100～1380	1100～1420	
	最低地上高(mm)		370	395	385	
機体質量(kg)			1315(1475)	1350(1510)	1345(1505)	1355(1515)
エンジン	型式名		E3CD-B01		E3CD-B	
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総排気量(CC{ℓ})		1498{1.498}			
	出力(KW{PS}/rpm)		21.3{29.0}/2600		22.8{31.0}/2800	24.3{33.0}/2800
	使用燃料		ディーゼル軽油JIS2号・3号（3号は北海道厳寒時）			
	燃料タンク容量(ℓ)		35			
	バッテリ(V.Ah)		12V・55Ah			
走行部	タイヤ	前輪	8-16 4PR			
		後輪	12.4-24 4PR	11.2-28 4PR	12.4-26 4PR	13.6-24 4PR
	クラッチ形式		乾式単板			
	ブレーキ形式		湿式ディスク式			
	かじ取方式		パワーステアリング			
	変速方式		常時かみ合い			
	変速段数		前進：16段　後進：16段（S型式後進15段）			
	走行速度(km/h)	前進	別表			
		後進	別表			
最小旋回半径(m)			2.2			
PTO	回転数(rpm)		584, 749, 1079, 1296		569, 729, 1051, 1262	
	軸寸法(mm)		6スプライン軸径　35mm			
けん引装置			固定ヒッチ（注文部品）			
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール			
	装着方式		3点リンクJIS1型			

■走行速度表（km/h）

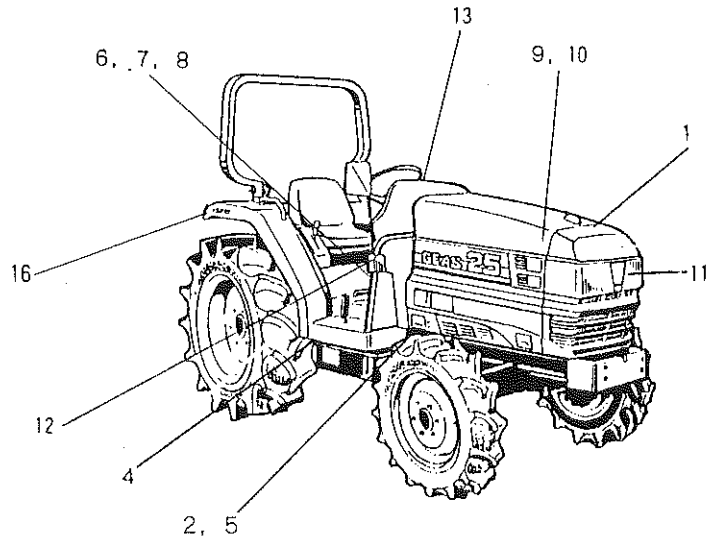
リニアシフト	副変速	主変速	TG21F	TG21F-06 TG23F	TG23F-06 TG25F	TG25F-N
前進	超低速	1	0．23	0．24	0．25	0．23
		2	0．30	0．32	0．34	0．30
		3	0．40	0．42	0．44	0．40
		4	0．51	0．54	0．56	0．51
	低速	1	0．72	0．76	0．79	0．72
		2	0．95	1．00	1．04	0．95
		3	1．23	1．30	1．36	1．23
		4	1．59	1．68	1．75	1．59
	中速	1	1．87	1．98	2．06	1．87
		2	2．48	2．61	2．73	2．48
		3	3．22	3．40	3．54	3．22
		4	4．16	4．38	4．57	4．16
	高速	1	5．83	6．15	6．42	5．83
		2	7．72	8．14	8．49	7．72
		3	10．03	10．59	11．04	10．03
		4	14．50	14．90	14．90	14．50
後進	超低速	1	0．23	0．24	0．25	0．23
		2	0．30	0．32	0．33	0．30
		3	0．39	0．41	0．43	0．39
		4	0．50	0．53	0．55	0．50
	低速	1	0．70	0．74	0．77	0．70
		2	0．93	0．98	1．02	0．93
		3	1．21	1．28	1．33	1．21
		4	1．56	1．65	1．72	1．56
	中速	1	1．84	1．94	2．02	1．84
		2	2．43	2．57	2．68	2．43
		3	3．16	3．34	3．48	3．16
		4	4．08	4．30	4．49	4．08
	高速	1	5．73	6．04	6．30	5．73
		2	7．58	7．99	8．34	7．58
		3	9．85	10．39	10．84	9．85
		4	12．71	13．00	13．00	12．71

注）S型式では、後進で「高速－4」はありません。

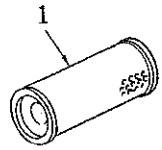
リニアシフト	副変速	主変速	TG27F	TG29F	TG29F-16	TG31F	TG33F
前進	超低速	1	0.25	0.25	0.26	0.25	0.25
		2	0.33	0.33	0.35	0.33	0.33
		3	0.43	0.43	0.45	0.43	0.43
		4	0.56	0.56	0.58	0.55	0.55
	低速	1	0.79	0.78	0.82	0.77	0.77
		2	1.04	1.04	1.09	1.03	1.03
		3	1.35	1.35	1.41	1.33	1.33
		4	1.74	1.74	1.82	1.72	1.72
	中速	1	2.05	2.05	2.14	2.02	2.02
		2	2.72	2.71	2.84	2.68	2.68
		3	3.53	3.52	3.69	3.48	3.48
		4	4.56	4.54	4.76	4.49	4.49
	高速	1	6.40	6.37	6.68	6.31	6.31
		2	8.47	8.43	8.84	8.34	8.34
		3	11.01	10.96	11.49	10.85	10.85
		4	14.90	14.90	14.90	14.90	14.90
後進	超低速	1	0.25	0.25	0.26	0.22	0.22
		2	0.33	0.33	0.34	0.29	0.29
		3	0.43	0.42	0.44	0.38	0.38
		4	0.55	0.55	0.57	0.49	0.49
	低速	1	0.77	0.77	0.81	0.69	0.69
		2	1.02	1.02	1.07	0.91	0.91
		3	1.33	1.32	1.39	1.19	1.19
		4	1.71	1.71	1.79	1.53	1.53
	中速	1	2.02	2.01	2.10	1.80	1.80
		2	2.67	2.66	2.78	2.38	2.38
		3	3.47	3.45	3.62	3.10	3.10
		4	4.48	4.46	4.67	4.00	4.00
	高速	1	6.28	6.26	6.56	5.61	5.61
		2	8.31	8.28	8.67	7.42	7.42
		3	10.81	10.76	11.28	9.65	9.65
		4	13.00	13.00	13.00	13.00	13.00

注）S型式では、後進で「高速－4」はありません。

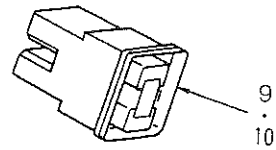
■主な消耗部品一覧表



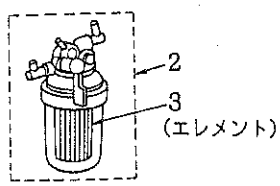
エアクリーナ
エレメント



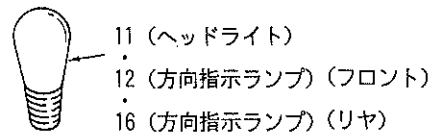
ヒューズ
（スローブロー）



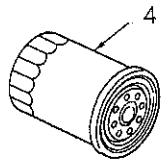
燃料フィルタ



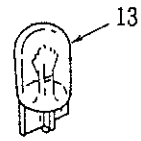
電　球



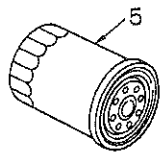
油圧オイルフィルタ
カートリッジ



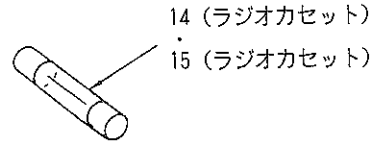
モニタランプ，メータ照明



エンジンオイルフィルタ
カートリッジ

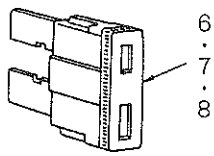


ヒューズ



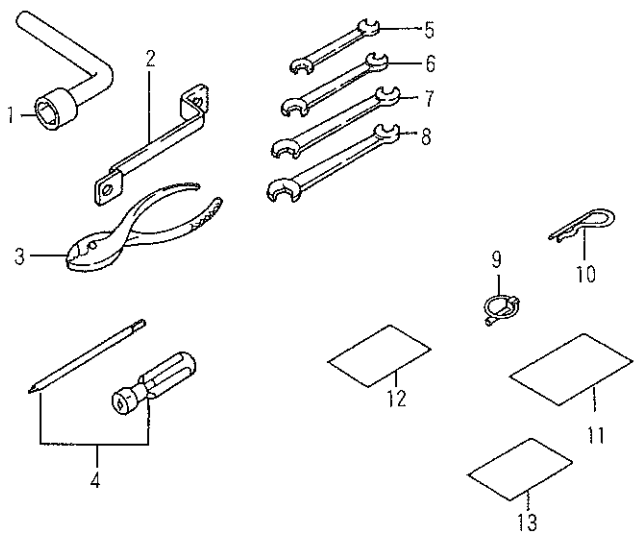
※キャビン仕様

ヒューズ



図番	品　　名	品　　番
1	エレメント	１６５０－１０４－２０３－０
2	フィルタ（フューエル）ＡＳＳＹ	１６５０－１１１－２２０－０
3	エレメント	１５１３－１０２－３２９－０
4	カートリッジ（20）	１６４３－５１５－２０２－１
5	カートリッジ（オイルフィルタ）	６２１３－２４０－００２－０
6	ヒューズ（ブレード／32V05A）	１５６０－６６４－２６４－０
7	ヒューズ（ブレード／32V10A）	１５７５－６２３－０１０－０
8	ヒューズ（ブレード／32V15A）	１５７５－６２３－０１１－０
9	ヒューズ（スローブロー）	１６５０－６５０－２２２－０
10	ヒューズ（スローブロー）	１６５０－６５０－２４３－０
11	バルブ（ランプ　12V45／45W）	１４８８－６２１－２７２－０
12	バルブ（ランプ／12V18W）	３６７６－２９１－２０３－０
13	バルブ（ランプ）ＳＥＴ	１５６０－６５８－２８０－４
14	ヒューズカン（250V　１A×30）	１６５０－６５８－０２１－０
15	ヒューズカン（250V　５A×30）	４３３５－６０１－００８－０
16	バルブ（ランプ／12V21W）	１５６４－６５４－２１３－０

■標準付属品一覧表



番号	品　　名	個数
1	ボックススパナ（22）	1
2	メガネレンチ	1
3	プライヤ	1
4	サシカエドライバ　ＡＳＳＹ	1
5	リョウクチスパナ（マル）　10×12	1
6	リョウクチスパナ（マル）　14×17	1
7	リョウクチスパナ（マル）　19×22	1
8	リョウクチスパナ（マル）　24×27	1
9	リンクピン	2
10	キングピンヨウヘヤーピン	2
11	トリアツカイセツメイショ	1
12	サービスブック	1
13	カード（リサーチ）	1

注文部品一覧

トラクタ本体装備の注文部品の一覧を示します。
この他、キセキではいろいろな種類の作業に適応できる作業機/アタッチメントを取り揃えております。
詳しくはお買い上げさきにお問い合わせください。

	商品コード	品　　名	用　途　・　仕　様	適応機種
ウエイト	1560-940-200-40	ウエイト(16)　SET	バンパウエイト１個（最大５個まで装着可能）	TG21~TG33
	1560-940-220-40	ウエイト(66)　SET	後輪ウエイト（66kg：ベースのウエイト）	TG21~TG33
	1560-940-230-40 1560-940-240-40 1560-940-250-40 1560-940-260-40	ウエイト(60)　SET ウエイト(120)　SET ウエイト(180)　SET ウエイト(240)　SET	後輪追加ウエイト（ 60kg：左右各１個） 後輪追加ウエイト（120kg：左右各２個） 後輪追加ウエイト（180kg：左右各３個） 後輪追加ウエイト（240kg：左右各４個） （上記ウエイト装着には 1560-940-220-40 ウエイト(66) SET が必要です。）	TG21~TG33
サブコン	1650-511-900-00	バルブ(リモート)　SET	外部油圧取り出し：１連（メカ油圧用）	TG21/23(ﾒｶ)
	1650-511-910-00	バルブ(リモート/WX)　SET	外部油圧取り出し：１連（WX用）	TG21/23(WX)
	1652-511-900-00	バルブ(リモート)　SET	外部油圧取り出し：１連（メカ油圧用）	TG25~TG33(ﾒｶ)
	1652-511-910-00	バルブ(リモート/WX)　SET	外部油圧取り出し：１連（WX用）	TG25~TG33(WX)
	1650-511-920-00	バルブ(リモート/2)　SET	外部油圧取り出し：２連（全）	TG21~TG33
３P関係	1650-514-900-00	リンク(トップ)　SET	普通３Ｐ作業機用トップリンク	TG21~TG33
	1650-516-900-00	ヒッチ(トレーラ)　SET	けん引作業機用ヒッチ	TG21~TG33
	1560-520-900-00	リンク(ドローバ)　SET	ドローバヒッチ （ドローバヒッチ装着には 1650-516-900-00 ヒッチ（トレーラ）SET が必要です。）	TG21~TG33
	1650-505-900-00	ブラケット(TG-RKA)　SET	ＴＧにＲＫＡロータリを取り付けるために必要なリヤカバー回転センサ部のブラケットです。	TG21~TG33
電装関係	1650-654-710-00	ランプ(ワーキング)　SET	ロプス機、フェンダ上取り付け用ワークランプ（１個）	TG21~TG33
	1650-654-700-00	ランプ(ワーキング)　SET	ロプス機、フレーム(アッパ)部取り付け用ワークランプ(１個)	TG21~TG33
	1650-654-910-00	ハーネス(WX/アウトレット)　SET	WX型式のロプス機で、３Ｐリンク水平シリンダーを車外（３Ｐリンク側）から作動させるスイッチ／ハーネスのＳＥＴです。 作業機着脱が楽に出来ます。 （キャビン機は標準装備されています。）	TG21~TG33
その他	1560-680-210-00	ミラー(156X121, L)　SET	ロプス機の左側バックミラー	TG21~TG33
	1650-631-900-00	ステップ(サブ/RH)　SET	ロプス機の右側サブステップ	TG21~TG33
	－	補助車輪	多種取り揃えておりますので、お買い上げ先に申し付けください。	TG21~TG33
	9638-187-000-00	サイバイザー	ロプス用サンバイザー（ジョーニシ製）	TG21~TG33

→ 9638-193-000-00 に代替 (TK, TG-3 と共用化) ※インプル扱い

索　引

〔あ〕
ＩＱシフト……15, 65, 96
ＩＱ４駆……14, 65, 95, 96
ＩＱ４駆モニタランプ……27
アクセルペダル……32
アクセルレバー……32, 84
上げ位置調整ダイヤル……54
アユミ……9
安全表示ラベル……16, 17
安全フレーム……5, 15, 22, 23

〔い〕
インディペンデントＰＴＯ……30

〔え〕
エアクリーナ……75
エアコン……101, 106, 113
Ｓ型……15, 65, 96
エレメント……76
エンジン……87, 88, 89
エンジンオイル……70, 73, 113
エンジンオイルフィルタ……73
エンジン始動……5, 41
エンジン停止……42

〔お〕
ＯＮ　ＯＦＦスイッチ……30

〔か〕
傾き調整ダイヤル……58
カバー回動スイッチ……60
感度スイッチ……56, 58

〔き〕
キャビン……15, 22, 97
給油給水……70

〔く〕
空気圧……84
空気抜き……72, 77
クラッチカットオフアーム……33
クラッチペダル……33, 82, 89
グリス注入……78, 113

〔け〕
Ｋ型……14, 64, 91
けん引作業……11, 50
減速ボタン……34

〔こ〕
耕深調整ダイヤル……56, 60
小型特殊自動車……1
コントロールレバー……46, 53
コンビネーションスイッチ……24

〔さ〕
サイドウインド……98
サイドカバー……39
作業灯……11, 99
３点リンク……47

〔し〕
シート……39
シートベルト……39
始業点検……40
主変速自動変速機能……35
主変速レバー……34
商品の保証……21
消耗部品……119
Ｇ型……30
自動回動ロータリ……60
準備状態……52
上昇ランプ……55

〔す〕
水平切換スイッチ……58
水平手動スイッチ……48, 59
水平ロータリ……58
ステアリング……84, 90
スローブローヒューズ……80
スーパーフルターン……14, 64, 91

〔せ〕
制御（ＷＸ）……52
製造番号……21
制動……45

〔そ〕
走行……6
走行速度……62, 117, 118
増速ボタン……34

〔た〕
WX型……51, 92, 93
暖機運転……42

〔ち〕
チェックスイッチ……35, 59
チェックチェーン……47
駐車……45
注文部品……121
長期格納……85
チルトペダル……38

〔て〕
定期点検……68
デセラ機構……57
デフロックペダル……38, 63
電子油圧装置……51, 92, 93
電装品……18, 91, 105

〔と〕
トーイン……83
トップリンク……49
トラクタメータ……25
ドア……98

〔な〕
ナンバープレート……2

〔に〕
日常格納……85

〔ね〕
燃料……70, 72, 113
燃料フィルタ……72
燃料ホース……72

〔は〕
発進走行……44
販売型式名……21
バキュエータバルブ……75
バックアップスイッチ……54
バッテリ……18, 81
バランスウエイト……50
パーキングレバー……34

〔ひ〕
ヒューズ……79, 97
標準付属品……120
PTO切換スイッチ……30
PTO逆転切換レバー……37
PTO軸回転速度……62
PTO表示灯……31
PTO変速レバ……37

〔ふ〕
ファンベルト……83, 103
フィンガップレバー……53
副変速レバー……35
不凍液……75, 113
ふれ止めスプリング……49
フロントアクスルオイル……70, 77, 113
フロントウォッシャ……100, 113
フロントグリル……39
フロントワイパ……100
ブースターケーブル……20
V型……14, 65, 95, 96
ブレーキペダル……33, 82, 89

〔へ〕
変速……44

〔ほ〕
補修用部品……21
補修用部品の供給年限……21

〔ま〕
マルチアイ……27, 93, 94

〔み〕
ミッションオイル……70, 76, 113

〔め〕
メインスイッチ……24

〔も〕
モニタランプ……26

〔ゆ〕
油圧オイルフィルタ……77
油圧降下速度調整つまみ……46, 54
油圧装置……46, 90
U型ロータリ……60

〔よ〕
4WD切換スイッチ ……26
4WDロックスイッチ ……27

〔ら〕
ラジエータ……75
ラジオカセット ……100

〔り〕
リザーブタンク ……74
リニアシフトレバー ……36
リフトロッド ……48
リフトロッド取付け穴 ……49
リヤウインド ……99
リヤカバーセンサ ……57
輪距……67

〔る〕
ルームランプ ……99

〔れ〕
冷却水……74

〔わ〕
割り込み表示 …… 28, 29

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。